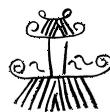


唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅱ

—土器編 2 (弥生・搬入・特殊) —



田原本町教育委員会

2016.3

例 言

1. 本書は、唐古・鍵遺跡の出土品のうち、特に重要と思われる遺物について報告する『唐古・鍵遺跡考古資料目録』の第2冊目「土器編2(弥生・搬入・特殊)」である。
2. 本書に収録した遺物は、唐古・鍵遺跡第13次から第118次までの調査で出土した遺物の中から選定したものである。発掘調査は、田原本町教育委員会が実施したもので、田原本町教育委員会所蔵の遺物である。
3. 本書で取り扱っている弥生土器・古式土師器については、土器編年の基準となる資料であり、遺物管理番号(Mコード)としては「MP-編年-〇〇〇〇」としている。
4. 唐古・鍵遺跡第13次調査の出土土器の遺構名の番号については、概報・報告書では2桁で表記(S D-02等)していたが、本目録では100番台とし、3桁(S D-102等)に改めている。
5. 遺物写真の撮影は、亀村俊二・佐藤右文・田原本町教育委員会事務局文化財保存課職員による。
6. 附の遺物一覧表の作成は、清水琢哉・柴田将幹・西岡成晃・江浦至希子がおこなった。
7. 遺跡の調査概要と出土資料の全容については、『唐古・鍵遺跡考古資料目録Ⅰ』(2015)を参照されたい。
8. 本書の第Ⅰ・Ⅱ部は、藤田三郎が執筆し、清水・柴田・江浦・小松博子・榊原初美・中谷利枝・服部文子の協力を得た。編集は、藤田・西岡がおこなった。

目 次

第 I 部 個別資料の概要

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要…………… 1
2. 搬入土器の概要…………… 12
3. 特殊土器ほかの概要…………… 16

第 II 部 考古資料目録

凡例

1. 弥生土器…………… 22
2. 搬入土器…………… 56
3. 特殊土器…………… 74

附

1. 遺物図版…………… 120
2. 遺物一覧表…………… 124
3. 文献(発掘調査関係)…………… 136

第 I 部 個別資料の概要

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要

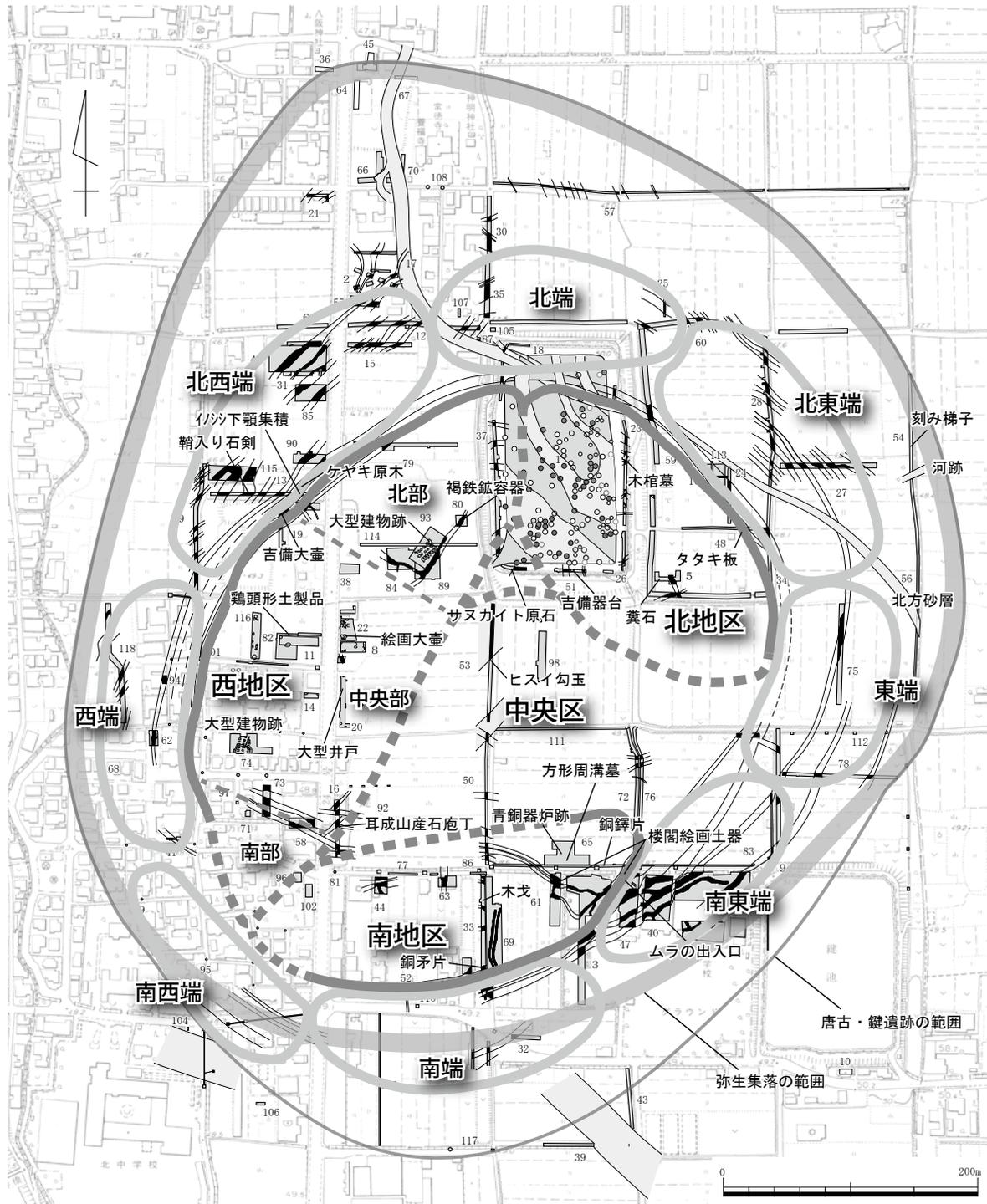
(唐古・鍵遺跡における弥生土器編年のあゆみ) 唐古・鍵遺跡は、弥生時代の全期間を通して継続的に営まれている中核的な大集落であり、居住区内での発掘調査では、土器が1㎡あたり遺物箱(W38cm×D58cm×H15cm)2箱出土する。このことは、集落内で多量の土器が継続的に生産・消費されていたことを示しており、この遺跡には土器づくりの連続性と熟練度などの技術体系があったことを示している。消費地(食器)としての需要、木製品との補完性、搬入土器との併行関係など生活様式や交流を考える上で重要な位置を占めている。さらには遺構の遺存状態が良好であることから、井戸や環濠などから完形の一括土器群が出土すること、遺構の切り合い関係や堆積層序の関係から土器の前後関係が把握できること、また、これらが量的に確保(検証)されていることなどさまざまな点において、土器編年を構築する上で最も条件が整った集落であると言える。

さて、唐古・鍵遺跡における土器編年の構築は、1936・1937年の唐古池の発掘調査(第1次調査)の成果が大きい。この調査では、弥生時代前期から後期まで全期間の膨大な土器が出土した。これら土器は、竪穴(土坑)出土の完形品を中心とした良好な一括資料であり、弥生時代研究の黎明期にあっては傑出した資料群であった。これらの弥生土器を基に、小林行雄は弥生土器を5つの様式に分けた。この唐古・鍵遺跡出土の弥生土器によって構築された様式は、さらに佐原真によって近畿地方全域まで整備された。その後、近畿地方の各地域では発掘調査の増加に伴い、良好な弥生土器の一括資料が蓄積されるようになり、寺澤薫・森岡秀人はこれまでの様式を地域ごとに検証・発展・再構築させる『弥生土器の様式と編年 近畿編 I』(1989)を編集した。大和地域では、松本洋明・藤田三郎が唐古・鍵遺跡の発掘調査資料を中心に6つの大様式とさらに細分された16小様式に分けた。その後、大和弥生文化の会では『奈良県の弥生土器集成』(2003)をまとめ、6大様式の細分を16から21小様式へと進め、大和(唐古・鍵遺跡)における土器様式はほぼ整備されるに至った。

第1表 弥生土器の編年一覧表

時 期	弥生時代																古墳時代			
	前期		中期								後期						初頭	前期		
	前半	後半	初頭	前葉		中葉				後葉		初頭	前半	後半						
大和様式	I		II				III				IV		V		VI				庄内	布留
	I-1	I-2	II-1	II-2	II-3		III-1	III-2	III-3	III-4	IV-1	IV-2	V-1	V-2	VI-1	VI-2	VI-3	VI-4		
	a	b	a		b	a														
畿内様式	一		二		三		四		五		庄内									
	古	中	新	古	新	古	新	古	新	N	D	I	E							
小林行雄様式	第一様式		第二様式				第三様式				第四様式		第五様式				壺式			
様式を代表する土器	(大形) 広口壺		広口長頸壺		細頸壺		(大形) 細頸壺				短頸壺		短頸壺		長頸壺		広口壺			
	へら描文壺		大和形壺				水差形土器				台付無頸壺		ケズリ壺		叩き壺		台付壺			
			四分形壺		大和・瀬戸内折衷壺				芝形壺		大形鉢		水平縁高坏・大形器台				高坏・手焙形土器			
主な装飾手法	へら描直線文		櫛描直線文		棒状浮文				簾状文		凹線文・鋸歯文		円形浮文				円形透孔			
	彩文		(横型) 流水文		(縦型) 流水文				斜格文・簾状文		赤色円形文		雲状透孔		へら記号		分割成形			
	木葉文		扇形文						特殊タタキ		絵画・円板充填技法									

第I部 個別資料の概要



第1図 唐古・鍵遺跡の調査成果と地区区分図 (S=1/5,000)

現在では、この様式をもとに、唐古・鍵遺跡の遺構・遺物の所属時期を明確にし、整理を進めている。

唐古・鍵遺跡では、集落全域で良好な土器が多数出土しているが、本書に掲載した土器136点はそれらのごく一部であり、ほぼ完形の土器を中心に掲載した。また、出土した主要遺構については、第2表にまとめた。以下、様式ごとに土器の出土状況と土器の特徴について概説する。

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要

第2表 弥生・搬入土器対応の地区・時期別遺構所属一覧表

	北地区・北端・北東端・中央区	西地区・北西端	南地区・南東端・東端
第Ⅰ-1-a様式	第45次(SR-201) 第66次(SR-201)	第19次(SK-1103) 第82次(SK-219)	
第Ⅰ-1-b様式	第53次(SX-201)		
第Ⅰ-2-a様式		第20次(SK-215) 第37次(SD-2202 第3層)	
第Ⅰ-2-b様式	第23次(SK-153)	第16次(SX-102 黒粘Ⅲ) 第37次(SK-2204)	
第Ⅱ-1-a様式	第23次(SK-154)	第82次(SK-203)	
第Ⅱ-1-b様式	第27次(SD-201)	第82次(SK-203)	第33次(SK-208)
第Ⅱ-2様式	第23次(SK-123)	第19次(SD-1203) 第22次(SK-1201)	
第Ⅱ-3-a様式		第22次(SK-1101) 第29次(SD-107)	
第Ⅱ-3-b様式	第23次(SK-151) 第23次(SD-103)	第37次(SK-2116 第3・4層) 第74次(SK-104)	第33次(SD-202A) 第50次(SD-103 第3層)
第Ⅲ-1様式	第26次(SK-1102) 第23次(SK-117)	第13次(SD-106D) 第20次(SX-101 下層)	
第Ⅲ-2様式		第20次(SX-101 上層) 第74次(SK-113)	
第Ⅲ-3様式		第37次(SK-2130) 第82次(SK-109)	第33次(SK-124) 第69次(SK-1137)
第Ⅲ-4様式		第22次(SK-105) 第37次(SK-2104)	第40次(SD-106)
第Ⅳ-1様式	第48次(SX-1102)	第13次(SK-107) 第37次(SK-2120)	第33次(SK-120)
第Ⅳ-2様式	第18次(SR-3101)	第13次(SD-102 植物層) 第19次(SD-204 第4(下)・5層)	
第Ⅴ-1様式	第51次(SK-104)	第37次(SK-2103)	第40次(SD-101 第7層) 第47次(SD-2101 第7～8層)
第Ⅴ-2様式		第20次(SK-104)	
第Ⅵ-1様式		第37次(SK-2122)	
第Ⅵ-2様式			第33次(SK-125)
第Ⅵ-3様式	第24次(SD-107)	第13次(SD-104 上層) 第14次(SK-106)	第33次(SK-114)
第Ⅵ-4様式 庄内式	第34次(SD-102)		第40次(SK-101) 第40次(SD-101 第3層)
布留0・1式	第23次(SK-124) 第48次(SK-1104)	第38次(SK-101)	第47次(SD-2101 第3・4層)

※ 本書掲載の土器が出土した遺構の中で、代表的または一括性の高い遺構を一覧表にした。
弥生土器（ゴシック体）、搬入土器（明朝体）、**弥生・搬入土器両者（太ゴシック体）**

第 I 部 個別資料の概要

(大和第 I 様式) 大和第 I 様式は、第 I-1 様式と第 I-2 様式に、さらにこの各様式は a と b の 2 つに細分される。大和第 I-1-a・b 様式の土器は、西地区の土坑(第 14・82 次調査)や北地区の河跡(第 1・45・66 次)、中央区の落ち込み(第 53 次)などから出土しており、集落形成期の限られた地区での出土である。完形の広口壺が多いのが特徴である。唐古池の第 1 次調査時のものを含めて、このような完形で出土する壺の性格づけはできていない。第 66 次調査の S R-201 では、縄文時代晩期の凸帯文深鉢(縄文 001)と大和第 I-1 様式の壺(弥生 002)が共伴している。このような共伴関係は、第 1 次調査の南方砂層においてもみられ、唐古・鍵遺跡でも最も古い様相を示す。この他、晩期の凸帯文土器は、北・西・南の各地区において僅かに出土するが、弥生時代前期に比して圧倒的に少なく、総数で 30 点程度しか出土していない。これら土器片は小破片で、包含層での混在資料も多く、良好な共伴資料は上記資料となる。

大和第 I-2-a 様式の土器には、西地区の第 20 次調査 S K-215 出土資料がある。本土坑は斧柄未成品が最下層にあり、木器未成品を貯木するための土坑(木器貯蔵穴)であったが、開口した状態で土器などが一括投棄されたものである。このような土坑の廃棄パターンは、本遺跡ではよくみられるもので、良好な一括資料を提供している。大和第 I-2-b 様式の土器には、西地区の第 16 次調査 S X-101 黒粘Ⅲ・北地区の第 23 次調査 S K-153 出土資料がある。

大和第 I 様式の器種構成は、壺と甕が大半を占め、僅かに壺蓋、甕蓋、鉢、高坏がこれに加わる。鉢と高坏については、これに相当する木製品が出土しており、依存していたと推定される。

大和第 I-1 様式の壺では、口頸部は短く外反し、胴部は縦長と横長の球形の 2 種がある。蓋との関連において、口縁部に紐孔をもつ。文様は、口頸部と頸胴部を画するヘラ描直線文が主体で、赤色彩文やヘラ描きの木葉文、山形文、重弧文などを描くものもある。また、大形壺(弥生 011)も定量的にあり、この様式の特徴である。甕は、口縁部径と胴部径の差が少ない倒鐘形を呈し、口縁部は短く外反する。口縁部と胴部の界に段・ヘラ描直線文を施す。

大和第 I-2-a 様式の壺では、口縁部が上方へ拡大するに伴い頸部も長くなる。頸部への施文はヘラ描直線文が多条化するとともに、削出凸帯第 II 種が盛行する。彩文は衰退する。貼付凸帯も僅かながら存在する。甕は口縁部が短く屈曲した倒鐘形で、口縁端部は丸くなる傾向にある。鉢は増加の傾向を示す。大・中・小の三種で、形態は塊形の体部に外反する口縁部をもつものが多い。高坏は少ない。

大和第 I-2-b 様式の壺では、胴部の文様帯が消失するもの、あるいはヘラ描直線文が少条となるもの、ヘラ描直線文の間隔が広がるものなど文様の定型化が崩れる傾向がみられる。

甕や鉢は、胴部上端のヘラ描直線文が多条化する一方で、無文のものや口縁部に刻目を施さないものも定量化する。

(大和第 II 様式) 大和第 II 様式は、第 II-1・II-2・II-3 様式に分かれ、さらに第 II-1 様式と第 II-3 様式は a と b に細分される。大和第 II 様式の資料は、大環濠掘削までの時期の遺構で、木器貯蔵穴や土坑、環濠から出土し、集落全域で確認できる。遺構数も前期から増加する。大和第 II-1 様式の資料としては北地区の第 23 次調査 S K-154・西地区の第 82 次調査 S K-203・南地区の第 33 次調

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要

査S K-208、大和第Ⅱ-2様式の資料としては西地区の第22次調査S K-1201・北西端の第19次調査S D-1203・北地区の第23次調査S K-123、また、大和第Ⅱ-3-a様式の資料としては西地区の第22次調査S K-1101、大和第Ⅱ-3-b様式には北地区の第37次調査S K-2116など各出土資料がある。

大和第Ⅱ様式の様式的特徴は、地域的な特色の発現期であり、遠賀川式土器といわれる西日本を包括的にとらえられる一群の土器から、各地域で独自の展開をする土器群を指している。器種としては壺・甕・鉢が主要構成で、まだ、高坏の占める比率は少ないが、前様式からは増加傾向がみられる。器種を超えた土器全体の様相としては、器壁が厚く、黒褐色を呈し、太いミガキが施されている。

壺では、第Ⅰ様式にみられた大形壺や蓋付きの広口壺が消滅する。また、広口壺頸部の長頸化が進み、文様ではへら描直線文を深く描くものと浅く描くものの二者や、直線文の間隔が広がるものもみられ、多条化と無紋化という対極的なへら描直線文の終末の様相がみられる。その後、大和第Ⅱ-2様式には、へら描直線文の多条化から櫛描文が成立することになる。櫛描文は、太描きの稚拙な櫛描文が初期段階に現れ、その後、精緻な櫛描文と併存し、一般的な櫛描文が成立する。櫛描文間にへら描直線文（付加条の沈線文）やミガキ（研磨）を挿入するものが多い。櫛描直線文が多用されるが、そのほか、波状文や流水文、扇形文もみられるようになる。

甕や鉢は、へら描文で飾るものが消滅し、飾らない無文化のものへ移行する。また、甕ではハケを多用する新たな大和形甕が出現し、この形式の甕が定型化する。

（大和第Ⅲ様式） 大和第Ⅲ様式は、弥生時代中期の盛行期の土器様式で、従来の第三様式とほぼ同じものである。第Ⅲ-1～Ⅲ-4様式の4つに細分される。本様式の土器は、井戸資料が多く、集落全域で確認される。大和第Ⅲ-1様式の資料は、西地区の第20次調査S X-101下層・S K-103、大和第Ⅲ-2様式の資料は、西地区の第20次調査S X-101上層・第37次調査S K-2114、大和第Ⅲ-3様式の資料は、西地区の第19次調査S K-105・第37次調査S K-2130・南地区第33次調査S K-124、第Ⅲ-4様式の資料は、西地区の第22次調査S K-105・北地区第23次調査S K-113などの出土資料がある。

壺の分化が進み、有段口縁壺・直口壺・小形細頸壺・水差形土器・無紋の広口壺など新しい形態の壺が出現し、また、甕では瀬戸内系甕、鉢では台付鉢、高坏では水平縁口縁高坏など各器種においても同様に新たな形態が生まれ、弥生時代を通じて最も多器種になり大形化した土器で構成される様式である。広口壺や広口長頸壺では、頸胴部界の屈曲が明瞭になり、ミガキは胴部中央を横位方向、下半を縦位方向に2工程のミガキ調整が成立する。この手法は、鉢や高坏など各器種にみられるようになる。また、壺や鉢においては、櫛描文が発達し、壺では胴部上までであった施文範囲が中央部まで拡大し、櫛描文の文様種（直線文・波状文・簾状文・斜格文など）と施文部位が確立する。また、壺や鉢の口縁部には貼付凸帯が付加され、櫛描文と組み合わせられ構成される。このように、大和第Ⅲ様式は櫛描文土器を盛用させた時期といえるが、大和第Ⅲ様式の後半にあたる大和第Ⅲ-3・4様式には凹線文という新しい文様が採用される。ただし、この文様は、大和においては鉢や高坏など限られた器種で使用されており、全体に占める割合は少ない。また、土器づくりにおいては、タタキ技法や円盤充填技法、ケズリ技法が導入される。甕では、地域的な特徴が発現さ

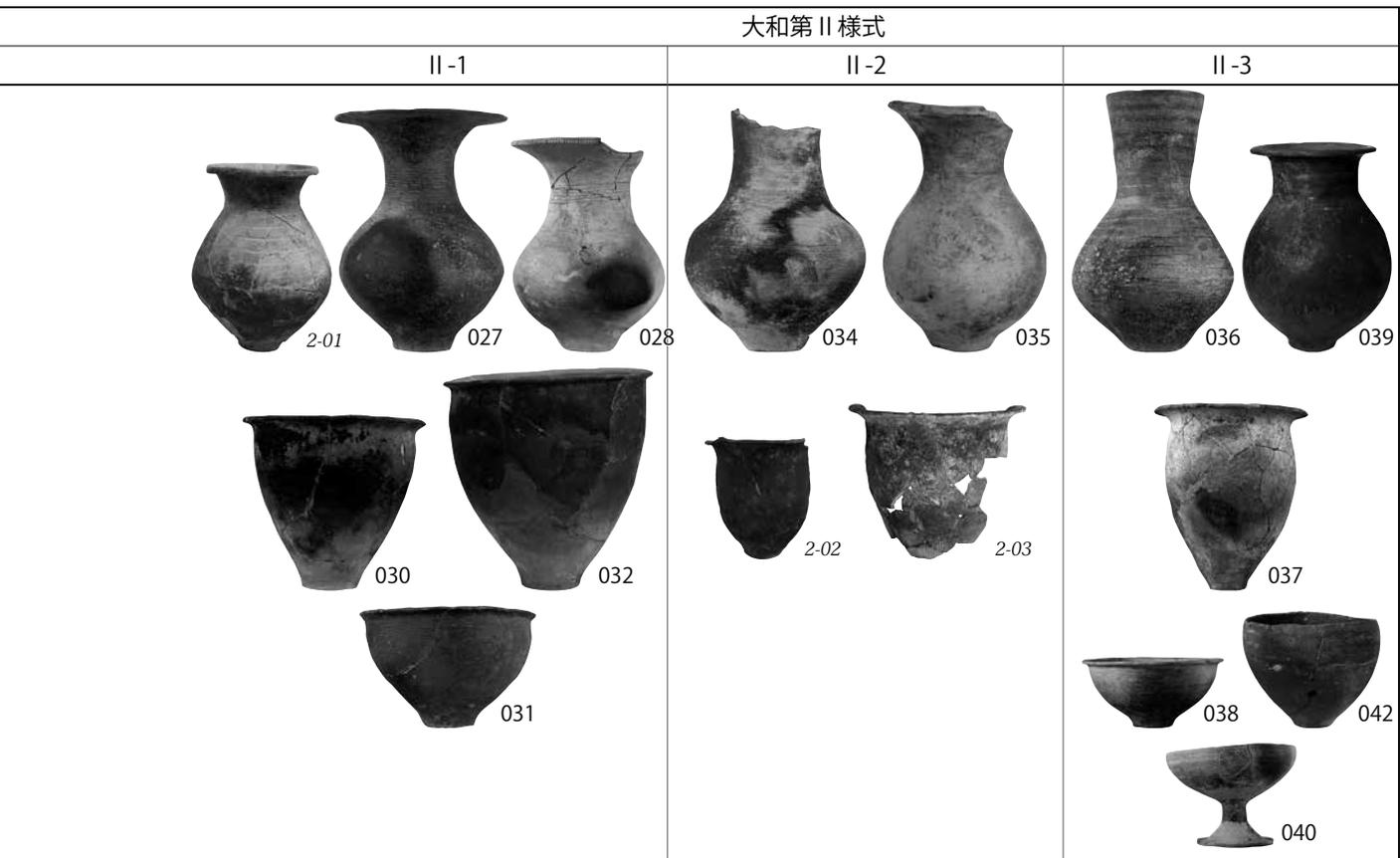
第 I 部 個別資料の概要

		大和第 I 様式	
		I-1	I-2
壺		 002	 004
		 017	 023
			 020
甕		 005	 013
			 019
鉢		 007	 026
			 022
高坏他		 009	

		大和第 III 様式	
		III-1	III-2
壺		 3-01	 043
			 3-03
甕		 045	 3-04
		 046	 049
鉢		 047	 3-05
		 048	 3-06
高坏他		 3-02	 050
		 044	 3-07
			 3-08

第 2 図 唐古・鍵遺跡の土器編年 1

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要



※ ゴシック体数字は第II部「1. 弥生土器」の掲載番号、明朝斜体数字は本表のみの掲載番号、遺物写真は1/10縮尺

第 I 部 個別資料の概要

れる状況にあり、奈良盆地の北和から中和にかけて分布する大和形、南和から葛城地域に分布する四分形、盆地東南部に分布する芝形など、それぞれ特色をもつ甕が存在するようになる。このような壺や鉢、甕にみられる文様・手法の混合が大和の第Ⅲ様式の特徴といえよう。

第Ⅲ様式の土器は、一般に細かい砂粒を混在させており、ミガキも多用するせいか砂粒は目立たなくなる。また、前様式より土器の器壁は薄くなり、色調も暗褐色から淡褐色、あるいは淡赤褐色を呈する土器が多くなる。特に大和第Ⅲ-1・2様式に比べ大和第Ⅲ-3・4様式ではその傾向が強くなる。

(大和第Ⅳ様式) 大和第Ⅳ様式は、第Ⅳ-1様式と第Ⅳ-2様式に細分される。大和第Ⅳ-1様式は、西地区の第22次調査S K-101・南地区の第33次調査S K-120などの井戸資料、大和第Ⅳ-2様式には、西北端の第19次調査S D-204第5層の環濠資料がある。この資料は唐古・鍵遺跡の環濠を埋没させた洪水の砂層資料であり、集落各所で検出されているもので、第1次調査の北方砂層もこれにあたる。

大和第Ⅳ様式は、広口壺・有段口縁壺・細頸壺・無頸壺・水差形土器・甕・鉢・高坏に、新たに短頸壺、台付無形壺、器台が出現し、全体を構成する。土器全体の小形化、凹線文の盛行と無文化により、櫛原体でなくハケ原体で施文するものなど櫛描きの施文法の退化・衰退が進む。また、タタキ・ケズリ技法の多用と絵画土器の盛行、台付壺や台付鉢、高坏・器台など供献機能の顕在化もみられるようになる。脚台の透孔は、前様式にみられたような多数の孔をもつものでなく、4～6方向の縦列にあけるようになり、透孔に規則性がでてくるようになる。土器の色調は、赤褐色を呈するものが多くなり、第Ⅲ様式とは大きく異なる。この時期以降の土器は、同様の色調である。

(大和第Ⅴ様式) 大和第Ⅴ様式は、第Ⅴ-1様式と第Ⅴ-2様式に細分される。大和第Ⅴ-1様式の資料には西北端の第13次調査S D-102・第19次調査S D-204第4（下）層・第47次調査S D-2101第7層の環濠資料、大和第Ⅴ-2様式には第20次調査S K-104の井戸資料がある。この時期の資料は、集落各所で出土し、総量的にもかなり多くなる傾向がみられる。特に環濠資料は、前述の第Ⅳ-2様式の環濠埋没砂層資料の上部を占めるもので、上下関係を押さえられる良好な資料となる。

本様式の特徴は、鈍重な感のする土器群で、やや低温焼成ぎみでいわゆる「焼きがamai」ととられるような暗褐色や灰褐色を呈し、掻き取るようなケズリのわりに器壁が厚い、稚拙な土器づくりにみえる土器群であり、このような土器には短頸壺や中形甕がある。その一方で、全く異なるような精緻ともいえる土器づくりもおこなわれている。それが顕著にでるのは、高坏である。高坏の一部には前述のような特徴を有するものもあるが、概して作りがシャープでミガキを丁寧に施し、赤色塗彩をおこなうものがある。脚部の裾はそれほど広がらず短く、透孔の位置は上位にあり、4方向の定型化された透孔でない。また、大和第Ⅳ様式にみられた三角形状の透かしがくずれたと思われるアーモンド形の透かしも存在する。この透かしの形態は器台にも共通するもので、赤色塗彩とともに本様式の特徴となる。土器成形においては、大和第Ⅵ様式以降にみられる小形鉢を基本形とする分割成形技法は、本様式ではまだ確立されていない。

また、高坏に似た結合形土器は、大和第Ⅳ様式では無頸壺と高坏脚部の結合であったのが、第Ⅴ様式では広口壺の口縁部と高坏脚部の結合となり、これ以降、この形態が後期の器種となる。この

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要

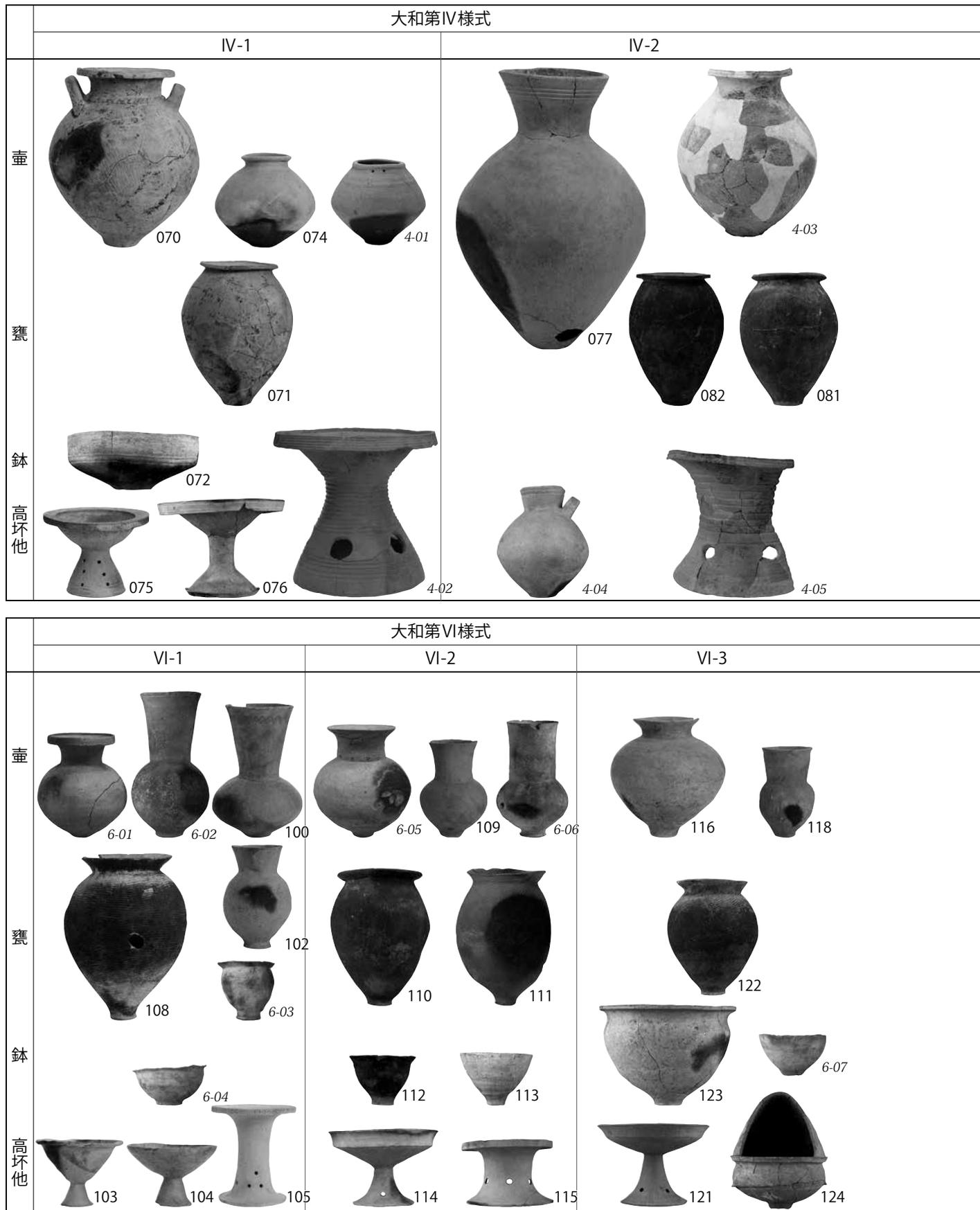
器種は、これまで加飾高坏などと呼ばれていた土器である。その初現が本土器にあり、広口壺を重要視する傾向が本様式以降にみられることが窺える。それは、本様式の壺が、広口壺と短頸壺が主体となることから裏付けられるのである。無頸壺は残存し、長頸壺は出現するがその量は少ない。広口壺は、口縁部を垂下・肥厚し、疑凹線や円形浮文・竹管文・赤色塗彩を施す。鉢は小形品が主体を占め、縦形の把手が付き、精緻とまではいえないまでもミガキ調整で仕上げるもので、小形の甕と共通するものを有する。また、大形の甕もミガキ調整で仕上げる方法を用いており、本様式の特徴である。

(大和第VI様式) 大和第VI様式は、第VI-1～VI-4様式までの4つに細分される。本様式の土器も井戸や環濠など集落全域で確認され、土器総量としても弥生時代を通じて最も多く、特に大和第VI-3様式が多い。また、井戸や環濠などから供献土器として完形品で出土するものも本様式に多い。大和第VI-1様式は西地区第37次調査S K-2122、大和第VI-2様式は南地区第33次調査S K-125・S K-133・S D-109第5層などの井戸や環濠などから出土し、完形土器を含む多くの土器が存在する。大和第VI-3様式には、北西端の第13次調査S D-104上層・S D-105上層・西地区第14次調査S K-106、大和第VI-4様式は北東端の第28次調査S D-101・第34次調査S D-102の土器がある。これら土坑資料は、いずれも井戸供献土器である。大溝の資料は、環濠の最終埋没を示す資料が多く、多量の完形土器を含んでいる。

大和第VI様式は、弥生時代後期の土器様式で、弥生土器としての終末を示す一群の土器様式である。大和地域の弥生土器の方向性は、弥生時代中期後半を最後に土器の小形化・無文化・簡素化、そして土器づくりの効率化などが進み、分化した器種の統合が図られた。4つの小様式から成り立つが、最後の大和第VI-4様式は、唐古・鍵遺跡の相伴土器から庄内式甕を含む土器群としてとらえられる。ただし、この庄内式甕の有無は、遺跡や遺構の状態によって異なり、必ずしも伴うものでないので庄内式という判断がしにくい面がある。

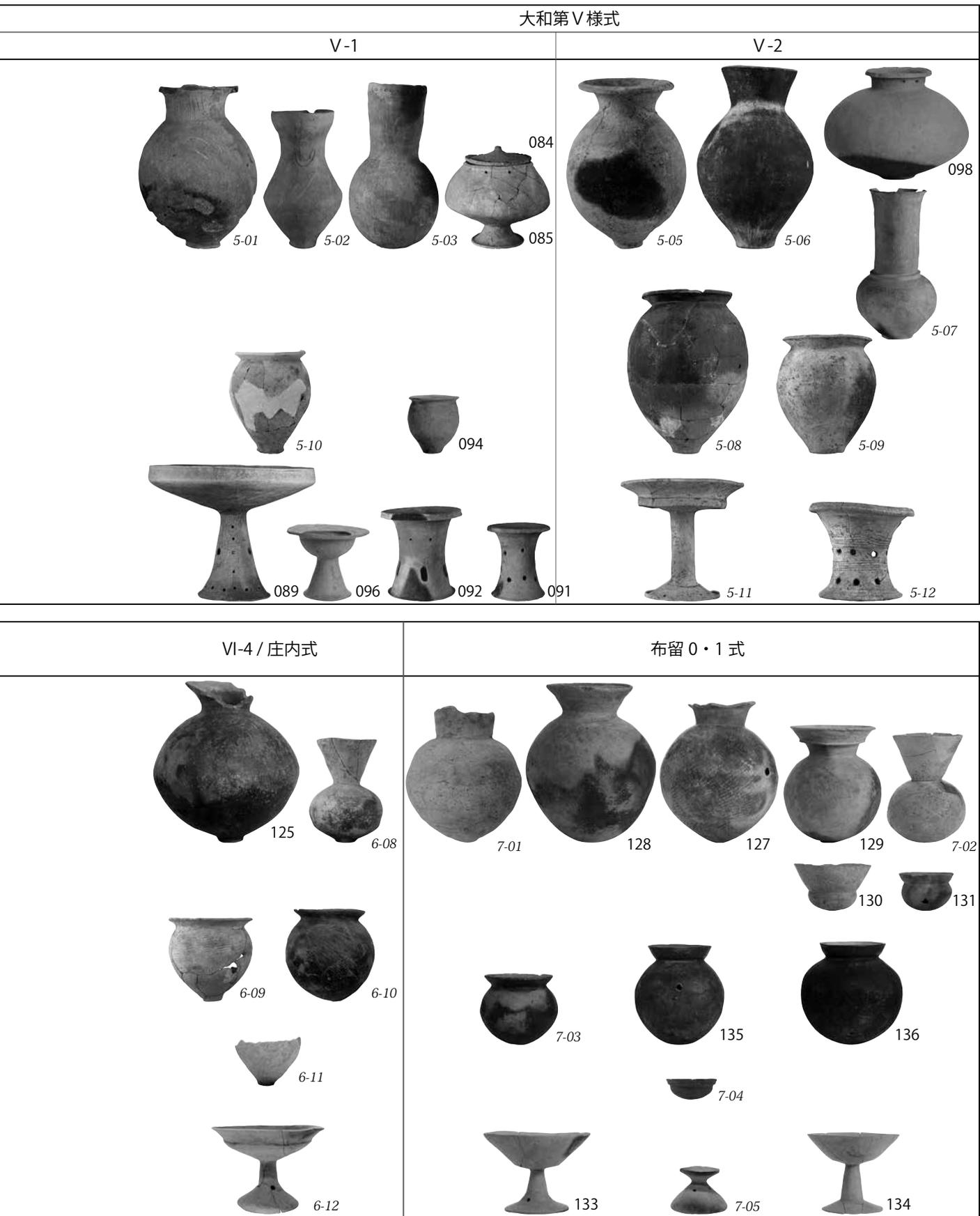
本様式の土器は、淡褐色を呈し焼成も良好で、タタキ・ハケ・ミガキなどの調整手法も全器種を通して均一的におこなっている。本様式の最大の特徴は、小形の埴形鉢を基本とする壺や甕の胴部下半の成形が確立することであり、この成形技法が土器づくりの基本となる。調整では、第V様式にみられたケズリ技法は用いず、ミガキやハケ調整で仕上げるが多くなる。器種構成としては、広口壺・長頸壺・甕・鉢・有孔鉢・高坏・器台が存在するが、前様式に多くみられた短頸壺が激減し、水差形土器は消滅する。これらに代わって、壺は大和第VI-1・2様式では長頸壺が、大和第VI-3・4様式では広口壺が主体となり、大和第VI-3・4様式では新たな器種として二重口縁壺や手焙り形土器、直口壺が出現する。また、壺や甕に脚台を付すものが現れ、広口壺や甕、鉢などでは近江や伊勢湾岸地域の影響を受けたものもみられる。全体的には壺・甕の小形化と球形化、壺・甕・鉢の丸底(尖底)化、高坏の坏部口縁部の伸長化なども新しい様式の特徴である。

第 I 部 個別資料の概要



第3図 唐古・鍵遺跡の土器編年2

1. 縄文土器・弥生土器・古式土師器の概要



※ ゴシック体数字は第II部「1. 弥生土器」の掲載番号、明朝斜体数字は本表のみの掲載番号、遺物写真は1/10縮尺

第 I 部 個別資料の概要

2. 搬入土器の概要

(搬入土器の全容) 唐古・鍵遺跡では、全期間を通じて他地域からの搬入土器が多数出土している。ただし、これら搬入土器は、唐古・鍵遺跡産と認識している土器特徴との差（引き算）、すなわち、土器胎土（混和砂粒も含む）や調整手法・形態・焼成・色調等の諸要素が唐古・鍵遺跡産と大きく異なる土器を搬入土器として認識している。ただし、生駒山西麓産と奈良盆地東南部産は、いずれも角閃石を多く含み、色調が黒褐色を呈するという共通性がある。これらの判別は、弥生時代中期において胴部が下膨れタイプで櫛描簾状文多用の壺や、外面ミガキ調整の甕などは生駒山西麓産にみられる特徴であり判別できるが、それ以外については判別がつかないものもある。

ここに掲載する搬入土器は、ほぼ搬入元が明らかにできるもので、完形にちかい土器を中心に53点を掲載した。実態は小破片も多く、搬入元が不明なものや唐古・鍵遺跡産との差異が中間的なものも多くあり、搬入土器の数量は相当な量と思われるが、唐古・鍵遺跡における搬入土器の割合を算出するのは困難である。

搬入土器の中には、井戸の供献土器として出土しているものがある。本書に掲載した土器においては、大和第Ⅱ-3様式から古墳時代前期までの時期に認められ、吉備産の器台（搬入008）、摂津地域産や生駒山西麓産の水差形土器（搬入012～016）、伊勢湾岸地域産の壺（搬入023・026）、近江地域産の壺・甕・鉢（搬入042～044）などで、搬入元としてはこれまでの唐古・鍵遺跡で土坑や溝から出土した搬入土器と同じであるが、井戸からの出土頻度が高いことから搬入品に対する何らかの意味があったと考えられる。

以下、本稿では唐古・鍵遺跡における搬入土器のおおまかな変遷を示しておく。

(弥生時代前期～中期) 弥生時代前期において搬入土器の量は、概して低調である。大和第Ⅰ-2様式に、瀬戸内地域の特徴を示す逆L字口縁の甕（搬入001）が出土しているが、このような甕の総数は少ない。また、詳細時期が特定できないが、大和第Ⅰ-1様式の可能性がある浮線網状文土器の小片（搬入003～005）が3点出土しているが、これが全てである。

大和第Ⅱ-1～Ⅱ-3様式にかけて伊勢湾岸地域の搬入土器が多く出土する。なかでも条痕文を有する内傾口縁土器・厚口鉢と呼ばれる特徴的な形態の土器が多くを占める。僅かであるが、無紋の内傾口縁土器も存在している。胴部上半の内傾が長めのタイプ（搬入020）から短く屈折するタイプ（厚口鉢／搬入021）へと変遷するようである。前者は大和第Ⅱ-1様式に多く、大和第Ⅰ-2様式に遡る可能性がある。後者は大和第Ⅱ-2様式から出現するようで、第23次調査S K-123出土の厚口鉢は、同型式のものが7点以上出土しており、当該地域との並行関係を推測する上で重要である。この時期の遺構を調査すれば、唐古・鍵遺跡のどの地区においても内傾口縁土器・厚口鉢は出土するので、集落の広範囲に本土器が存在していたと思われる。内傾口縁土器・厚口鉢以外の伊勢湾岸地域の土器としては、二枚貝による直線文を施文する壺や斜位条痕甕があるが、多くは破片であり、全形のわかるものは搬入019の条痕甕や搬入022の広口長頸壺のみである。大和第Ⅱ-3様式以降、伊勢湾岸地域の細頸壺が多く見られるようになる。第23次調査S K-151・S D-103出土の細頸壺などは、土坑・大溝出土の一括性の高い資料となる。伊勢湾岸より遠方となる天竜川流域地域の細頸壺（搬

2. 搬入土器の概要

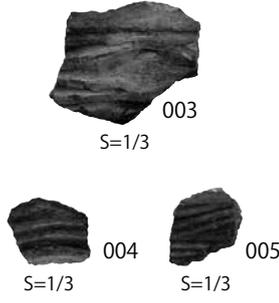
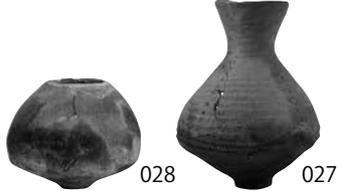
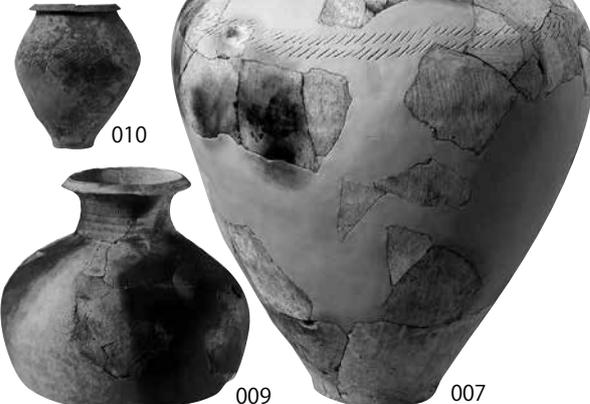
入029)は、胴部破片で「嶺田式」あるいは「阿島式」と推定されるもので、中期における最も東方地域の土器となる。同様な破片は第20次調査のS X-101下層(大和第Ⅲ-1様式)から出土しており、少量ながら当該地域までの交流が一定量あったと推測できる。

大和第Ⅲ-3様式以降は、西方地域からの搬入土器が増加する傾向がみられる。最も西方の土器は北部九州の「須玖式」の甕口縁部片(搬入006)である。第34次調査の大環濠から出土したもので、大和第Ⅲ-3・4様式の土器に伴って出土した。須玖式土器の近畿への流入がほとんどみられない中、大和への搬入が注目されるとともに須玖式土器と大和様式との併行関係の一定点を抑えられる重要な土器である。これ以外では、吉備地域の土器がある。大形広口壺(搬入007)は、遺跡西北端の第19次調査の大環濠から、大形器台(搬入008)は、その地点から東約240mの第51次調査の井戸から出土したもので、胎土や色調、文様などが極めて類似しており、同じ製作地から搬入された可能性がある。ただし、共伴土器は、大壺が大和第Ⅳ-2様式、器台が大和第Ⅴ-1様式(若干の大和第Ⅳ-2様式を伴う)で、少しのタイムラグが認められる。吉備を含む東部瀬戸内地域の土器は、大和第Ⅳ・Ⅴ様式期を中心に小形の壺や甕が出土しているが、前述のような大形品は類例がなく、特殊な土器であった可能性が高い。このほか、摂津地域と思われる乳褐色の色調を呈する壺や紀伊地域の外面ケズリ甕なども存在するが、それほど目立った存在ではない。これらに対し、生駒山西麓産の土器は、櫛描簾状文の多用と土器の色調が黒褐色を呈する特徴から、識別しやすいということもあって集落内部の各所から確認している。器種としては壺が主体を占め、大和第Ⅲ様式期が多いようである。近江地域の土器は、受口状口縁を呈する甕が特徴的であり、胎土も淡灰褐色を呈する特徴があることから、判別しやすい。本土器も大和第Ⅲ-3様式以降に増加する。ただし、伊勢湾岸地域や山城地域にも同様な甕が存在しており、それらとの区別はできていない。紀伊・近江地域の土器は、生駒山西麓産に比較して少なく、出土傾向を判断できるまでには至らないが、南地区に多いようで特に南地区西部の第44次調査では、紀伊地域の壺・蓋・甕が9点、近江地域の壺・甕(搬入018)が20点と、比較的多く出土している。また、この地区では当該地域以外においても生駒山西麓地域88点以上、伊勢湾岸地域14点(当該土器は大和第Ⅱ様式前後が多く、他の土器より古い)、搬入元不明90点(摂津などにみられる乳褐色系土器)など他の地区に比べて搬入土器がまとまって出土しており、今後、唐古・鍵ムラの居住区内での地域別の傾向が見いだせる可能性がある。

(弥生時代後期～古墳時代前期) 弥生時代後期は、土器形態に地域的特徴が消失するため、判別が困難なものもあるが、概して出土土器量に比して搬入土器は低調であるように思われる。活発化するのは大和第Ⅵ-3様式以降で、近江地域の土器(搬入042～047)が多くみられるようになる。また、この時期以降には、黒褐色を呈する奈良盆地東南部産の土器(搬入033～041)が環濠の各所(第34・40次調査)で多量に出土する。このような盆地東南部産土器のあり方や出土量は、これまでの唐古・鍵遺跡の搬入土器では無かったことであり、今後の課題である。

庄内式から布留式にかけては一度環濠が埋没するが、集落遺構は存在しており、井戸や環濠から山陰・吉備・東阿波・生駒山西麓・伊勢湾岸の広範な地域の土器が出土しており、弥生時代中期と同様な傾向を示している。

第 I 部 個別資料の概要

	西日本 (北部九州/瀬戸内中・東部/山陰)	近畿 (兵庫/大阪/和歌山/奈良/京都/滋賀)	東日本 (伊勢湾岸地域/中部)
大和第一様式			
大和第二様式			
大和第三様式			
大和第四様式			

第 4 図 唐古・鍵遺跡の搬入土器

2. 搬入土器の概要

	西日本 (北部九州/瀬戸内中・東部/山陰)	近畿 (兵庫/大阪/和歌山/奈良/京都/滋賀)	東日本 (伊勢湾岸地域/中部)
大和第五様式			
大和第六様式			
庄内・布留式			

※ ゴシック体数字は第II部「2. 搬入土器」の掲載番号、遺物写真は一部を除き 1/10 縮尺

第 I 部 個別資料の概要

3. 特殊土器ほかの概要

(特殊土器ほかの全容) ここで取り扱う「特殊土器」の1つは、弥生時代において日常生活の中で使われている壺や甕、高坏・鉢・器台などを除く土器、すなわち、貯蔵・煮沸（煮炊き）・供献という一般的な使用目的のために多量に生産・消費された土器以外のもので、これらに相当する特殊土器としては、大きく3種の土器を想定している。1つ目は一般的な土器の形態を呈しているが、小形品（ミニチュア）で上記のような使用に適さない土器（土製品とすべきか）である。2つ目は一般的な土器の形態を呈さない異形土器、3つ目は一般的な形態の土器に全面塗彩を施している土器である。

上記以外の「特殊土器」としては、一般的な土器ではあるが、土器の製作痕跡を示すものや取り扱われ方がイレギュラーな土器があり、とりあえず、項目としてここに包括して取り上げることにする。大きく3つあり、1つ目は土器製作工程を示す土器、2つ目は土器内（内面）に炭化物や赤色物（水銀朱・ベンガラ）などが付着（遺存）している土器、3つ目は土器棺や井戸枠（集水施設）に転用された土器・被熱土器などである。

ここに取り上げる土器は、唐古・鍵遺跡出土土器の総量に対してごく少量の土器である。特別に製作されたものや特殊な扱い（転用など）を受けたもの、または偶発的な出来事によって残存したものである。

(小形(ミニチュア)土器) 小形(ミニチュア)土器は、特殊土器のなかでも比較的多く出土している。一般的な土器と小形土器との判別は難しいが、小形土器は機能面からみると食器としての機能が難しいと思われるもの、大きさ的には概ね10cm以下で大半は5cm前後の範疇に収まる土器としておきたい。最も小さい土器は3cmほどである。

これら土器の製作は大半が手捏ね成形で、底部が大きく厚手になる傾向がみられる。しかしながら、少数ではあるが一般的な土器同様に輪積み成形で丁寧な調整を施し、形態的にも一般土器に近似させるもの（特殊001・037・039・054）もみられる。また、精巧な作りの小形土器としては、水差形土器（特殊006）があり、櫛描文やミガキ調整を施している。この他、無頸壺と蓋がセットになるもの（特殊048・049）もある。

時期的には、弥生時代前期から後期まで存在しているが、前期から中期初頭までは少なく、中期中葉以降に増加する傾向がみられる。特に後期以降は多い。器種としては、壺や鉢、高坏などの供献形態のものが多いが、甕（特殊011）や台形土器（特殊028）なども僅かにみられる。また、赤色塗彩を施した高坏（特殊036）もある。

これら小形土器は、井戸や土坑、環濠、区画溝、遺物包含層などから一般土器とともに出土することが多いが、その中で井戸から出土したもの（特殊005・012・014など）は井戸供献土器と考えられる。小形土器がまとまって出土することは少なく、第22次調査の井戸S K-101からの5点（掲載は一部、特殊020～022）が目につく程度である。ただし、特異な出土状況を呈すものとして、唐古・鍵遺跡の東南端の第40次調査で検出した環濠S D-101（大和第V様式）の例がある。この環濠では、幅2.5m、延長2mほどの範囲から約120点の小形土器が集中して出土した（写真1）。このような

出土は、本遺跡でも他に例がなく、また、土製勾玉4点も共伴していることから、祭祀遺物の一括廃棄と思われる。

(異形土器・塗彩土器) 本書では、一般的な土器形態を呈していないものを異形土器とし、動物を模した土器や、高坏坏部や鉢の胴部や底部が正円になっていないもの、多孔の鉢、「広片口鉢」、「円窓付土器」、「注口土器」などをあげる。点数的にはごく少ない。

動物を模したと考えられる土器として鳥形土器があるが、全容のわかるものはない。特

殊061は頸部、特殊062は土器の底部にあたる部分である。異形高坏では、大和第V様式の坏部が楕円形のもの(特殊063)があるが、この形態は本遺跡で1点のみである。ただし、この時期には坏部が長方形を呈し、坏内部に仕切り板を設けるものが数点出土している。これらには、坏部にも精緻な櫛描文(山形文・簾状文など)が施文されており、特別な土器として製作されたと考えられる。また、底部が方形や楕円形を呈する鉢(特殊064・065)や双脚の鉢(特殊067)もみられるが、木製品を模したものかもしれない。これ以外に何らかのトラブルにより、壺を斜口縁の鉢に作り変えたと考えられる土器(特殊066)がある。

多孔鉢(特殊068・069)は、大和第Ⅲ・Ⅳ様式のごく限られた時期に出土する土器で、唐古・鍵遺跡や清水風遺跡から数点出土している。器高10cm前後の小形品で、縦長の半球形の胴部を有する。胴部上端に1孔一対の紐孔をもつことから吊るすようにしたと考えられるもので、それより下の胴部から底部に多数の2～3mmの小円孔をあけている。内面には、白い付着物が共通してみられることから、灰状物質を充填し何かを濾過するための土器と推定される。弥生時代の後期後半には、底部のみに多数の小孔をあけた碗形の有孔鉢がみられるが、これらは内面に付着物がないことから多孔鉢とは性格が異なると考えられる。また、坏部に小孔を多数あけた高坏(特殊070・071)が大和第Ⅳ・Ⅴ様式に数点みられるが、用途はわからない。

このほか、短く突出する注口を有する土器(特殊072)、胴部に円窓をあけた壺(特殊066)、被籠状凸帯壺(特殊074)、籠目鉢(特殊075)など特殊な形態の土器も数点出土しているが、いずれも全体のわかるものは少ない。特殊074・075は古墳時代に属するものである。

広片口鉢は、朱を精製する器として想定しているものである。唐古・鍵遺跡では5点出土しているが、全て大和第V様式に所属すると考えられる。内面に朱が残存(付着)しているものがある。外面を粗くヘラケズリした甕を縦に半裁し、それを横にして鉢とする。全体が想定できるもの(特殊076)は真二つというのではなく、底部付近は半分以上あり口縁部側は半分以下である。この土器の出土位置は、青銅器鑄造関連遺物がまとまって出土した遺跡東南部の第40・61・65次調査地と重複しており、出土傾向に時期的・地区的な偏りがあり、その関連で用途を検討する必要がある。



写真1 第40次調査 S D-101 出土小形土器群

第 I 部 個別資料の概要

飯蛸壺（特殊080）は、唐古・鍵遺跡で2点出土している。高さ8cmほどの小形品で砲弾形をし、口縁部下に紐孔を1つあける。和泉地域からの搬入品の可能性がある。

塗彩土器は全面を赤色塗彩した土器であるが、全容のわかる土器は弥生時代前期の鉢（特殊081・082）と古墳時代前期の壺（特殊083・084）のみである。破片を含め、全体的には弥生時代後期以降に増加する傾向がみられる。特に古墳時代前期の土器は、精緻なものになる。

（土器製作に関連する土器） 土器の製作工程を示す土器としては、異粘土使用の土器、動物の爪圧痕や歯形、布圧痕のある土器、補修痕跡のある土器、土器製作に失敗した土器がある。

異粘土使用の土器は、土器製作の途中で粘土不足となり全く異なる粘土を用いて製作した土器（特殊085～087）である。奈良盆地東南部産と他の粘土を使用しているものがあり、土器製作が本遺跡か奈良盆地東南部地域の遺跡か、あるいは粘土の移動などを考える上で重要である。

動物の爪圧痕は、ネズミの爪と思われるもので土器乾燥時につけられたものである。主に壺の外表面（特殊088・089）についているが、甕の内面（特殊090）についたものもある。弥生時代前期は少なく、中期以降に多くみられる。前期の壺は、乾燥が進んだ段階でのミガキ調整のため、器面に爪圧痕が残りにくい状況であったと考えられる。土器につけられた歯形の圧痕は、イヌの歯形と思われるものである。壺・甕の口縁部（特殊091・092）につけられている2点のみである。土器づくりの環境を考える上で、重要な資料となろう。

土器底部に圧痕を残すものは唐古・鍵遺跡では少なく、木葉や布などの圧痕が僅かにみられる程度である。また、布圧痕の土器の多くは、弥生時代前期の壺の凸帯上に布圧痕を装飾としてつけているものであるが、ここでは甕底部の全面につけられたもの（特殊土器093～095）をあげる。このような圧痕は、大和形甕の底部のみにみられるもので、数点しかない。

補修土器は、土器製作途中のもの和使用中のものがある。製作中の補修は、土器製作時に穴があき塞いだもの（特殊097）や乾燥時のひび割れを埋めたもの（特殊096・098・099）がある。使用中の補修は、使用中のなんらかの事故によりひび割れなどが生じたため、小孔をあけ樹皮で緊縛したもの（特殊100・101）である。小孔のみ残す破片は多く出土するが、緊縛の樹皮が残っているものはこの2点のみである。また、土器製作に失敗しそのまま焼成した土器片が出土している。中期の櫛描文様が描かれている壺片（特殊102）と後期の壺口縁部片（特殊103）で、いずれも捻りつぶされている。

（内容物遺存土器） 土器内に遺存していた内容物としては、炭化米や炭化物、赤色顔料、漆、卜骨、ネズミ骨がある。唐古・鍵遺跡において、甕内面に炭化物が付着した状態（お焦げ）の破片は数多く出土しているが、土器がほぼ完形でその内部に炭化状態のまま残存しているものは少ない。全体のわかる完形のものは、広口長頸壺と鉢、短頸壺（特殊105～107）の3点である。特殊105は、胴部下半に偏ってリング状に炭化雑穀（種子判別不明）が付着したもので、壺での煮沸のしかたがわかるものである。第20次調査の井戸S X-101の出土であり、ほかに壺（弥生043）や高坏（特殊005）、卜骨など共伴しており、祭祀遺物のひとつであったと考えられる。鉢の内部の遺存物は不明、短頸壺は炭化米である。

3. 特殊土器ほかの概要

土器内部に赤色顔料は残存していないが、内面に赤色物が付着している土器が破片を含め比較的多く出土している。特殊108はベンガラである。特殊108・109はいずれも鉢であるが、器種的には鉢や甕が中心で中期のものが多い。これら土器の外面には、煤の付着するものがあり、煮沸による使用が想定される。漆が遺存した土器（特殊104）も数点しかない。また、ト骨（特殊110）やネズミの骨（特殊111）を内蔵したものがある。特にネズミの骨2体分が残存していた土器の性格づけは難しい。

（転用土器・被熱土器） 土器の転用は大きく2種あり、1つは井戸枠状として、2つ目は土器棺として使用したものである。前者は、砂層上に深さ0.5m程度に浅く掘削された簡易なもので、井戸というよりは「集水施設」とすべきものである。周壁の砂層の崩壊を防ぐため、土器の底部を打ち欠き、枠としたものである。唐古・鍵遺跡では9例見つかっており、いずれも中期で、大形の壺や甕（特殊112～118）、鉢が利用されている。特殊116の複合口縁壺は、口縁部まで復元できたもので、唐古・鍵遺跡では最大級の弥生土器である。また、特殊117・118は、2段に組まれたもので、他に例はない。

後者の土器棺は、唐古・鍵遺跡で確実なものは15例で、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて集落各所でみられる。胴部の大きさが30～40cmほどの壺が本体として使われている例が多く、口頭部は打ち欠き、胴部に穿孔をもつ。

被熱土器は、唐古・鍵遺跡からは多量に出土しており、弥生時代前期から後期まで全期間にみられる。ここで示す被熱土器は、煮沸などの使用による被熱というよりは、火災などのトラブルによるものと考えられる土器である。被熱部位や被熱の度合いはさまざまであるが、器面の熔解・発泡、歪みの度合い（特殊124～129）によって、分類は可能である。特殊124・125は、焼失品の一括廃棄が想定される土坑からの出土である。また、また、南地区の第33次調査地からは、大和第IV様式の被熱土器が多量に出土しており、それらの中にはほぼ完形で被熱の受け方のわかる土器（特殊129）もある。

第Ⅱ部 考古資料目録

第Ⅱ部 凡例

1. 遺物は、弥生土器（縄文土器・土師器を含むが、便宜上表題は「弥生土器」とする）、搬入土器、特殊土器の順に掲載した。また、遺物の所属時期は大和土器編年に従い、「大和第○-□様式」と記載した。詳細な時期を判別できない遺物は「弥生時代○期」と記載した。
2. 遺物の掲載に際し、「MP」から始まる管理番号を付記した。遺物が複数の破片等にわたるものは、それぞれの写真に管理番号の枝番を付した。
3. 遺物の大きさの単位はcmとし、小数点第2位以下を四捨五入し、第1位までを記載した。
4. 掲載した写真の縮尺は任意である。
5. 弥生・搬入・特殊の各土器の未接合破片等は、巻末に附. 遺物図版として掲載した。
6. 第Ⅱ部に掲載した土器において、複数の出土状況がある場合、代表する破片の情報を第Ⅱ部に掲載し、その他の残片を含む土器の出土情報等は巻末の附. 遺物一覧表に掲載した。

附 凡例

1. 写真中の数字は、遺物管理番号（Mコード）の枝番で、出土情報が異なるものに付した。
2. 写真中の遺物は縮尺が任意であるため、各写真にスケールバーを付し、写真中におけるバーの長さを併記した
3. 主体遺物の未接合破片（細片等）とは異なる内蔵物や付属品等は、遺物管理番号（Mコード）がつけられているものについては写真中に付記した。

001



MP- 縄文-0019

001 縄文土器（前期）

本土器は、大和第Ⅰ-1様式の凸帯文深鉢の破片である。北端の第66次調査の河跡から出土した。口縁部から胴部の破片である。口縁部から底部にむかってすぼまる形態で、底部は欠損している。口縁端部の外面に断面三角形の凸帯を貼り付ける。内外面は条痕調整である。外面全体に煤の付着がみられる。

第66次調査
遺構：SR-201
層位：第9層
土色：灰白色砂
取上：－
No.：67
様式：大和第Ⅰ-1様式
残存高：22.5
残存幅：13.0

002



MP- 編年-0147

002 弥生土器（前期）

本土器は、大和第Ⅰ-1様式の広口壺である。北端の第66次調査の河跡から出土した。完形品。口縁部は短く外反、胴部は球形を呈する。口頸部界は細い削出凸帯、胴部段の直下に2条のヘラ描直線文を巡らす。内外面とも丁寧なミガキ調整で仕上げる。外面は黒褐色を呈す。

第66次調査
遺構：SR-201
層位：第7層
土色：－
取上：土-701
No.：58
様式：大和第Ⅰ-1様式
高さ：27.0
胴径：22.5

003



MP- 編年-0105

003 弥生土器（前期）

本土器は、大和第Ⅰ-1様式の壺蓋である。西地区中央部の第82次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。完形品。笠形の蓋で、天井部中央に紐孔1孔を有する。内外面ともナデ後ミガキ調整で仕上げるが、器面が整っていない。内外面は黒褐色を呈す。

第82次調査
遺構：SK-219
層位：第3層
土色：－
取上：土-301
No.：301
様式：大和第Ⅰ-1様式
高さ：3.4
裾径：12.1

004



MP- 編年-0106

004 弥生土器（前期）

本土器は、大和第Ⅰ-1様式の広口壺である。西地区中央部の第82次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。口縁部は大きく外反し、胴部は球形を呈する。口頸部界は削出凸帯。胴部段の直下に3条のヘラ描直線文を巡らす。外面はミガキ調整で仕上げ、黒色を呈す。

第82次調査
遺構：SK-219
層位：第2層
土色：－
取上：土-216
No.：280
様式：大和第Ⅰ-1様式
高さ：26.3
胴径：24.8

005 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-1 様式の中形甕である。西地区中央部の第 82 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。胴部と底部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁部は短く外反し、端部は面をもち刻目を深く入れる。胴部は僅かに膨らみをもつ。胴部上端に 3 条のヘラ描直線文を巡らす。胴部上半の外面に煤が厚く付着する。

第 82 次調査
遺構：SK-219
層位：第 2(下)層
土色：—
取上：土-253
No：284
様式：大和第 I-1 様式
口径：23.2
高さ：25.0



MP- 編年 -0107

005

006 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-1 様式の広口壺である。西地区中央部の第 19 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁から胴部の一部を欠損する。口縁部は短く外反する。口縁部に紐孔 1 つをあける。口頸部界に段をつけ、その下に 1 条のヘラ描直線文、頸胴部界にはヘラ描直線文 3 条を巡らす。外面全体は丁寧な横位のミガキ調整を施す。

第 19 次調査
遺構：SK-1103
層位：第 6 層
土色：黒灰粘
取上：土-602
No：868
様式：大和第 I-1 様式
高さ：18.9
胴径：25.8



MP- 編年 -0008

006

007 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-1 様式の鉢である。西地区中央部の第 19 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる鉢である。口縁部は短く外反し、胴部は半球形を呈する。口頸部界には段をつける。内外面は丁寧なミガキ調整で仕上げる。

第 19 次調査
遺構：SK-1103
層位：第 6 層
土色：黒灰粘
取上：—
No：848
様式：大和第 I-1 様式
復元口径：19.2
高さ：13.5



MP- 編年 -0095

007

008 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-1 様式の広口壺である。西地区中央部の第 14 次調査の土坑から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。口縁部は緩やかに外反、胴部は球形を呈する。口頸部界と頸胴部界に段をもつが、シャープさに欠ける。外面はミガキ調整で仕上げる。

第 14 次調査
遺構：SK-202
層位：—
土色：灰黒粘
取上：土-04
No：75
様式：大和第 I-1 様式
高さ：28.1
胴径：22.4



MP- 編年 -0057

008

009



MP- 編年 -0006

009 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I -1 様式の高坏である。西地区中央部の第 14 次調査の土坑から出土した。口縁部の一部と脚台部を欠損する。坏部は浅い碗形で、脚台部は大きく広がると思われる。坏部と脚台部の界には粘土紐貼付による凸帯が巡る。内外面は丁寧なミガキ調整で仕上げる。色調は黒褐色を呈す。

第 14 次調査
遺構：SK-202
層位：—
土色：灰黒粘
取上：—
No.：74
様式：大和第 I -1 様式
復元口径：13.4
復元高：11.2

010



MP- 編年 -0036

010 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I -1 様式の広口壺である。北端の第 45 次調査の河跡から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。口縁部は短く外反、胴部は扁球形を呈する。口頸部界には 1 条のへら描直線文、頸胴部界は 1 条の細い凸帯を段のようにみせる。口縁部には 2 孔一対の紐孔、胴部中央に小さな穿孔がみられる。

第 45 次調査
遺構：SR-201
層位：第 3 層
土色：黒灰粘
取上：土 -301
No.：28
様式：大和第 I -1 様式
高さ：20.5
胴径：22.3

011



MP- 編年 -0044

011 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I -1 様式の大形の広口壺である。中央区の第 53 次調査の土坑から出土した。口縁～胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。口縁端部に 2 条のへら描直線文、口頸部界と頸胴部界には段をもち、両者の下側に各 3 条のへら描直線文を施文する。胴部中央には穿孔がみられる。

第 53 次調査
遺構：SX-201
層位：—
土色：灰黒粘
取上：—
No.：389
様式：大和第 I -1 様式
高さ：74.8
胴径：63.4

012



MP- 編年 -0160

012 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I -1 様式の広口壺である。中央区の第 53 次調査の土坑から出土した。胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁部は短く外反、胴部は球形を呈する。口頸部界には 1 条の凸帯を貼付後、刻目を施す。胴部上半は 3 条のへら描直線文の施文後にミガキ調整で外面を仕上げる。口縁部には 1 孔一対の紐孔がある。

第 53 次調査
遺構：SX-201
層位：第 1 層
土色：—
取上：土 -101
No.：462
様式：大和第 I -1 様式
高さ：30.8
胴径：29.3

013 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-1 様式の中形甕である。西地区北部の第 37 次調査の土器溜まりから出土した。口縁～胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる甕である。口縁部は短く外反し、端部には刻目を入れる。胴部はあまり膨らみをもたない。口縁部下に 2 条のへら描直線文を巡らす。外面の胴部上半には煤の付着がみられる。

第 37 次調査
遺構：SX-2201
層位：－
土色：－
取上：－
No.：872
様式：大和第 I-1 様式
口径：24.0
高さ：25.1



MP-編年-0029

014 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-1 様式の小形の広口壺である。西地区中央部の第 16 次調査の土坑から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口頸部は短く外反し、胴部は球形を呈する。口頸部界・頸胴部界に段をもつ。外面は丁寧なミガキ調整で仕上げ、黒褐色を呈す。

第 16 次調査
遺構：SX-102
層位：－
土色：黒粘Ⅲ
取上：土-02
No.：224
様式：大和第 I-1 様式
高さ：10.2
胴径：9.6



MP-編年-0007

015 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-1 様式の小形の広口壺である。西地区北部の第 37 次調査の大溝から出土した。口縁部と底部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口頸部は緩やかに外反し、胴部は球形を呈する。底部は突出する。口頸部界は段、頸胴部界は 2 条のへら描直線文を施す。

第 37 次調査
遺構：SD-2202B
層位：第 8 層
土色：黒褐粘
取上：その 2
No.：1027
様式：大和第 I-1 様式
高さ：10.6
胴径：8.3



MP-編年-0155

016 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-2 様式の壺蓋である。西地区中央部の第 20 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。端部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。扁平な円盤状の蓋である。端部近くに紐孔 1 孔をあける。内外面ともナデ後ミガキ調整で仕上げる。内外面は黒褐色を呈す。

第 20 次調査
遺構：SK-215
層位：第 2(下)層
土色：灰黒粘
取上：土-1223
No.：705
様式：大和第 I-2 様式
高さ：1.2
裾径：12.3



MP-編年-0034

017



MP- 編年 -0118

017 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-2 様式の広口壺である。西地区中央部の第 20 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部・胴部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる壺である。口頸部界と胴部中央に 2 条 1 単位の貼付凸帯を巡らす。凸帯間の胴部上半に 4 条 1 単位のへら描直線文を施文する。口縁部に紐孔 1 孔をあける。

第 20 次調査
遺構：SK-215
層位：第 2(下)層
土色：灰黒粘
取上：土-2209
No. : 707
様式：大和第 I-2 様式
高さ：35.9
復元胴径：38.4

018



MP- 編年 -0009

018 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-2 様式の甕蓋である。西地区中央部の第 20 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。裾部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる蓋である。摘み部を突出させた笠形を呈す。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキ調整で仕上げる。内面に煤の付着がみられる。

第 20 次調査
遺構：SK-215
層位：第 2(下)層
土色：灰黒粘
取上：土-214
No. : 699
様式：大和第 I-2 様式
高さ：8.5
復元裾径：20.3

019



MP- 編年 -0012

019 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-2 様式の中形甕である。西地区中央部の第 20 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の甕である。口縁端部に刻目を入れる。口縁部下に 4 条のへら描直線文を巡らす。外面の胴部上半には煤の付着がみられる。底部の中央に約 1 cm の穿孔がみられる。

第 20 次調査
遺構：SK-215
層位：第 2 層
土色：灰黒粘
取上：一
No. : 681
様式：大和第 I-2 様式
口径：22.1
高さ：24.7

020



MP- 編年 -0222

020 弥生土器（前期）

本土器は、大和第 I-2 様式の広口壺である。西地区北部の第 37 次調査の大溝から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。頸胴部界と胴部中央は幅広の凸帯とし、その凸帯上に前者は 6 条、後者は 4 条のへら描直線文を施文する。外面は丁寧なミガキ調整で仕上げる。外面は黒褐色を呈す。

第 37 次調査
遺構：SD-2202
層位：第 3 層
土色：植物層
取上：土-301
No. : 816
様式：大和第 I-2 様式
高さ：20.6
胴径：16.5

021 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-2 様式の小形の広口壺である。西地区北部の第 37 次調査の大溝から出土した。口縁部を欠損するが、ほぼ完形の無紋壺である。口縁部は緩やかに外反し、胴部は球形を呈する。外面は丁寧なミガキ調整で仕上げ、黒褐色を呈す。

第 37 次調査
遺構：SD-2202
層位：第 3(下)層
土色：—
取上：土-1313
No. : 1064
様式：大和第 I-2 様式
復元高：16.8
胴 径：13.9



MP- 編年 -0304

021

022 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-2 様式の把手付鉢である。西地区北部の第 84 次調査の土坑から出土した。完形品である。底部から直線的に広がる縦長の胴部を有する無紋の鉢である。口縁端部は面をもつ。口縁部下に横長の把手が対に貼り付けられている。内外面はナデ調整で仕上げる。外面の胴部上半には煤、内面には炭化物が付着する。

第 84 次調査
遺構：SK-202
層位：—
土色：灰粘
取上：—
No. : 354
様式：大和第 I-2 様式
口径：12.2
高さ：12.7



MP- 編年 -0199

022

023 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-2 様式の広口壺である。西地区北部の第 37 次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。口頸部はやや長めで緩やかに外反し、胴部は扁球形を呈する。頸胴部界は幅広の凸帯とし、その凸帯上に 4 条のヘラ描直線文を施文する。外面は丁寧なミガキ調整で仕上げ、黒褐色を呈す。

第 37 次調査
遺構：SK-2204
層位：第 3 層
土色：植物層
取上：—
No. : 804
様式：大和第 I-2 様式
高さ：23.0
胴径：20.8



MP- 編年 -0294

023

024 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第 I-2 様式の広口壺である。西地区中央部の第 16 次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。胴部と底部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。口頸部界には 5 条のヘラ描直線文を施文する。外面はミガキ調整で仕上げる。底部の裏面と側辺にはケズリがみられる。口縁部には 1 孔一対の紐孔がある。

第 16 次調査
遺構：SX-102
層位：—
土色：黒粘Ⅲ
取上：土-03
No. : 224
様式：大和第 I-2 様式
高 さい：31.6
復元胴径：26.0



MP- 編年 -0075

024

025



MP- 編年 -0223

025 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第Ⅰ-2様式の鉢である。西地区中央部の第16次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる丸底の無紋の鉢である。木製鉢の模倣品と考えられる。外面はケズリ後粗いミガキ調整、内面にも一部ケズリがみられるが、全体はナデ調整で仕上げる。外面は黒褐色を呈す。

第16次調査
遺構：SX-102
層位：—
土色：黒粘Ⅲ
取上：土-04
No.：224
様式：大和第Ⅰ-2様式
口径：23.4
高さ：11.0

026



MP- 編年 -0017

026 弥生土器 (前期)

本土器は、大和第Ⅰ-2様式の鉢である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる鉢である。やや縦長の半球形を呈する。口縁部の屈曲は強く、端部は薄い。口縁部下に4条のへら描直線文を施文する。内外面は丁寧なミガキ調整で仕上げる。外面は黒褐色を呈す。

第23次調査
遺構：SK-153
層位：第3層
土色：灰粘
取上：土-317
No.：550
様式：大和第Ⅰ-2様式
復元口径：19.0
高さ：13.2

027



MP- 編年 -0286

027 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の広口長頸壺である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。口頸部は緩やかに外反し、胴部は球形を呈する。口縁端部は丸い。頸部には13条のへら描直線文を施文する。外面はミガキ調整で仕上げる。

第23次調査
遺構：SK-154
層位：第3層
土色：灰粘
取上：土-301
No.：371
様式：大和第Ⅱ-1様式
高さ：32.0
胴径：22.5

028



MP- 編年 -0124

028 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の広口長頸壺である。北東端の第27次調査の溝から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。口頸部は緩やかに外反し、胴部は球形を呈する。口縁端部は面をもち、1条のへら描直線文に交差するように縦方向の刻目を入れる。頸部には6条の浅く細めのへら描直線文を施文する。

第27次調査
遺構：SD-201
層位：第2層
土色：灰色粘砂
取上：土-201
No.：73
様式：大和第Ⅱ-1様式
高さ：28.7
胴径：20.7

029 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の広口長頸壺である。南地区の第33次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。球形の胴部に緩やかに外反する頸部がつく。頸部に11条、胴部中央に11～13条のへら描直線文を施文する。外面はハケ後ミガキ調整、底部裏面はケズリを施す。

第33次調査
遺構：SK-208
層位：第4層
土色：植物層
取上：—
No：1021
様式：大和第Ⅱ-1様式
復元高：47.0
胴径：36.0



MP- 編年 -0127

030 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の中形甕である。南地区の第33次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる無紋の甕である。口縁部は短く外反し、端部に小さめの刻目を浅く入れる。胴部は僅かに膨らみをもつ。内外面はナデ調整で仕上げる。外面の胴部上半には煤の付着がみられる。

第33次調査
遺構：SK-208
層位：西壁 Sec. 第4層
土色：植物層
取上：—
No：1120
様式：大和第Ⅱ-1様式
口径：24.0
高さ：23.4



MP- 編年 -0068

031 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の中形鉢である。南地区の第33次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。半球形を呈する鉢で、口縁部は短く外反する。口縁部下に4条のへら描直線文を全周させるが、さらにその下に全体の3/4周するへら描直線文を6条追加施文する。

第33次調査
遺構：SK-208
層位：第5層
土色：灰褐粘
取上：土-503
No：1072
様式：大和第Ⅱ-1様式
口径：23.8
高さ：16.3



MP- 編年 -0019

032 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の大形甕である。西地区中央部の第82次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる無紋の甕である。口縁部は短く外反する。胴部は僅かに膨らみをもつ。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面の胴部上半には煤の付着、内面の底部付近に炭化物の付着がみられる。

第82次調査
遺構：SK-203
層位：第2層
土色：—
取上：土-201
No：230
様式：大和第Ⅱ-1様式
口径：28.3
高さ：29.7



MP- 編年 -0144

033



MP- 編年 -0224

033 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-1様式の
大形甕である。西地区中央部の
第82次調査の土坑から出土し
た。口縁部と胴部の一部を欠損
するが、ほぼ全体のわかる無紋
の甕である。口縁部から底部に
かけて徐々にすぼまる形態で、
口縁部は短く外反する。口縁端
部の下端に小さめの刻目を巡ら
す。外面に煤の付着がみられ
る。

第82次調査
遺構：SK-203
層位：第1層
土色：—
取上：土-119
No.：220
様式：大和第Ⅱ-1様式
口径：38.5
高さ：40.5

034



MP- 編年 -0226

034 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-2様式の
広口長頸壺である。北西端の第
19次調査の環濠から出土した。
口縁部を欠損するが、ほぼ全体
のわかる壺である。頸部から胴
部上半にかけて櫛描直線文を施
文するが、胴部中央では櫛描文
間の間隔はなくなり幅広の直線
文となっている。底部は使用に
よる摩耗がみられる。

第19次調査
遺構：SD-1203
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-301
No.：440
様式：大和第Ⅱ-2様式
残存高：32.6
胴径：24.3

035



MP- 編年 -0048

035 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-2様式の
広口長頸壺である。西地区中央
部の第22次調査の土坑から出
土した。口縁部の一部を欠損す
るが、ほぼ完形の壺である。口
頸部は緩やかに外反し、胴部は
球形を呈する。口縁端部は面を
もつ。頸部には5帯の櫛描直線
文を施文する。胴部の文様はな
く、やや太めのミガキ調整で仕
上げる。

第22次調査
遺構：SK-1201
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：土-201
No.：300
様式：大和第Ⅱ-2様式
高さ：33.6
胴径：22.5

036



MP- 編年 -0013

036 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の
細頸壺である。西地区中央部の
第22次調査の井戸から出土し
た。口縁部と頸部の一部を欠損
するが、ほぼ全体のわかる壺で
ある。細描きの櫛描直線文を頸
部は3帯以上、胴部上半は7帯
施文し、その後、4方向に直線
文上に扇形文を向かい合わせに
描き、疑似流水文とする。底部
は使用による摩耗がみられる。

第22次調査
遺構：SK-1101
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-302
No.：366
様式：大和第Ⅱ-3様式
復元高：35.0
胴径：22.2

037 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の中形の大和形甕である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。胴部の一部と底部を欠損するが、ほぼ全体のわかる甕である。口縁部は緩やかに大きく外反し、端部はハケ原体による刻目を連続的に入れる。胴部は僅かに膨らみをもつ。外面は全面に縦位、内面は口縁部分に粗いハケ調整を施す。

第22次調査
遺構：SK-1101
層位：第2(下)層
土色：暗灰褐色粘質土
取上：土-252
No：232
様式：大和第Ⅱ-3様式
口径：19.8
復元高：25.0



MP- 編年-0104

037

038 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の中形鉢である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。やや横長の半球形を呈する鉢で、口縁部は短く外反する。口縁端部は丸い。口縁部下から胴部にかけて細描きの櫛描直線文5帯を施文する。内外面および櫛描文間はミガキ調整で仕上げる。

第22次調査
遺構：SK-1101
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-301
No：269
様式：大和第Ⅱ-3様式
口径：19.6
高さ：9.5



MP- 編年-0130

038

039 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の広口壺である。西地区中央部の第74次調査の土坑から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁部は短く外反、頸部は直線的で、胴部は球形を呈する。頸部は3帯の櫛描直線文、胴部上端に扇形文を巡らす。胴部上半および櫛描文間はミガキ調整で仕上げる。胴部下半に煤が付着する。

第74次調査
遺構：SK-104
層位：第3層
土色：—
取上：土-301
No：805
様式：大和第Ⅱ-3様式
高さ：28.0
胴径：20.9



MP- 編年-0087

039

040 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の高坏である。北西端の第29次調査の溝(方形周溝墓?)から出土した。坏部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。浅い碗形の坏部に中実の脚柱部、大きく広がる裾部がつく。口縁端部に精緻な櫛描波状文、坏部上半に直線文4帯施文する。内外面はミガキ調整を施す。坏部内面は放射状にミガキ(暗文)を施す。

第29次調査
遺構：SD-107
層位：第1層
土色：暗灰色微砂質土
取上：土-101
No：22
様式：大和第Ⅱ-3様式
口径：18.8
高さ：13.9



MP- 編年-0058

040

041



MP- 編年 -0290

041 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の大形甕の蓋である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。笠形を呈し、摘み部は平らにつくる。裾部は大きく外反し、端部は面をもつ。外面はハケ後ミガキ、内面はハケ後ナデと一部ケズリ調整を施す。

第37次調査
遺構：SK-2116
層位：第4層
土色：植物層
取上：土-403
No.：1091
様式：大和第Ⅱ-3様式
高さ：14.1
裾径：32.3

042



MP- 編年 -0103

042 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅱ-3様式の中形鉢である。南地区の第33次調査の区画溝から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。半球形を呈する碗形の鉢である。口縁部下から胴部にかけて櫛描波状文1帯、直線文3帯を施文する。胴部中央やや下側に穿孔を施す。底部付近は使用による摩耗がみられる。

第33次調査
遺構：SD-202A
層位：第5層
土色：黒粘
取上：—
No.：960
様式：大和第Ⅱ-3様式
高さ：15.6
胴径：19.5

043



MP- 編年 -0227

043 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の細頸壺である。西地区中央部の第20次調査の井戸から出土した。完形品である。球形の胴部に細長い口頸部がつく。口縁部下から胴部上半には10帯の櫛描直線文を巡らす。胴部下半はミガキ調整で仕上げる。

第20次調査
遺構：SX-101
層位：第6層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-645
No.：436
様式：大和第Ⅲ-1様式
高さ：26.1
胴径：17.2

044



MP- 編年 -0050

044 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の水差形土器である。西地区中央部の第20次調査の井戸から出土した。完形品である。球形の胴部に短く直立する口頸部がつく。胴部上端に横方向の把手が付く。胴部に5帯の櫛描直線文を巡らす。胴部下半および櫛描文間はミガキ調整で仕上げる。把手の反対側にあたる底部側辺は使用による摩耗がみられる。

第20次調査
遺構：SK-103
層位：第3(下)層
土色：黒粘
取上：土-302
No.：214
様式：大和第Ⅲ-1様式
高さ：20.4
胴径：18.1

045 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-1様式の大形甕である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は上下に肥厚し、面をもつ。口縁端部はヘラによる刺突文を巡らす。胴部上半の外面はハケ後ナデ、下半はミガキ調整を施す。

第13次調査
遺構：SD-106D
層位：第10-b層
土色：黒粘Ⅲ
取上：—
No：425
様式：大和第三-1様式
高さ：28.3
胴径：26.8



MP- 編年 -0072

045

046 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-1様式の大和形甕である。北地区の第26次調査の土坑から出土した。胴部と底部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に緩やかに外反する口縁部がつく。口縁端部に刻目を入れる。外面は粗い縦位ハケ、口縁部内面は横位ハケ、胴部内面はナデ調整を施す。外面には煤が厚く付着する。

第26次調査
遺構：SK-1102
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-502
No：392
様式：大和第三-1様式
高さ：20.9
胴径：15.3



MP- 編年 -0018

046

047 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-1様式の中形鉢である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁端部は面をもち、ヘラによる刻目を入れる。無紋の鉢で、胴部の内外面は全体的にナデ調整で、胴部の下半の一部にミガキ調整を施す。底部付近は使用による摩耗がみられる。

第22次調査
遺構：SK-103
層位：第4層
土色：黒粘
取上：土-401
No：291
様式：大和第三-1様式
口径：22.0
高さ：18.2



MP- 編年 -0230

047

048 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-1様式の小形鉢である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。胴部の一部を欠損(穿孔か)するが、ほぼ完形である。半球形の無紋の鉢で、口縁端部は面をもつ。口縁部はヨコナデにより外面側が凹線文状に僅かに凹む。胴部の外面はハケ、内面はナデ調整で仕上げる。底部付近は使用による摩耗がみられる。

第23次調査
遺構：SK-117
層位：第2層
土色：黒粘(炭灰混)
取上：土-201
No：184
様式：大和第三-1様式
口径：14.7
高さ：9.8



MP- 編年 -0231

048

049



MP- 編年 -0240

049 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-2様式の無紋の壺である。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。縦長の球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁端部は僅かに上下に肥厚し、面をもつ。胴部中央と下半に穿孔がみられる。頸部に蔓が巻かれていた。外面には煤の付着がみられる。

第74次調査
遺構：SK-113
層位：第6層
土色：—
取上：土-601
No.：315
様式：大和第Ⅲ-2様式
高さ：27.5
胴径：21.0

050



MP- 編年 -0037

050 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-2様式の中形鉢である。南地区の第47次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。半球形の鉢で、口縁端部は面をもち、僅かに内側に肥厚する。口縁部下に櫛描直線文5帯を施文、直線文間にはミガキを挿入する。胴部下半の内外面は縦位ミガキ後、胴部中央を横位ミガキで仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2105
層位：第5(下)層
土色：灰褐色砂礫土(植物層)
取上：—
No.：474
様式：大和第Ⅲ-2様式
高さ：14.7
胴径：20.0

051



MP- 編年 -0236

051 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の壺である。中央区の第76次調査の溝から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。胴部中央が強く屈曲する扁球形で、短く外反する口縁部がつく。口縁部は下方に肥厚し丸みをもつ。無紋の壺で、胴部上半は縦位、下半は横位のミガキ調整で仕上げる。口縁部下に2孔一対の紐孔をあける。

第76次調査
遺構：SD-1117
層位：第4層
土色：—
取上：土-407
No.：381
様式：大和第Ⅲ-3様式
高さ：12.5
胴径：15.2

052



MP- 編年 -0049

052 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の広口壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。球形の胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。口縁端部は下方へ僅かに肥厚し面をもつ。口縁部内面に櫛描扇形文、頸部から胴部上半に直線文7帯、扇形文1帯を施文する。胴部下半には煤の付着がみられる。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第8層
土色：灰粘
取上：土-801
No.：911
様式：大和第Ⅲ-3様式
高さ：21.0
胴径：17.8

053 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-3様式の広口壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁端部に櫛描波状文、口縁部内面には櫛描刺突文、胴部上半には上から簾状文2帯、直線文5帯、波状文1帯を施文し、縦位ミガキ(暗文)を5方に施す。胴部下半と口頸部に煤の付着がみられる。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第8層
土色：灰粘
取上：土-803
No：911
様式：大和第三-3様式
高さ：27.2
胴径：25.3



MP- 編年-0031

053

054 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-3様式の大形細頸壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部を欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部に内湾ぎみに立ち上がる頸部がつく。頸部に櫛描直線文5帯以上、胴部に上から簾状文3帯、直線文1帯、斜格文1帯、直線文4帯、波状文1帯を施文する。胴部下半はミガキ調整で仕上げる。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第8層
土色：灰粘
取上：土-802
No：911
様式：大和第三-3様式
残存高：43.1
胴径：32.4



MP- 編年-0228

054

055 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-3様式の無紋の壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁端部は上下に僅かに肥厚し面をもつ。外面はハケ、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面全体および口縁部の欠損部分に煤の付着がみられる。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第11層
土色：—
取上：土-1103
No：957
様式：大和第三-3様式
高さ：27.3
胴径：22.7



MP- 編年-0145

055

056 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-3様式の小形の水差形土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。球形の胴部に直口する口頸部がつく。口頸部はやや粗雑な櫛描直線文2帯、胴部上半は簾状文4帯施文した後、胴部上端に横方向の把手を貼り付ける。胴部下半はミガキ調整で仕上げる。胴部下半に煤の付着がみられる。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第10層
土色：黒灰粘
取上：土-1003
No：946
様式：大和第三-3様式
高さ：12.4
胴径：10.7



MP- 編年-0279

056

057



MP- 編年 -0296

057 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の小形の鉢である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の鉢である。半球形の胴部に短く屈曲した口縁部がつく。口縁部は強いヨコナデで、端部は面をもつ。胴部の外面は大和形甕と同様な粗いハケ、内面はナデ調整で仕上げる。外面には煤が付着する。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第3層
土色：灰黒粘
取上：土-303
No.：410
様式：大和第Ⅲ-3様式
口径：11.7
高さ：7.5

058



MP- 編年 -0033

058 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の大型の高坏である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。坏部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。逆円錐状の坏部に水平縁と大きく垂下した口縁がつく。脚部は緩やかに拡がり裾部にいたる。坏部内外面と脚部外面には丁寧なミガキ調整を施す。脚部内面はナデ調整で仕上げる。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第10層
土色：黒灰粘
取上：土-1001
No.：946
様式：大和第Ⅲ-3様式
口径：36.3
高さ：28.0

059



MP- 編年 -0108

059 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の広口壺である。西地区中央部の第82次調査の土坑から出土した。完形品である。口縁端部は、上下に僅かに肥厚し、面をもつ。また、2孔一対の紐孔をあける。口縁部内面には櫛描刺突文、頸部から胴部上半には波状文と直線文を交互に施文する。胴部下半には煤の付着がみられる。

第82次調査
遺構：SK-109
層位：第2層
土色：—
取上：土-201
No.：180
様式：大和第Ⅲ-3様式
高さ：20.1
胴径：18.4

060



MP- 編年 -0128

060 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の小型の鉢である。南地区の第33次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。半球形の胴部で、口縁部は僅かに内湾する。口縁部にはヨコナデによる浅い凹線文2条を施す。外面はケズリ後ミガキ、内面はナデ調整で仕上げる。

第33次調査
遺構：SK-124
層位：第4-b層
土色：暗茶褐粘
取上：土-403
No.：680
様式：大和第Ⅲ-3様式
高さ：9.6
胴径：14.0

061 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-3様式の無紋の広口壺である。南地区の第69次調査の井戸から出土した。完形品である。縦長の球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁端部は上下に僅かに肥厚し面をもつ。胴部上半の外表面はハケ、下半はケズリ後ミガキ調整、内面はハケ調整で仕上げる。本器種にみられる煤の付着は、本土器にはみられない。

第69次調査
遺構：SK-1137
層位：第10層
土色：—
取上：土-1001
No：2139
様式：大和第三-3様式
高さ：26.9
胴径：21.0



MP- 編年-0061

061

062 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-3様式の小形の高坏である。南地区の第69次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。浅い碗状の坏部に短い脚柱部と広がる裾部がつく。口縁部に3条、脚裾端部に1条の凹線文を巡らせ、その間に丁寧なミガキ調整を施す。脚部内面はケズリ調整をおこなう。

第69次調査
遺構：SK-1137
層位：第7層
土色：—
取上：土-702
No：2135
様式：大和第三-3様式
口径：13.1
高さ：10.1



MP- 編年-0060

062

063 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-4様式の広口壺である。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁端部は上下に僅かに肥厚し、面をもつ。口縁端部には櫛描波状文、頸部に直線文1帯、胴部上半に直線文と波状文を交互に施文。胴部中央と下半に穿孔があり、口縁部の欠損も同様の可能性がある。

第79次調査
遺構：SK-101
層位：第5層
土色：—
取上：土-501
No：182
様式：大和第三-4様式
高さ：27.2
胴径：21.6



MP- 編年-0110

063

064 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-4様式の水差形土器である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。口縁端部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。口縁部下に2条の凹線文を巡らす。胴部上端には横方向の把手が付く。胴部上半の中位と胴部中央に櫛描刺突文を巡らす。把手の反対側にあたる底部側辺は使用による摩滅がみられる。

第22次調査
遺構：SK-105
層位：第4層
土色：—
取上：土-401
No：327
様式：大和第三-4様式
高さ：21.7
胴径：17.5



MP- 編年-0014

064

065



MP- 編年 -0137

065 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-4様式の無紋の壺である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁端部は上方に肥厚し面をもつ。胴部上半の外面はハケ、下半はナデ調整、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面には煤の付着がみられる。

第22次調査
遺構：SK-105
層位：第5層
土色：灰白色粗砂
取上：－
No.：324
様式：大和第Ⅲ-4様式
高さ：20.8
胴径：15.9

066



MP- 編年 -0123

066 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-4様式の大型の甕である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。口縁部から胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる甕である。口縁端部は上下方に肥厚し面をもつ。胴部上半の外面はタタキ成形、下半はミガキ、内面はハケ調整で仕上げる。外面に煤の付着がみられる。

第22次調査
遺構：SK-105
層位：第2層
土色：黒粘
取上：－
No.：331
様式：大和第Ⅲ-4様式
高さ：39.8
胴径：32.6

067



MP- 編年 -0016

067 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-4様式の高坏である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。坏部と脚部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。逆円錐状の坏部に水平縁と垂下した口縁がつく。脚部は緩やかに拡がり裾部にいたる。脚柱部には簾状文を5帯施文し、その下に未貫通の透孔を6方にいれる。脚部内面はケズリ調整で仕上げる。

第22次調査
遺構：SK-105
層位：第2層
土色：黒粘
取上：土-1228
No.：330
様式：大和第Ⅲ-4様式
最大幅：26.5
高さ：21.3

068



MP- 編年 -0066

068 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第Ⅲ-4様式の高坏である。西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。坏部や脚部の一部を欠損するが、ほぼ全体がわかる高坏である。浅い碗状の坏部に柱状の脚部から大きく拡がる裾部がつく。口縁部には2条の凹線文を巡らす。坏部内外面と脚部外面はミガキ調整、脚部内面はケズリ調整で仕上げる。

第37次調査
遺構：SK-2104
層位：第3層
土色：黒粘 (炭灰混)
取上：－
No.：66
様式：大和第Ⅲ-4様式
口径：27.5
高さ：19.4

069 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第三-4様式の小形の器台である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。完形品。筒状の胴部に緩やかに拡がる口縁部と裾部がつく。口縁端部は上下に肥厚し、面をもつ。口縁部内面には櫛描扇形文の崩れあるいは刺突文、端面には波状文を施文する。胴部には凹線文9条を巡らす。胴部中央に円形透孔を4方にあける。

第40次調査
遺構：SD-106
層位：第1層
土色：暗灰褐色粘質土
取上：土-101
No.：484
様式：大和第三-4様式
口径：14.6
高さ：12.3



MP- 編年-0170

069

070 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-1様式の把手付壺である。北地区の第48次調査の土器溜まりから出土した。口縁部・胴部・把手の一部を欠損するが、ほぼ全体が把握できる。頸胴部界に粘土紐を貼付、その上にヘラによる刺突文をいれる。把手は胴部上端に対し貼り付ける。口縁部に2孔一対の紐孔をあける。外面はタタキ後ナデ調整で仕上げる。

第48次調査
遺構：SX-1102
層位：-
土色：-
取上：-
No.：85
様式：大和第四-1様式
高さ：34.5
胴径：29.1



MP- 編年-0234

070

071 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-1様式中形の甕である。北地区の第48次調査の土器溜まりから出土した。口縁部から胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる甕である。口縁端部に1条の細い凹線文が巡る。胴部上半中央にヘラによる刺突文9つを並列させる。口縁部から胴部上半に被熱による発泡・歪みがみられる。煤の付着はみられない。

第48次調査
遺構：SX-1102
層位：-
土色：-
取上：-
No.：85
様式：大和第四-1様式
高さ：27.8
胴径：21.5



MP- 編年-0233

071

072 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-1様式の鉢である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。鉢部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁部がやや内湾ぎみになる浅い鉢である。口縁端部は、内側に肥厚する。鉢部の口縁部に1条、屈曲部に3条の凹線文を巡らす。鉢部内外面はハケ後ナデ調整、外面下半はケズリ調整で仕上げる。

第33次調査
遺構：SK-120
層位：第2層
土色：灰粘
取上：土-252
No.：460
様式：大和第四-1様式
高さ：11.4
胴径：26.4



MP- 編年-0025

072

073



MP- 編年 -0237

073 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第IV-1様式の台付鉢である。北地区の第51次調査の区画溝から出土した。鉢部と脚台部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる台付鉢である。口縁部がやや内湾ぎみになる浅い鉢部に円錐状の脚台部がつく。鉢部と脚台部に凹線文各4条を巡らす。鉢部内外面と脚台部外面はミガキ調整、脚部内面はケズリ調整で仕上げる。

第51次調査
遺構：SD-103
層位：第2層
土色：黒色粘質土
取上：－
No.：43
様式：大和第IV-1様式
口径：24.6
高さ：21.3

074



MP- 編年 -0293

074 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第IV-1様式の壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。胴部外面に器面剥落がみられるが、完形品である。扁球形の胴部に短く立ち上がる頸部と外方へ厚く肥厚する口縁部から成る。口縁端部はヨコナデ調整で丸く収める。胴部はハケ後ミガキ調整を施す。

第37次調査
遺構：SK-2120
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-501
No.：698
様式：大和第IV-1様式
高さ：18.2
胴径：20.3

075



MP- 編年 -0086

075 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第IV-1様式の高坏である。西地区北部の第13次調査の井戸から出土した。坏部の一部を欠く。半球形の坏部に水平縁・垂下口縁部がつく。脚部は台付鉢の形状で「ハ」字状を呈す。口縁部に凹線文1条、脚裾部に4条を施文する。6方に縦3つの円形透孔をあける。坏部の外面はケズリ後ミガキ、脚部内面はケズリをおこなう。

第13次調査
遺構：SK-107
層位：第1層
土色：黒粘
取上：土-102
No.：529
様式：大和第IV-1様式
口径：23.0
高さ：17.4

076



MP- 編年 -0092

076 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第IV-1様式の高坏である。西地区北部の第13次調査の井戸から出土した。坏部の一部を欠損するが、ほぼ完形。逆円錐状の坏部に水平縁と垂下した口縁がつく。脚部は、柱状の脚に大きく開く裾部がつく。口縁部には2条の凹線文が巡る。坏部底面は円盤充填をおこなう。坏部外面と脚部内面はケズリ調整で仕上げる。

第13次調査
遺構：SK-107
層位：第1層
土色：黒粘
取上：土-101
No.：529
様式：大和第IV-1様式
口径：25.2
高さ：19.0

077 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-2様式の大形短頸壺である。北端の第18次調査の河跡から出土した。口縁部を一部欠損するが、ほぼ完形である。口縁端部は内側に肥厚し、口縁部下に凹線文を3条入れる。口頸部から胴部上半の外面はハケ調整、胴部下半はケズリ後ミガキ調整、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。底部側辺に6cmほどの穿孔がある。

第18次調査
遺構：SR-3101
層位：—
土色：淡灰色粗砂
取上：—
No.：27
様式：大和第四-2様式
高さ：54.0
胴径：36.9



MP- 編年 -0241

078 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-2様式の水差形土器である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。胴部上端に横方向の把手が付く。口縁部には2条の凹線文を入れる。胴部上半はハケ後ナデ調整、下半はミガキ調整で仕上げる。把手の反対側にあたる底部側辺は使用による摩滅がみられる。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：南壁 Sec.
土色：粗砂
取上：土-01
No.：124
様式：大和第四-2様式
高さ：21.5
胴径：17.8



MP- 編年 -0140

079 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-2様式の中形の甕である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は上方に肥厚し面をもつ。外面はナデ調整、下半はケズリ、内面はナデ調整で仕上げる。外面は煤が厚く付着する。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：植物層
取上：土-25
No.：114
様式：大和第四-2様式
高さ：22.0
胴径：17.4



MP- 編年 -0001

080 弥生土器 (中期)

本土器は、大和第四-2様式の中形の甕である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は上方に肥厚し面をもつ。ヨコナデにより1条の凹線文が巡る。外面はタタキ後ハケ調整で仕上げる。外面は煤が厚く付着する。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：植物層
取上：土-27
No.：114
様式：大和第四-2様式
高さ：25.6
胴径：19.0



MP- 編年 -0005

081



MP- 編年 -0056

081 弥生土器（中期）

本土器は、大和第Ⅳ-2様式の中形の甕である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の甕である。口縁端部に2条の細い凹線文を施す。外面はハケ後ナデ調整、下半はケズリ、内面はハケ調整で仕上げる。胴部中央やや上には、ハケによる刺突文が全周する。外面は煤が厚く付着する。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：植物層
取上：土-26
No.：114
様式：大和第Ⅳ-2様式
高さ：25.6
胴径：19.3

082



MP- 編年 -0238

082 弥生土器（中期）

本土器は、大和第Ⅳ-2様式の中形の甕である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は面をもつ。外面はハケ後ナデ調整、下半はケズリ、内面は粗いハケ調整で仕上げる。外面に煤の付着がみられる。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：植物層
取上：土-28
No.：114
様式：大和第Ⅳ-2様式
高さ：19.9
胴径：15.4

083



MP- 編年 -0256

083 弥生土器（後期）

本土器は、大和第Ⅴ-1様式の小型の短頸壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。球形の胴部にやや外反する口頸部がつく。口縁部はシャープさに欠け、全体にやや鈍重な感の土器である。無紋で、外面は全体にミガキ調整、内面は全体にナデ調整で頸部の一部にミガキを入れる。

第37次調査
遺構：SK-2103
層位：第6層
土色：灰粘
取上：土-602
No.：277
様式：大和第Ⅴ-1様式
高さ：12.8
胴径：10.3

084



MP- 編年 -0088

084 弥生土器（後期）

本土器は、大和第Ⅴ-1様式の無頸壺蓋である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。完形品で、弥生085の無頸壺とセットになる。平坦な円盤状で、中央に摘みをつける。裾部に2孔一対の紐孔をあける。内外面はミガキ調整で仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-752
No.：405
様式：大和第Ⅴ-1様式
高さ：3.0
裾径：12.5

085 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の台付無頸壺である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形で、弥生084の蓋とセットになる。扁球形の胴部に僅かに突出させた口縁部がつく。口縁部下に2孔一對の紐孔をあける。外面はミガキ、内面はナデ調整で仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-757
No：405
様式：大和第V-1様式
高さ：15.2
胴径：19.9



MP- 編年 -0089

086 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の長頸壺である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。完形品である。球形の胴部に細長い口頸部がつく。口縁端部はヨコナデにより尖りぎみになる。胴部上半には細描きの線刻がみられ、大小の不整円が4つ重複して描かれている。内外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第8層
土色：—
取上：土-889
No：499
様式：大和第V-1様式
高さ：25.4
胴径：13.8



MP- 編年 -0249

087 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の無頸壺である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。完形品である。横長の球形の胴部に僅かに突出させた口縁部がつく。口縁端部はヨコナデにより外方へ突出させる。口縁部下に2孔一對の紐孔をあける。外面はミガキ、内面はナデ調整で仕上げる。外面に煤が付着する。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第8層
土色：—
取上：土-888
No：499
様式：大和第V-1様式
高さ：11.8
胴径：16.0



MP- 編年 -0250

088 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の高坏である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。坏部の円盤充填部分が欠損しているが、ほぼ完形である。浅い皿形の坏部に柱状の脚と大きく広がる裾部がつく。口縁部は短く上方に立ち上がる。端部は面をもつ。脚裾近くに円形の透孔を5方にあける。坏部の内外面や脚部外面はミガキ調整で仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-706
No：527
様式：大和第V-1様式
口径：26.6
高さ：20.5



MP- 編年 -0039



089 弥生土器 (後期)

本土器は、大和第V-1様式の高坏である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。完形品である。浅い皿形の坏部に裾部があまり拡がらない脚部がつく。口縁端部は面をもつ。脚部中央に円形透孔を3方に、その間に縦方向・脚裾部に横方向の小形透孔をあける。また、5～6条1単位のヘラ描直線文を脚部に4条、裾部に2条施す。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-763
No.：405
様式：大和第V-1様式
口径：32.7
高さ：26.1



090 弥生土器 (後期)

本土器は、大和第V-1様式の高坏である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。坏部の一部と脚裾部を欠くが、ほぼ全体のわかる高坏である。浅い皿形の坏部に直線的な「ハ」字状の脚部がつく。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部下に繊細な櫛描波状文2帯とその間に直線文を施す。脚部に円形の透孔を縦方向3方にあける。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：—
No.：402
様式：大和第V-1様式
口径：31.7
復元高：27.1



091 弥生土器 (後期)

本土器は、大和第V-1様式の器台である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。口縁部と裾部の一部を欠くが、ほぼ完形である。筒状の胴部に緩やかに拡がる口縁部と裾部がつく。口縁部は垂下し面をもつ。口縁部上面に円形竹管文2つを押捺する。裾部に凹線文を3条巡らす。胴部に円形の透孔を上列4方・下列6方にあける。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7(下)層
土色：—
取上：土-752
No.：402
様式：大和第V-1様式
口径：13.6
高さ：15.1



092 弥生土器 (後期)

本土器は、大和第V-1様式の器台である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。口縁部と裾部の一部を欠くが、ほぼ完形である。口縁部は垂下し面をもつ。2個一対の竹管文を、口縁部内面と端面の8方向に押捺する。胴部にもそれに対応するように小さめの円形透孔が、また、胴部下位には楕円形の透孔が5方にあけられる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第7(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-759
No.：405
様式：大和第V-1様式
口径：17.4
高さ：18.2

093 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の器台である。東端の第75次調査の環濠から出土した。完形品である。口縁部は垂下し面をもつ。口縁部内面に乱れた櫛描簾状文と波状文、口縁端面に2条のへらによる凹線文と赤彩円形文、胴部に13条の凹線文を巡らす。裾部には赤彩円形文と雫形透孔を交互8方向に入れる。

第75次調査
遺構：SD-101B
層位：第6層
土色：—
取上：土-610
No：237
様式：大和第V-1様式
口径：27.9
高さ：28.7



MP- 編年 -0085

093

094 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の小形の甕である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。完形品である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁部はヨコナデ、外面は全体にミガキ調整、内面はケズリ後ミガキ調整を施す。

第13次調査
遺構：SD-105
層位：—
土色：中期黒粘
取上：土-03
No：208
様式：大和第V-1様式
高さ：11.3
胴径：10.3



MP- 編年 -0253

094

095 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の小形の把手付鉢である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。半球形の胴部に縦方向の把手を貼り付ける。口縁部はヨコナデ、外面は全体にミガキ調整、内面はナデ後ミガキ調整を施す。

第13次調査
遺構：SD-105
層位：—
土色：中期黒粘
取上：土-01
No：208
様式：大和第V-1様式
口径：8.6
高さ：6.6



MP- 編年 -0071

095

096 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の高坏である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。坏部と脚部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。口縁端部は上下に僅かに肥厚し、面をもつ。水平縁の内側はヨコナデにより突出させる。坏部内外面と脚部外面にはミガキ調整を施す。脚部内面はナデ調整で仕上げる。

第40次調査
遺構：SD-101
層位：第7層
土色：—
取上：土-703
No：273
様式：大和第V-1様式
口径：17.2
高さ：14.8



MP- 編年 -0257

096

097



MP- 編年 -0259

097 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-1様式の高坏(結合形土器)である。南地区の第49次調査の区画溝から出土した。坏部と脚部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。大きく外反する坏部に柱状脚と有段の裾部がつく。口縁端部は下方に垂下し、上下端に小さな刻目を施す。有段の裾部の屈曲部に刻目、裾端部近くに2孔一対の透孔を4方にあける。

第49次調査
遺構：SD-103
層位：第1(下)層
土色：一
取上：土-20
No.：119
様式：大和第V-1様式
口径：29.9
高さ：23.3

098



MP- 編年 -0062

098 弥生土器（後期）

本土器は、大和第V-2様式の広口壺である。南地区の第69次調査の環濠から出土した。胴部の器面剥落があるが、完形である。横長の球形の胴部に上方へ短く突出させた頸部、強く外反した口縁部がつく。口縁端部は面をもつ。頸部中央に2孔一対の紐孔をあける。外面はミガキ、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第6層
土色：一
取上：土-601
No.：848
様式：大和第V-2様式
高さ：21.5
胴径：28.3

099



MP- 編年 -0300

099 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の長頸壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部にやや外反する長めの口頸部がつくもので、重厚感のある長頸壺である。口縁端部はやや丸めの面をもつ。外面はミガキ調整で仕上げる。胴部下半から底部は使用による摩滅が激しい。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第25層
土色：一
取上：土-2501
No.：1010
様式：大和第VI-1様式
高さ：28.1
胴径：20.0

100



MP- 編年 -0301

100 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の長頸壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部と胴部の一部を欠くが、ほぼ完形である。扁球形の胴部に外反する長めの口頸部がつくものである。口縁端部はやや丸めの面をもつ。口縁部下に3本一単位の櫛描きによる粗雑な波状文を施す。頸部外面はナデ、胴部はミガキ調整で仕上げる。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第13層
土色：灰黒粘
取上：土-1302
No.：944
様式：大和第VI-1様式
高さ：25.7
胴径：17.8

101 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の短頸壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。やや縦長の球形の胴部にやや外反する口頸部がつくものである。口縁端部はやや丸めの面をもつ。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。胴部下半は使用による摩滅が僅かにみられる。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第11層
土色：灰黒粘（植物混）
取上：土-1101
No：945
様式：大和第VI-1様式
高さ：24.4
胴径：18.0



MP- 編年 -0302

101

102 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の短頸壺である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。縦長の球形の胴部にやや外反する口頸部がつくものである。口縁端部は面をもつ。外面はタタキ成形後ハケ・ナデ調整で仕上げる。底部は使用による摩滅が僅かにみられる。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第20層
土色：灰黒粘（植物混）
取上：土-2003
No：968
様式：大和第VI-1様式
高さ：20.0
胴径：13.1



MP- 編年 -0303

102

103 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の高坏である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部と脚裾部の一部を欠くが、ほぼ完形である。逆円錐状の坏部に反した水平縁の口縁部を指頭により成形する。脚部は小さく「ハ」字状を呈す。全体に薄手の作りであるが、粗雑である。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第4(下)層
土色：黒灰粘
取上：土-1427
No：468
様式：大和第VI-1様式
口径：16.8
高さ：13.1



MP- 編年 -0299

103

104 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の高坏である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。裾部の一部を欠くが、ほぼ完形である。浅い碗形の坏部に短脚の「ハ」字形の脚部がつく。口縁端部は丸い。坏部内外面や脚部外面は粗くミガキ調整をおこなう。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第6層
土色：-
取上：土-607
No：583
様式：大和第VI-1様式
口径：18.1
高さ：12.3



MP- 編年 -0298

104

105



MP- 編年 -0297

105 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の器台である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形品である。筒状の胴部に緩やかに広がる口縁部と裾部がつく。口縁部は垂下し面をもつ。口縁部内面と端面に円形竹管文を巡らす。裾部ちかくには円形透孔を2段にわたって4方向と6方向に入れる。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-545
No.：496
様式：大和第VI-1様式
口径：17.1
高さ：19.7

106



MP- 編年 -0094

106 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の小形無頸壺の蓋である。中央区の第76次調査の溝から出土した。完形品で、弥生107の小形無頸壺とセットになる。笠形を呈するが、天井部は広く平坦になる。裾端部は面をもち、2孔一對の紐孔をあける。

第76次調査
遺構：SD-1106
層位：北壁Sec.
土色：—
取上：土-02
No.：477
様式：大和第VI-1様式
高さ：1.5
裾径：4.4

107



MP- 編年 -0093

107 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の小形無頸壺である。中央区の第76次調査の溝から出土した。完形品で、弥生106の蓋とセットになる。横長の球形の胴部に上方へ短く突出させた口縁部がつく。口縁端部は面をもつ。胴部上端に2孔一對の紐孔をあける。外面はミガキ、内面はナデ調整で仕上げる。

第76次調査
遺構：SD-1106
層位：北壁Sec.
土色：—
取上：土-02
No.：477
様式：大和第VI-1様式
高さ：8.7
胴径：10.2

108



MP- 編年 -0143

108 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-1様式の甕である。南地区の第69次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は面をもつ。胴部は右上がりのタタキ成形、内面はケズリ調整で仕上げる。外面に煤の付着がみられる。胴部中央の対になる位置に穿孔がみられる。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第6層
土色：—
取上：土-614
No.：848
様式：大和第VI-1様式
高さ：32.0
胴径：23.6

109 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の長頸壺である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部にやや外反ぎみに立ち上がる口頸部がつく。口縁端部は薄くなる。外面の頸部はハケ、胴部上半はタタキ後ナデ、下半はナデ調整で仕上げる。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第6層
土色：黒粘
取上：土-601
No：506
様式：大和第VI-2様式
高さ：18.9
胴径：13.5



MP- 編年-0022

110 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の甕である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は丸い。胴部上半の外面はハケ調整、下半はタタキ成形、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面に煤の付着がみられる。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第6層
土色：黒粘
取上：土-602
No：506
様式：大和第VI-2様式
高さ：26.4
胴径：20.0



MP- 編年-0100

111 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の甕である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は丸い。胴部外面は右上がりのタタキ成形、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面の胴部中央に煤の付着がみられる。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-348
No：483
様式：大和第VI-2様式
高さ：26.3
胴径：18.3



MP- 編年-0263

112 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の小形鉢である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。半球形の胴部に僅かに外反する口縁部がつく。口縁端部は面をもつ。外面はハケ後ナデ、内面はナデ調整で仕上げる。外面に煤、内面に炭化物が厚く付着する。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第3(下)層
土色：黒粘
取上：土-361
No：496
様式：大和第VI-2様式
口径：12.8
高さ：9.7



MP- 編年-0152

113



MP- 編年 -0023

113 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の有孔鉢である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。半球形の胴部に小さな底部がつく。口縁部は薄い。底部中央には0.7cmほどの円孔をあける。内外面はナデ後ミガキ調整で仕上げる。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-305
No.：412
様式：大和第VI-2様式
口径：13.7
高さ：10.2

114



MP- 編年 -0027

114 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の高杯である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。完形品である。浅い皿形の坏部に緩やかに広がる脚部がつく。口縁部は短く外反し、端部は面をもつ。脚裾近くに円形の透孔を4方にあける。内外面はヨコナデ・ナデ調整で、坏部内面は僅かにミガキ調整で仕上げる。裾部の亀裂は粘土で補修する。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-337
No.：420
様式：大和第VI-2様式
口径：21.4
高さ：15.0

115



MP- 編年 -0070

115 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-2様式の器台である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。裾部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる器台である。口縁部・裾部が大きく外反する形態である。口縁部は下方へ垂下し面をもつ。胴部中央やや下側に円形の透孔を5方にあける。外面と胴部上半の内面はミガキ調整で仕上げる。

第33次調査
遺構：SK-125
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-334
No.：420
様式：大和第VI-2様式
口径：19.5
高さ：13.0

116



MP- 編年 -0101

116 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の広口壺である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は丸い。胴部上端に櫛描直線文を1帯巡らす。胴部外面はハケ後ミガキ、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。底部側辺は、使用による摩滅がみられる。

第33次調査
遺構：SK-114
層位：第5層
土色：黒灰粘
取上：土-505
No.：476
様式：大和第VI-3様式
高さ：23.2
胴径：22.2

117 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の広口壺である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は上方へ肥厚し、面をもつ。胴部上端にへら描直線文を1条巡らすが、やや雑である。底部側辺は、使用による摩滅がみられる。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-g
No：37
様式：大和第VI-3様式
高さ：20.9
胴径：18.9



MP- 編年 -0186

118 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の長頸壺である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。完形品である。縦長の球形の胴部に直立する口頸部がつき、口縁端部は丸い。頸部中央にへら描直線文1条を巡らす。口縁部はヨコナデ、胴部はハケ調整で仕上げる。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-24
No：38
様式：大和第VI-3様式
高さ：17.5
胴径：11.0



MP- 編年 -0187

119 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の高坏である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部と脚裾部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。浅い碗形の坏部に緩やかに広がる脚部がつく。口縁端部は丸い。脚裾近くに円形の透孔を4方にあける。坏部の内外面、脚部外面はミガキ調整、脚部内面はヨコナデ・ナデ調整で仕上げる。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-c
No：37
様式：大和第VI-3様式
口径：17.1
高さ：12.4



MP- 編年 -0175

120 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の手焙形土器である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。覆い部と鉢部の一部を欠くが、ほぼ完形である。鉢部中央には断面三角形の粘土紐を貼付け、その上に刻目を入れる。また、鉢の口縁部は短く外反するが、覆い部との接合部は受口状にし、端部に細かな刻目を入れる。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：中層
土色：黒粘
取上：土-03
No：49
様式：大和第VI-3様式
残存高：14.8
胴径：15.9



MP- 編年 -0185

121



MP- 編年 -0131

121 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の高坏である。北東端の第24次調査の環濠から出土した。脚裾部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる高坏である。浅い皿形の坏部に緩やかに拡がる脚部がつく。口縁部は短く外反し、端部は面をもつ。脚裾近くに円形の透孔を4方にあける。坏部の内外面、脚部外面はミガキ調整で仕上げる。

第24次調査
遺構：SD-107
層位：第3(下)層
土色：黒粘
取上：土-370
No：182
様式：大和第VI-3様式
口径：24.0
高さ：17.4

122



MP- 編年 -0074

122 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の甕である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。口縁端部は面をもつ。口縁部はヨコナデ、頸部はハケ、胴部は右上がりのタタキ成形、内面はハケ調整で仕上げる。外面に煤、内面に炭化物の付着がみられる。

第14次調査
遺構：SK-101
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-27
No：10
様式：大和第VI-3様式
高さ：22.4
胴径：18.0

123



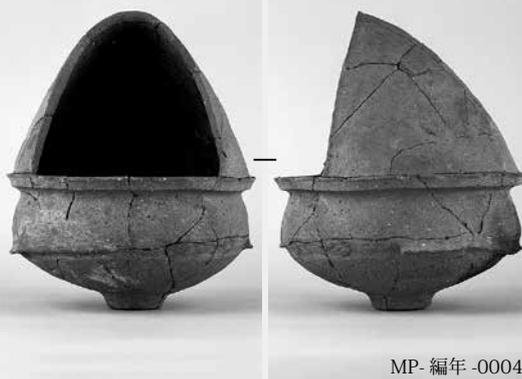
MP- 編年 -0003

123 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の大形鉢である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部の一部を欠くが、ほぼ完形である。半球形の胴部に短く外反する口頸部がつく。口縁端部は面をもつ。口縁部はヨコナデ、胴部上半の外面はハケ後ナデ調整、下半は右上がりのタタキ成形である。

第13次調査
遺構：SD-104
層位：上層
土色：黒粘
取上：土-77
No：135
様式：大和第VI-3様式
口径：26.2
高さ：19.4

124



MP- 編年 -0004

124 弥生土器（後期）

本土器は、大和第VI-3様式の手焙形土器である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。覆い部・鉢部の一部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。扁球形の鉢部に円錐状の覆い部がつく。鉢部中央の屈曲部には断面三角形の粘土帯を貼り付ける。鉢部の口縁部は受口状で、端部は面をもつ。内外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。

第13次調査
遺構：SD-104
層位：上層
土色：黒粘
取上：土-146
No：135
様式：大和第VI-3様式
高さ：22.3
胴径：18.3

125 土師器（古墳時代初頭）

本土器は、庄内式の広口壺である。南東端の第40次調査の井戸から出土した。口縁端部の一部を欠く。横長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。底部は平底である。頸部から胴部は、ハケ調整後、胴部を疎らに縦位のヘラミガキを施す。胴部上端にヘラによる「ノ」字形3つの記号を描く。また、小動物の爪圧痕がみられる。

第40次調査
遺構：SK-101
層位：第11層
土色：—
取上：土-11008
No：345
様式：庄内式
高さ：30.9
胴径：27.7



MP- 編年 -0268

125

126 土師器（古墳時代初頭）

本土器は、庄内式の広口壺である。南東端の第40次調査の井戸から出土した。完形である。球形の胴部に大きく外反する口縁部がつく。口縁端部は面をもち、ヨコナデで仕上げる。底部は小さめの平底である。胴部上端から底部にかけては、ヘラミガキを一体的に施す。

第40次調査
遺構：SK-101
層位：第12層
土色：黒灰色シルト
取上：土-12001
No：357
様式：庄内式
高さ：21.7
胴径：20.1



MP- 編年 -0098

126

127 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の広口壺である。西地区中央部の第38次調査の井戸から出土した。口縁部を一部欠損する。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は面をもち、ヨコナデで仕上げる。底部は小さめの平底である。胴部上端から底部にかけては、右上がりのタタキ後、ヘラミガキを一体的に施す。胴部中央に小さな穿孔がみられる。

第38次調査
遺構：SK-101
層位：第4層
土色：—
取上：土-401
No：115
様式：布留1式
高さ：27.0
胴径：22.4



MP- 編年 -0278

127

128 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の広口壺である。北地区の第48次調査の井戸から出土した。完形である。縦長の球形の胴部に外反する口縁部がつく。丸底である。口縁端部は内方に肥厚する。胴部上端から底部にかけては、細条のハケ調整で仕上げる。内面はケズリを施す。

第48次調査
遺構：SK-1104
層位：第4層
土色：—
取上：土-401
No：241
様式：布留1式
高さ：30.5
胴径：24.8



MP- 編年 -0195

128

129



MP- 編年 -0096

129 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留1式の二重口縁壺である。北地区の第48次調査の井戸から出土した。胴部中央の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる壺である。球形の胴部に外反する頸部とさらに屈曲して外上方へのびる口縁部がつく。口縁端部は外側へ肥厚し丸い。口頸部はヨコナデ、胴部は細条のハケ調整で仕上げる。胴部内面はケズリ調整である。

第48次調査
遺構：SK-1101
層位：第3層
土色：—
取上：土-301
No.：272
様式：布留1式
高さ：22.7
胴径：19.3

130



MP- 編年 -0191

130 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の精製の小形丸底壺である。北地区の第26次調査の区画溝から出土した。口縁端部を僅かに欠く。小さな丸底の胴部に大きく外反する口縁部がつく。

第26次調査
遺構：SD-1101
層位：第2層
土色：黒粘
取上：土-204
No.：168
様式：布留1式
口径：12.1
高さ：7.3

131



MP- 編年 -0194

131 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の小形鉢である。西地区中央部の第38次調査の井戸から出土した。口縁端部を僅かに欠く。丸底の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は内方へ僅かに肥厚する。胴部中央に穿孔がみられる。

第38次調査
遺構：SK-101
層位：第4層
土色：—
取上：土-402
No.：115
様式：布留1式
口径：10.5
高さ：7.4

132



MP- 編年 -0275

132 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の精製の小形器台である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。完形である。脚部は、直線的で「ハ」字状に拡がる。3方に透孔をもつ。台部は浅い碗形を呈す。口縁端部がやや丸い。内外面はミガキ調整で仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第3層
土色：植物層
取上：土-307・308
No.：94
様式：布留0式
高さ：9.4
裾径：11.3

133 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の精製の高坏である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。完形である。脚部は、やや拡がる柱状で緩やかに拡がる裾部がつく。3方に透孔をもつ。坏部は、大きく外反する口縁部がつく。口縁端部はやや面をもつ。内外面はミガキ調整で仕上げる。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第4層
土色：—
取上：土-417
No：162
様式：布留0式
口径：22.1
高さ：15.9



MP- 編年 -0182

133

134 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の精製の高坏である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。完形である。脚部は、やや拡がる柱状で大きく屈曲した裾部がつく。坏部は、大きく外反する口縁部がつく。口縁端部は尖りぎみである。脚柱部と坏部底面はケズリ後、外面全体をミガキ調整で仕上げ、坏部内面は横位ミガキ後放射状のミガキで仕上げる。

第40次調査
遺構：SD-103
層位：第2層
土色：黒褐色粘質土
取上：—
No：60
様式：布留1式
口径：17.5
高さ：14.6



MP- 編年 -0179

134

135 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の甕である。北地区の第23次調査の井戸から出土した。完形である。球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。丸底である。口縁端部は内方に肥厚する。胴部上端から底部にかけては、細条のハケ調整で仕上げる。内面はケズリを施す。胴部中央に小さな穿孔がみられる。外面全体に厚く煤が付着する。

第23次調査
遺構：SK-124
層位：第2(下)層
土色：黒粘
取上：土-204
No：332
様式：布留1式
高さ：19.2
胴径：17.3



MP- 編年 -0097

135

136 土師器（古墳時代前期）

本土器は、布留式の甕である。北地区の第26次調査の井戸から出土した。完形である。球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。丸底である。口縁端部は内方に肥厚する。胴部上端から底部にかけては、細条のハケ調整で仕上げる。内面はケズリを施す。胴部下半に小さな穿孔がみられる。外面全体に厚く煤が付着する。

第26次調査
遺構：SK-2106
層位：第3層
土色：黒粘
取上：土-303
No：286
様式：布留1式
高さ：19.8
胴径：19.7



MP- 編年 -0141

136

001



MP- 搬入 -0075

001 搬入土器（瀬戸内地方）

本土器は瀬戸内地方の甕で、共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。西地区中央部の第20次調査の土坑(木器貯蔵穴)から出土した。口縁部と胴部の一部を欠くが、ほぼ完形である。底部から内湾しながら広がる胴部に短く屈折した逆「L」字形の口縁部がつく。口縁端部は丸い。口縁部下に4条のへら描直線文を巡らす。胴部外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面の口縁部に煤、内面全体に炭化物が付着し、特に底部の炭化物の付着は厚い。淡褐色を呈す。

第20次調査
遺構：SK-215
層位：－
土色：－
取上：Sec. 土-13
No.：718
共伴：大和第Ⅰ-2様式
高さ：25.8
胴径：25.4

002



MP- 搬入 -0104

002 搬入土器（瀬戸内地方）

本土器は瀬戸内地方の甕で、共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。西地区中央部の第20次調査の大溝や土坑から出土した。口縁部と胴部の一部、底部が残存する。底部から内湾しながら広がる胴部に短く屈折した逆「L」字形の口縁部がつく。口縁端部は丸い。口縁部下に3条のへら描直線文を巡らす。胴部外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。外面の胴部に煤の付着がある。淡褐色を呈す。

第20次調査
遺構：SK-206
層位：第1(下)層
土色：暗褐色土
取上：－
No.：418
共伴：大和第Ⅰ-2様式
口径：23.8
復元高：26.3

003



MP- 搬入 -0052

003 搬入土器（中部地方）

本土器は中部地方の鉢胴部片で、共伴土器は大和第Ⅱ-1様式であるが、さらに遡る可能性もある。中央区の第53次調査の土坑から出土した。内湾する胴部に外反する口縁部がつくようである。上部は文様がなく、やや外反ぎみになるため、鉢胴部上半部近くであろう。文様帯は、小片のため全体は不明であるが、上下の隆線間に向かい合う網状文を表現するもので、隆線の結合部はやや隆起が高い。隆線はミガキにより低くなる。また、文様内はミガキ込みをおこなう。赤色塗彩の痕跡がみられる。内面はミガキ調整である。

第53次調査
遺構：SK-201
層位：第2層
土色：灰褐色粘土
取上：その2
No.：395
共伴：大和第Ⅱ-1様式
残存長：4.9
残存幅：6.0

004 搬入土器（中部地方）

本土器は中部地方の鉢胴部片で、共伴土器は大和第Ⅰ～Ⅲ様式であるため、時期判別はできない。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。小片のため、文様全体の構成は不明であるが、細めの隆線2条を一単位とする網状文で隆線部はわずかにミガキ調整を施している。また、文様内もミガキ込みをしているようである。内面はミガキ調整である。

第53次調査
遺構：SR-101A
層位：第4(上)層
土色：灰黒色粘砂
取上：－
No.：214
共伴：大和第Ⅰ～Ⅲ様式
残存長：3.0
残存幅：3.0



MP-搬入-0080

005 搬入土器（中部地方）

本土器は中部地方の浮線網状文のある土器片である。共伴土器は大和第Ⅰ～Ⅲ様式であるため、時期判別はできない。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。小片のため土器片の天地は不明で、土器片の傾きから壺であれば胴部上半、鉢とすれば胴部下半になる。2条の隆線の下に網状線の一部が残る。隆線間の沈線は、ヘラ状工具によって深く巡らされている。内面はミガキ調整を施している。

第53次調査
遺構：SR-101A
層位：第4(上)層
土色：灰黒色粘砂
取上：－
No.：292
共伴：大和第Ⅰ～Ⅲ様式
残存長：2.8
残存幅：3.3



MP-搬入-0081

006 搬入土器（筑前地方）

本土器は筑前地方の須玖式の甕で、共伴土器は大和第Ⅲ-3・4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部の破片で、胴部から屈折した逆「L」字形の口縁部がつく。口縁端部は丸い。胴部外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。口縁部上面に赤色塗彩がみられる。淡褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102C
層位：第7層
土色：青灰色シルト
取上：－
No.：94
共伴：大和第Ⅲ-3・Ⅲ-4様式
残存長：5.8
残存幅：12.8



MP-搬入-0017

007 搬入土器 (吉備地方)



口縁部～胴部上端の文様



消された鋸歯文(□部分)

本土器は吉備地方の大形壺で、共伴土器は大和第Ⅳ-2様式である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。口縁部・胴部・底部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。胴部上半が肩の張る壺で、やや外反ぎみに立ち上がる頸部と大きく外反する口縁部がつく。口縁部は上下に肥厚させ、広い面をもつ。口縁端面と頸部に凹線文、口縁端面と胴部上端に円形竹管文をヘラ描きで繋いだ連続渦文、胴部中央に2段の刺突文を巡らす。また、この部分にはヘラミガキで消された鋸歯文が僅かに残る。乳褐色を呈す。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第4(下)層
土色：黒粘
取上：土-4001
No.：666
共伴：大和第Ⅳ-2様式
復元高：83.1
復元胴径：55.8

008 搬入土器 (吉備地方)



口縁部～胴部の文様

本土器は吉備地方の大形器台で、共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。北地区の第51次調査の井戸から出土した。口縁部・胴部・裾部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる器台である。柱状の胴部に大きく外反する口縁部がつく。口縁部は斜め上方に肥厚させ、広い面をもつ。口縁端面と胴部に凹線文、口縁端面の凹線文上に円形竹管文をヘラ描きで繋いだ連続渦文を2段に巡らす。胴部の5帯の凹線文間には長方形の透孔を4段6方にあける。乳褐色を呈す。

第51次調査
遺構：SK-104
層位：第5層
土色：—
取上：土-546
No.：100
共伴：大和第Ⅴ-1様式
口径：39.6
高さ：73.4

009 搬入土器（吉備地方）

本土器は吉備地方の広口壺で、共伴土器は大和第IV-2様式である。南地区の第65次調査の溝から出土した。口縁部と胴部の一部が残存する。胴部上半が肩の張る壺で、外反ぎみに立ち上がる口頸部がつく。口縁端部は内外方へ突出させ、広い面をもつ。口縁端面と頸部に凹線文を巡らす。被熱により器面は摩耗する。乳褐色を呈す。

第65次調査
遺構：SD-123
層位：第1層
土色：黒褐色土
取上：G-104
No.：860
共伴：大和第IV-2様式
残存高：26.1
復元胴径：32.9

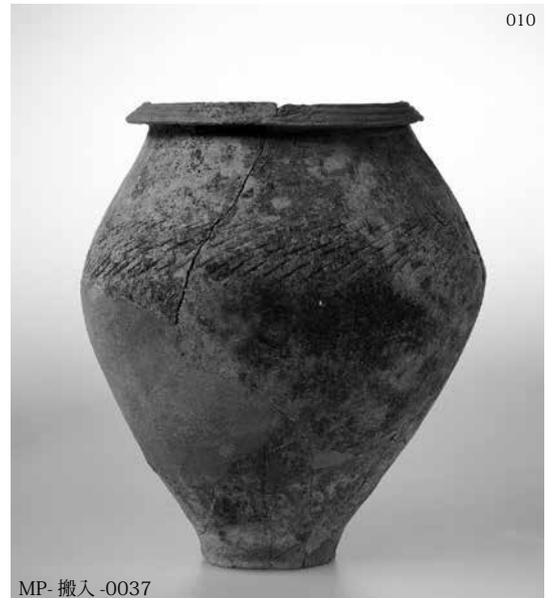


MP- 搬入 -0067

010 搬入土器（瀬戸内地方）

本土器は瀬戸内地方の小形の甕で、共伴土器は大和第IV様式である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。口縁部から底部までの一部を欠損する。胴部上半が肩の張る甕で、口縁部は短く屈曲する。口縁端部は内外方へ突出させ、口縁端面に3条の凹線文を巡らす。胴最大径部よりやや上にへらによる刺突文3段を巡らす。外面下半はミガキ、内面は縦位のケズリをおこなう。淡褐色を呈す。

第40次調査
遺構：SD-102B
層位：第6層
土色：茶褐色土
取上：—
No.：395
共伴：大和第IV様式
高さ：19.1
胴径：16.6



MP- 搬入 -0037

011 搬入土器（摂津地方）

本土器は摂津地方の高坏で、共伴土器は大和第III-3様式である。西地区中央部の第19次調査の土坑から出土した。脚部の一部である。脚部の屈曲部分にへら描鋸歯文と、へらの刺突による三角形の透かし状の凹みを2段に巡らせる。また、この文様体の上下と裾端面に凹線文を施文する。脚部内面はヨコナデである。淡褐色を呈す。

第19次調査
遺構：SK-105
層位：第2層
土色：黒褐色砂
取上：土-218
No.：430
共伴：大和第III-3様式
残存高：11.1
残存幅：15.4



MP- 搬入 -0004

012



MP- 搬入 -0036

012 搬入土器（摂津地方）

本土器は摂津地方の水差形土器で、共伴土器は大和第Ⅲ-4様式である。西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。口縁部を小欠するが、ほぼ完形品である。丸みのある扁球形の胴部に上方に立ち上がる口頸部がつく。胴部上端に横方向の把手がつく。口頸部には凹線文を7条巡らせる。胴部中央やや上に楡による刺突文3段を巡らす。胴部下半に穿孔がみられる。乳褐色を呈す。

第37次調査
遺構：SK-2106
層位：第2層
土色：—
取上：土-201
No.：87
共伴：大和第Ⅲ-4様式
高さ：23.5
胴径：19.9

013



MP- 搬入 -0093

013 搬入土器（生駒山西麓地方）

本土器は生駒山西麓地方の小形壺で、共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。中央区の第76次調査の井戸から出土した。欠損した口頸部の上端を研磨・再利用している。頸部から胴部にかけて楡描簾状文を1帯・3帯施文する。また、胴部上半に3個1単位の円形浮文を2段5方向に貼り付ける。胴部下半に穿孔がみられる。暗褐色を呈す。なお、壺内部には、灰白色で四角錐状の小礫（長4.7cm、幅2.7cm、厚2.7cm、重49.7g）が内蔵されていた（附. 写真）。

第76次調査
遺構：SK-1107
層位：第2層
土色：—
取上：土-210
No.：275
共伴：大和第Ⅲ-3様式
高さ：10.4
胴径：9.6

014



MP- 搬入 -0057

014 搬入土器（生駒山西麓地方）

本土器は生駒山西麓地方の水差形土器で、共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口頸部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。下膨れの胴部に緩やかに外反する口頸部がつき、口縁部は把手側が低くなるように斜めに切り取られている。胴部上端に横方向の把手を貼り付ける。頸部に楡描刺突文2帯、胴部上半に簾状文5帯を施文する。文様間にはミガキを挿入する。淡褐色を呈す。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第13層
土色：—
取上：土-1301
No.：961
共伴：大和第Ⅲ-3様式
高さ：20.0
胴径：17.4

015

015 搬入土器（生駒山西麓地方）

本土器は生駒山西麓地方の水差形土器で、共伴土器は大和第三-3様式である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口頸部を欠損するが、ほぼ全体のわかる水差形土器である。下膨れの胴部に横方向の把手を貼り付ける。頸部下端に櫛描刺突文、胴部上半に簾状文5帯を施文する。文様間にはミガキを施す。黒褐色を呈す。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第13層
土色：—
取上：土-1302
No.：961
共伴：大和第三-3様式
残存高：13.1
胴径：11.9



MP-搬入-0058

016

016 搬入土器（生駒山西麓地方）

本土器は生駒山西麓地方の台付水差形土器で、共伴土器は大和第三-4様式である。西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部、把手の一部、脚台を欠損するが、ほぼ全体のわかる水差形土器である。下膨れの胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。口縁部は把手側が低くなるように斜めに切り取られている。頸部には櫛描刺突文5帯、胴部には幅広の簾状文4帯を施文する。文様間にはミガキを挿入、また、縦位の3本一単位のヘラミガキ（暗文）を6方に入れる。底部は円盤充填をする。黒褐色を呈す。外面に煤が付着する。

第37次調査
遺構：SK-2106
層位：第2層
土色：—
取上：土-202
No.：87
共伴：大和第三-4様式
復元高：21.2
胴径：14.4



MP-搬入-0056

017

017 搬入土器（生駒山西麓地方）

本土器は生駒山西麓地方の甕で、共伴土器は大和第三-2様式である。西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部、底部を欠損するが、ほぼ全体のわかる甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁部は面をもつ。胴部下半はケズリ後、全体をミガキ、内面はナデ後ミガキ調整を施す。黒褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第37次調査
遺構：SK-2114
層位：第4層
土色：黒粘
取上：土-426
No.：352
共伴：大和第三-2様式
復元高：21.3
胴径：15.8



MP-搬入-0105

018



MP- 搬入 -0074

018 搬入土器（近江地方）

本土器は近江地方の甕で、共伴土器は大和第Ⅲ-4様式である。南地区の第44次調査の区画溝から出土した。胴部と底部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる甕である。縦長の球形の胴部に大きく外反した受口状口縁がつく。受口は内湾し、口縁端部は面をもつ。口縁部側辺に櫛描刺突文、胴部は直線文3と刺突文2を交互に描き、最下段に波状文を施文する。胴部外面は粗いハケ調整で仕上げる。灰褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第44次調査
遺構：SD-103
層位：第3層
土色：灰黒粘
取上：土-316
No.：201
共伴：大和第Ⅲ-4様式
高さ：27.3
胴径：20.6

019



MP- 搬入 -0078

019 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の甕で、共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。中央区の第98次調査の落ち込み状遺構から出土した。口縁部・胴部・底部の一部が残存し、ほぼ全体のわかる甕である。胴部は底部から内湾ぎみに立ち上がり、口縁部はさらに緩やかに外反する。口縁端部は刻目を入れる。内外面の全面に横位の条痕を入れる。外面全体に煤が付着する。

第98次調査
遺構：SX-201
層位：第1層
土色：灰褐粘（植物混）
取上：—
No.：551
共伴：大和第Ⅱ-1様式
復元高：27.7
復元口径：27.5

020



MP- 搬入 -0013

020 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の内傾口縁土器で、中世大溝出土のため、共伴土器は不明であるが、大和第Ⅱ様式頃と考えられる。西地区中央部の第22次調査地から出土した。口縁部と胴部の一部が残存する。扁球形の胴部で内傾する口縁部がつく。口縁部は面をもつ。胴部上半は左上がりの二枚貝条痕、下半はナデ調整で仕上げる。淡褐色を呈す。

第22次調査
遺構：中世大溝
層位：—
土色：黒灰色砂質土
取上：—
No.：178
共伴：大和第Ⅱ様式？
復元高：14.2
復元胴径：20.2

021 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の厚口鉢で、共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部が残存する。扁平な浅い碗状の胴部に短く内向する口縁部がつく。口縁部は厚く、面をもつ。口縁部の上面は二枚貝条痕を直線文のように施す。胴部下半はナゲ調整で仕上げ。淡褐色を呈す。

第23次調査
遺構：SK-123
層位：第2層
土色：暗黄褐色土
取上：—
No.：360
共伴：大和第Ⅱ-2様式
復元高：7.6
胴径：20.6



021

MP-搬入-0023

022 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の広口長頸壺で、共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。南地区の第86次調査の溝から出土した。口縁部と胴部下半が欠損する。球形の胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。頸部と胴部上半は、幅広の二枚貝直線帯の上下をへら描直線文を深く描き区画する。これら文様間はミガキ調整を施す。乳褐色を呈す。

第86次調査
遺構：SD-5201
層位：第5層
土色：—
取上：土-501
No.：132
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存高：19.6
胴径：21.0



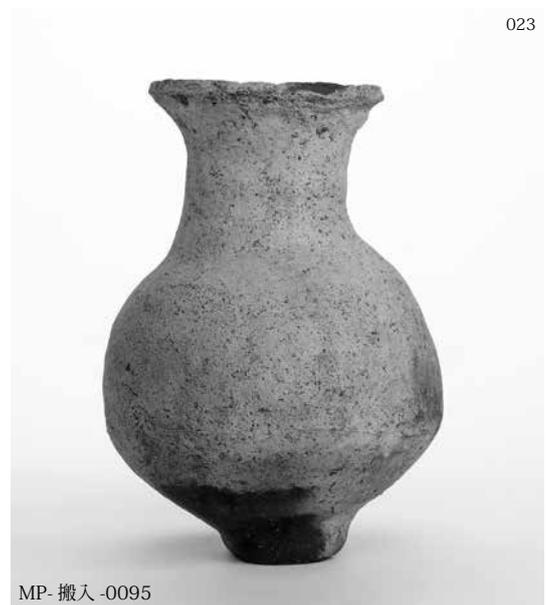
022

MP-搬入-0073

023 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の細頸壺で、共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部が欠損するが、ほぼ完形である。下膨れの胴部で上半は球形を呈す。口頸部は緩やかに外反する。口縁端部は面をもつ。外面は器面が剥落し、文様等は不明瞭であるが、無紋の壺と思われる。底部は一部欠損するが、使用による器面摩滅がみられる。灰褐色を呈す。

第37次調査
遺構：SK-2116
層位：第4層
土色：植物層
取上：土-405
No.：1091
共伴：大和第Ⅱ-3様式
高さ：27.5
胴径：20.2



023

MP-搬入-0095



MP- 搬入 -0064

024 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の細頸壺で、共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。北地区の第23次調査の区画溝から出土した。口縁～胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。下膨れの胴部に緩やかに外反する短い口頸部がつく。頸胴部界には段を有する。胴部上半に幅広の細条の櫛描直線文2帯を施文し、その間に波状文を挿入する。また、縦位の4帯一単位の波状文を4方に描く。口頸部の内外面はヨコハケ、胴部下半の外面はミガキ調整を施す。乳褐色を呈す。

第23次調査
遺構：SD-103
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：土-235
No.：178
共伴：大和第Ⅱ-3様式
復元高：25.9
復元胴径：20.8



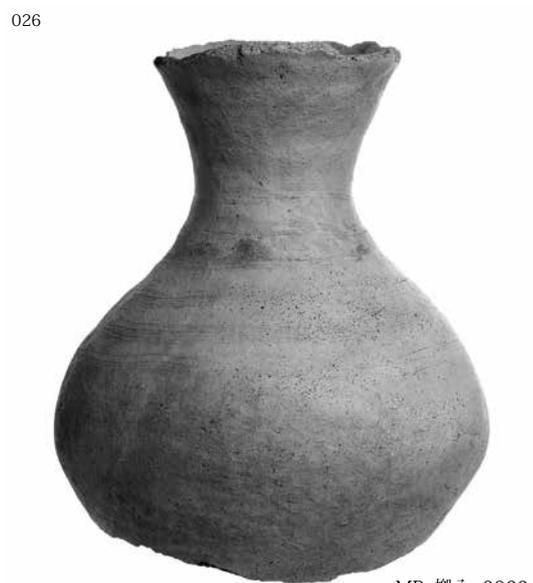
MP- 搬入 -0025

025 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の細頸壺で、共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口頸部と胴部の一部が残存する。下膨れの胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。口縁部は大きく内湾させ、袋状にする。口縁部外面には櫛描波状文2帯施文し、その間にミガキを挿入する。また、3本一単位の縦位の区画線を5方にいれる。頸部と胴部中央には直線文を隙間無く施文し、文様帯の上下にへら描きの区画線をいれる。文様帯以外の部分はミガキ調整を施す。また、6条一単位の縦位の波状文を数方向に描く。外面は淡赤褐色を呈す。

025-1

第23次調査
遺構：SK-151
層位：第2層
土色：灰粘
取上：—
No.：226
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存高：12.3
頸部径：11.7



MP- 搬入 -0066

026 搬入土器（伊勢湾岸地方）

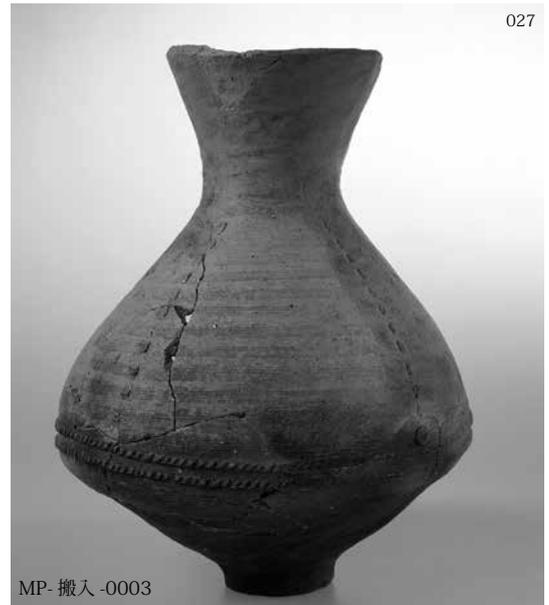
本土器は伊勢湾岸地方の広口長頸壺で、共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。西地区中央部の第88次調査の井戸から出土した。口縁部と底部を欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。球形の胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。頸部下端から胴部上半にかけて櫛描直線文を6帯施文する。上から2～3段目の櫛描直線文に重なるように赤色の直線文を塗彩するが、やや不明瞭である。頸部内面にも縦位の櫛描直線文を4方に入れる。乳褐色を呈す。

第88次調査
遺構：SK-2104
層位：第1層
土色：—
取上：土-101
No.：38
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存高：26.8
胴径：22.4

027 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の細頸壺で、共伴土器は大和第三-3様式頃である。北西端の第15次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部の一部が残存する。下膨れの胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。口縁部は内湾し、端部は薄い。胴部最大径には2条の凸帯を巡らせ、その上に刻目を入れる。胴部上半は、細条の櫛描直線文12帯を浅く施文し、その文様上の4方に粘土粒の貼付と櫛による刺突をおこなう。最下段は円形浮文とし、円形刺突をおこなう。淡褐色を呈す。

第15次調査
遺構：SD-01
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-01
No.：11
共伴：大和第三-3様式頃
復元高：25.1
胴径：19.0



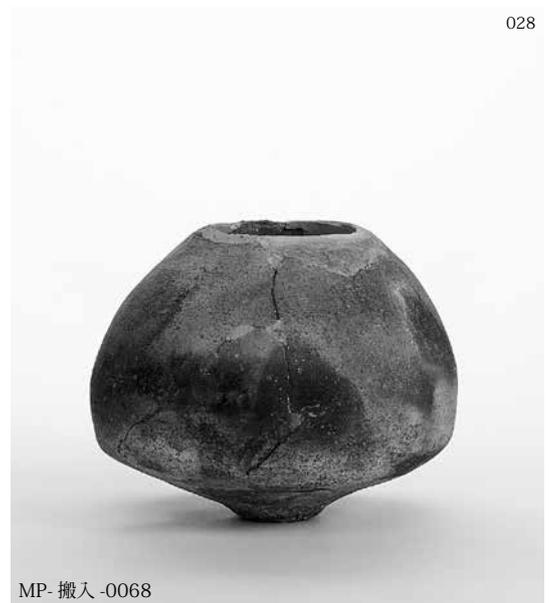
MP- 搬入 -0003

027

028 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の細頸壺で、共伴土器は大和第三-3様式である。西地区中央部の第19次調査の土坑から出土した。胴部の一部と底部が残存する。下膨れの胴部で上半は球形を呈す。胴部上半には、細条の櫛描直線文8帯を浅く施文する。灰褐色を呈す。

第19次調査
遺構：SK-105
層位：第2層
土色：黒褐色砂
取上：土-213
No.：430
共伴：大和第三-3様式
残存高：14.3
胴径：17.7



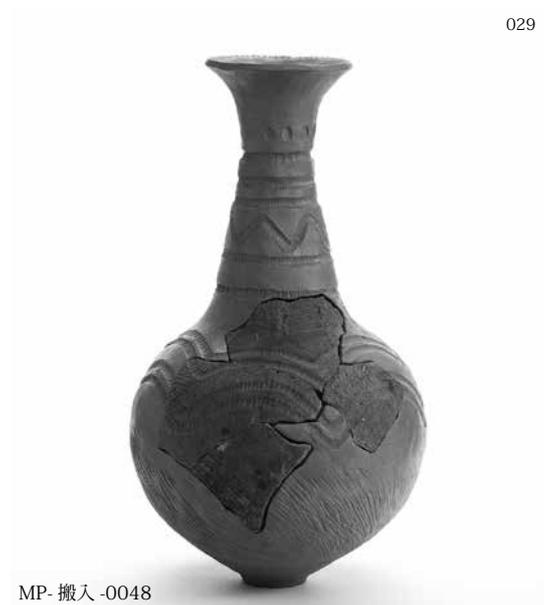
MP- 搬入 -0068

028

029 搬入土器（天竜川流域地方）

本土器は天竜川流域地方の細頸壺で、共伴土器は大和第二-3様式である。中央区の第50次調査の区画溝から出土した。球形の頸胴部片である。頸部下端にはヘラの押し引きによる凹線とヘラ描直線文4条一単位を2帯施文する。胴部上半にはヘラの押し引きによる連弧文2段一組を上下に施文し、その間に縄文を充填する。文様帯部分は厚く赤色塗彩をおこなう。下半には塗彩はなく、粗い条痕調整を施す。暗褐色を呈す。

第50次調査
遺構：SD-101B
層位：第3層
土色：黒褐色粘土
取上：土-301
No.：234
共伴：大和第二-3様式
残存長：20.3
残存幅：20.7



MP- 搬入 -0048

029



030 搬入土器（瀬戸内地方）

本土器は瀬戸内地方の台付壺で、共伴土器は大和第V-1様式である。北地区の第51次調査の井戸から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ全体のわかる無紋の壺である。扁球形の胴部から緩やかにすばまる頸部、強く屈折して端部が上方へ立ち上がる口縁部がつく。脚台は短く「ハ」字状を呈す。裾端部は、上方に肥厚する。胴部上半と脚台の外表面はハケ、下半はケズリ後ハケ、脚台の内面はケズリを施す。乳褐色を呈す。

第51次調査
遺構：SK-104
層位：第4層
土色：—
取上：土-403
No.：78
共伴：大和第V-1様式
残存高：22.8
胴径：19.0



031 搬入土器（生駒山西麓地方）

本土器は生駒山西麓地方の台付無頸壺で、共伴土器は大和第V-1様式である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。脚台部を欠損するが、ほぼ完形である。下膨れの胴部の屈曲部は下方へ突出させる。脚台部は「ハ」字状に拡がる。口縁部は外側に粘土帯を貼付け、外面側はヘラによる刺突文を巡らす。口縁部下に2孔一対の紐孔をあける。胴部は幅広の簾状文を3帯施文する。また、縦位の2～3条一単位の凸帯を8方に貼付け、凸帯上に細く小さな刻目を入れる。胴部下半に穿孔がみられる。暗褐色を呈す。外面の一部に煤の付着がみられる。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第4(下)層
土色：黒粘
取上：土-4144
No.：673
共伴：大和第V-1様式
復元高：12.5
胴径：13.6



032 搬入土器（紀伊地方）

本土器は紀伊地方の広口壺で、共伴土器は大和第V-1様式である。南地区の第77次調査の区画溝から出土した。胴部下半を欠く。球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁端部は上下に肥厚し、端面には3条の凹線文を入れる。胴部外面はハケ後ナデ調整、内面はケズリ調整をおこなう。淡灰褐色を呈す。胎土には結晶片岩の砂粒を含む。

第77次調査
遺構：SD-4108
層位：第2(下)層
土色：—
取上：土-254
No.：228
共伴：大和第V-1様式
口径：18.5
残存高：19.0

033 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の広口壺で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形である。横長の球形の胴部に短く外反する口頸部がつく。口縁端部は面をもつ。内外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1層
土色：黒褐色粘質土
取上：その1
No.：8
共伴：大和第VI-4様式
高さ：16.1
胴径：16.4

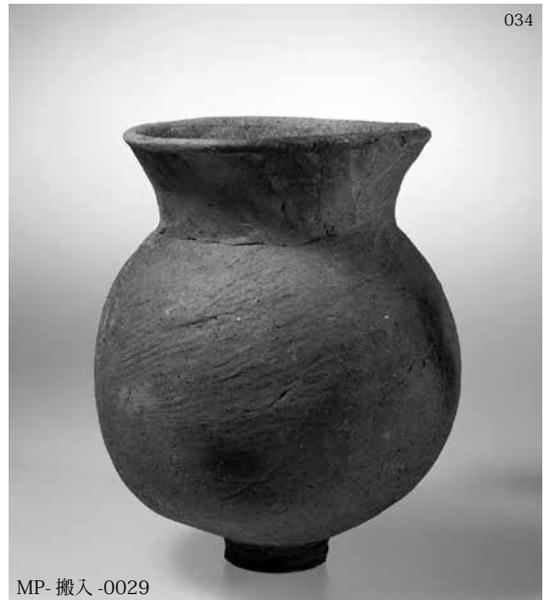


MP- 搬入 -0091

034 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の広口壺で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。完形品である。球形の胴部にやや外反ぎみの口頸部がつく。口縁端部は丸い。外面は右上がりのタタキ後ナデ、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1(下)層
土色：黒褐色粘質土
取上：G-4
No.：44
共伴：大和第VI-4様式
高さ：19.3
胴径：15.9

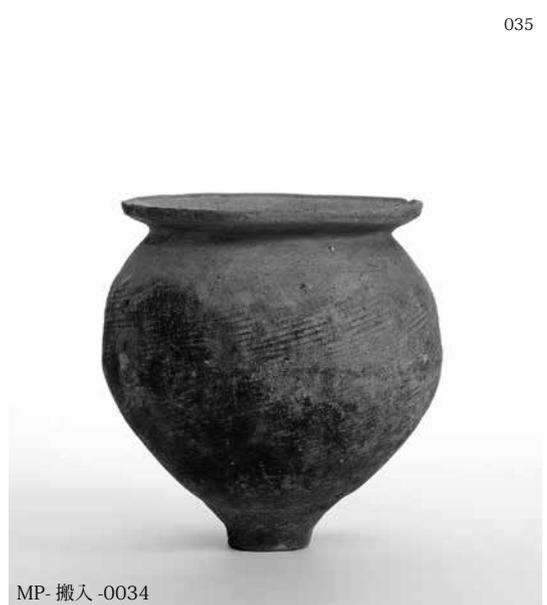


MP- 搬入 -0029

035 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の甕で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は、上方へ突出させ、やや受口状となる。胴部外面は右上がりのタタキ成形で、胴部上半はハケ調整でタタキを消す。内面はハケ調整で仕上げる。外面に煤が付着する。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1層
土色：黒褐色粘質土
取上：その1
No.：4
共伴：大和第VI-4様式
高さ：18.0
胴径：17.4



MP- 搬入 -0034

036



MP- 搬入 -0092

036 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の甕で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。胴部と底部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は、上方へ突出させ、やや受口状となる。胴部外面は右上がりのタタキ成形、内面はハケ調整で仕上げる。外面に煤が付着する。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第3層
土色：灰粘
取上：G-32
No.：56
共伴：大和第VI-4様式
高さ：18.3
胴径：17.0

037



MP- 搬入 -0035

037 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の甕で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は、上方へやや突出させる。胴部外面は底部から右上がりのタタキ成形をおこなうが、タタキの向きは4段階でやや異なる。内面はハケ調整で仕上げる。胴部下半の外面に煤が付着する。胴部中央に穿孔がみられる。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1(下)層
土色：黒褐色粘質土
取上：G-1
No.：40
共伴：大和第VI-4様式
高さ：24.3
胴径：22.1

038



MP- 搬入 -0033

038 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の鉢で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。碗形の胴部で、口縁端部は薄い。底部は突出させる。外面はナデ、内面はハケ後ナデ調整を施す。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1層
土色：黒褐色粘質土
取上：その1
No.：4
共伴：大和第VI-4様式
口径：11.3
高さ：8.1

039 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の高坏で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。脚裾部を欠損するが、ほぼ完形である。やや深めの皿状の坏部に外反する口縁部がつく。口縁部は面をもつ。脚部は柱状部から内湾ぎみに広がる裾部がつく。黒褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1(下)層
土色：黒褐色粘質土
取上：G-3
No.：43
共伴：大和第VI-4様式
口径：20.8
高さ：18.3



MP-搬入-0031

040 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

本土器は奈良盆地東南部地方の高坏で、共伴土器は大和第VI-4様式である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。口縁部と脚裾部を僅かに欠損するが、ほぼ完形である。小さい皿状の坏部に大きく外反する口縁部がつく。脚部は中実の柱状部から大きく広がる裾部がつく。3方に円形透孔をあける。坏部の内外面と脚部外面はミガキ調整、脚裾部内面は、ナデ調整で仕上げる。黒褐色を呈す。

第40次調査
遺構：SD-101
層位：中央 Sec. 第5層
土色：灰黒粘
取上：中央 Sec. 土-301
No.：475
共伴：大和第VI-4様式
口径：21.6
高さ：16.2

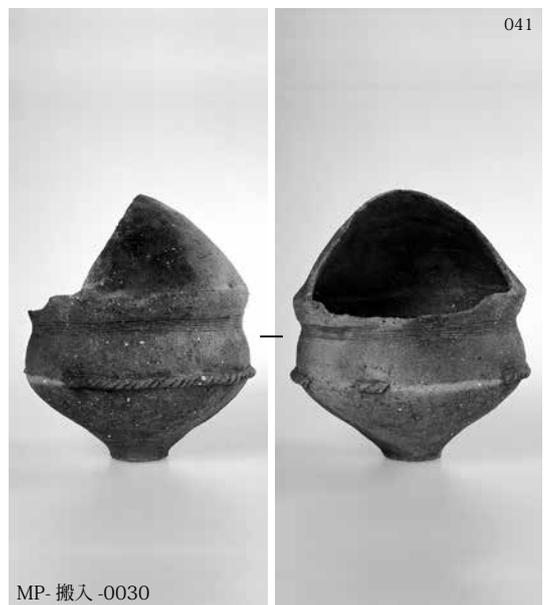


MP-搬入-0018

041 搬入土器（奈良盆地東南部地方）

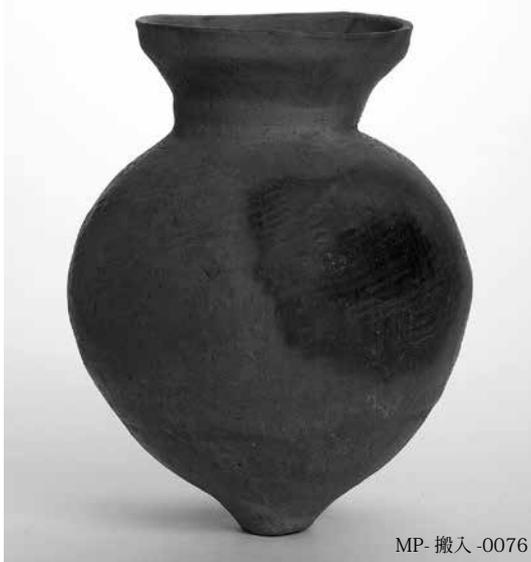
本土器は奈良盆地東南部地方の手焙形土器で、共伴土器は大和第VI-4様式である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。鉢口縁部を僅かに欠損するが、ほぼ完形である。扁球形の鉢部の口縁部は受口状となり、この口縁部に円錐形の1/3を縦裁断した覆い部がつく。鉢部中央には凸帯を貼付け、その上に刻目を入れる。口縁部下には櫛描直線文1帯を施文する。淡褐色を呈す。

第34次調査
遺構：SD-103
層位：第1層
土色：黒色粘質土
取上：—
No.：65
共伴：大和第VI-4様式
高さ：17.3
胴径：15.2



MP-搬入-0030

042



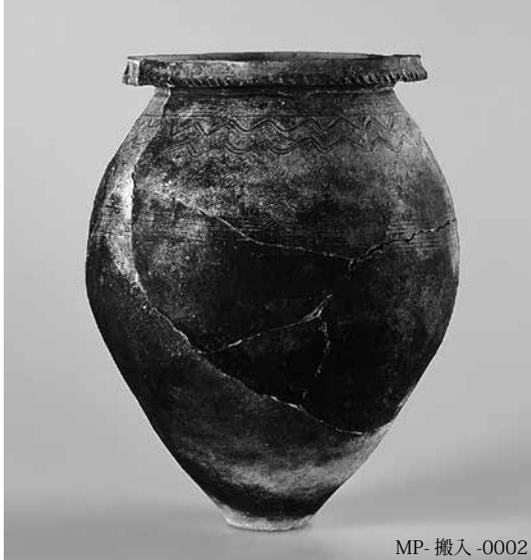
MP- 搬入 -0076

042 搬入土器（近江地方）

本土器は近江地方の広口壺で、相伴土器は大和第VI-3様式である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。完形品である。球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁部は受口状を呈すが屈曲はやや不明瞭である。胴部上半は右上がりのタタキ成形、下半はケズリによって底部を小さく整え、上底にする。全体はハケ後、ミガキ調整で仕上げる。淡赤褐色を呈す。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-22
No.：38
相伴：大和第VI-3様式
高さ：24.9
胴径：19.2

043



MP- 搬入 -0002

043 搬入土器（近江地方）

本土器は近江地方の甕で、相伴土器は大和第VI-3様式である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。胴部の一部を欠くが、ほぼ完形である。縦長の球形の胴部に受口状口縁がつく。口縁端部は面をもつ。口縁屈曲部に刻目、胴部には櫛描直線文・波状文・直線文を施文する。胴部外面と胴部下半の内面はハケ調整で仕上げる。灰褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：下層
土色：黒粘
取上：土-15
No.：38
相伴：大和第VI-3様式
高さ：22.2
胴径：17.4

044



MP- 搬入 -0001

044 搬入土器（近江地方）

本土器は近江地方の鉢で、相伴土器は大和第VI-3様式である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。完形品である。扁球形の胴部に受口状口縁がつく。口縁端部は面をもつ。口縁屈曲面に櫛描刺突文、胴部に櫛描直線文と波状文を交互に2帯施文する。胴部外面はハケ、内面はナゲ調整で仕上げる。灰褐色を呈す。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：中層
土色：黒粘
取上：土-29
No.：49
相伴：大和第VI-3様式
口径：13.0
高さ：11.1

045 搬入土器 (近江地方)

本土器は近江地方の甕で、共伴土器は大和第VI-3様式である。北東端の第24次調査の環濠から出土した。完形品。縦長の球形の胴部に受口状口縁がつく。口縁端部は面をもつ。口縁部側辺に櫛描刺突文、胴部は直線文2と刺突文2を交互に描き、最下段に波状文を施文する。内外面はナデ調整で仕上げる。灰褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第24次調査
遺構：SD-107
層位：第3(下)層
土色：黒粘
取上：土-369
No. : 182
共伴：大和第VI-3様式
高さ：21.5
胴径：17.2



MP- 搬入 -0027

045

046 搬入土器 (近江地方)

本土器は近江地方の鉢で、共伴土器は大和第VI-3様式である。北地区の第23次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。扁球形の胴部に受口状口縁がつく。口縁端部は面をもつ。胴部には凸帯を貼り付け、刻目を入れる。口縁部側辺に櫛描刺突文、胴部の凸帯より上に刺突文・波状文・直線文・波状文、下に波状文を雑に施文する。内外面はナデ調整で仕上げる。灰褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第23次調査
遺構：SD-1101
層位：第1層
土色：暗灰黄色砂質土
取上：土-115
No. : 368
共伴：大和第VI-3様式
高さ：12.8
胴径：18.3



MP- 搬入 -0022

046

047 搬入土器 (近江地方)

本土器は近江地方の甕で、共伴土器は大和第VI-3様式である。南東端の第91次調査の環濠から出土した。口縁部から胴部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる土器である。縦長の球形の胴部に受口状口縁がつく。口縁端部は面をもつ。底部は突出せず小さく上底となる。口縁部側辺に櫛描刺突文、胴部は直線文と刺突文各1帯を施文する。胴部下半はタタキが残るが、全体はハケ調整で仕上げる。乳褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第91次調査
遺構：SD-101B
層位：第6(下)層
土色：-
取上：土-632
No. : 298
共伴：大和第VI-3様式
高さ：30.4
復元胴径：25.3



MP- 搬入 -0094

047

048



MP- 搬入 -0264

048 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は、大和第VI-3様式の広口壺である。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部に外反する口縁部がつく。口縁端部は上下に肥厚し面をもち、ヘラ原体による刺突文を巡らす。胴部上半には上下2帯の櫛描直線文に波状文2帯と刺突文を施文する。伊勢湾岸系の可能性がある。

第33次調査
遺構：SK-114
層位：第5層
土色：—
取上：土-501
No.：476
共伴：大和第VI-3様式
高さ：25.6
胴径：23.5

049



MP- 搬入 -0106

049 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の高坏で、共伴土器は大和第VI-3様式である。南地区の第69次調査の環濠から出土した。口縁部の一部と脚部が残存する。細長い柱状部から裾部が緩やかに広がる脚である。坏部は浅い皿状部から大きく外反する口縁部がつく。口縁端部は外方へ鋭く突出し、面をもつ。口縁部の外面には櫛描波状文と直線文、脚部に直線文5帯を施文する。裾部上位にやや大きめの円形透孔を4方にあける。淡褐色を呈す。

049-1

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第5層
土色：—
取上：G-526
No.：313
共伴：大和第VI-3様式
残存高：15.4
裾径：14.2

050



MP- 搬入 -0086

050 搬入土器（山陰地方）

本土器は山陰地方の甕で、共伴土器は布留1式である。西地区中央部の第38次調査の井戸から出土した。完形品。球形の胴部に受口状口縁がつく。受口の屈曲は強く、やや長めに立ち上がり、少し外反する。口縁部はヨコナデ、胴部外面はハケ後ナデ調整で仕上げるが、胴部上端のヨコハケ1条は直線文風である。胴部上半の内面はケズリをおこなう。乳褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第38次調査
遺構：SK-101
層位：第4層
土色：—
取上：土-406
No.：115
共伴：布留1式
高さ：20.6
胴径：18.7

051 搬入土器（吉備地方）

本土器は吉備地方の甕で、共伴土器は庄内式である。北西端の第90次調査の環濠から出土した。口縁部・胴部の一部を欠損する。胴部上半が肩の張る甕で、受口状口縁がつく。受口の屈曲は強く、短く直立する。口縁部には、ヨコナデによって7条の疑凹線文を巡らす。胴部上半に、ヘラによるものと思われる刺突が1つみられる。胴部外面は縦位ハケ後ナデ、底部から上半方向に疎らにミガキ調整を施す。内面はケズリをおこなう。乳褐色を呈す。

第90次調査
遺構：SD-101
層位：第3層
土色：—
取上：土-351
No.：45
共伴：庄内式
高さ：18.5
胴径：17.2



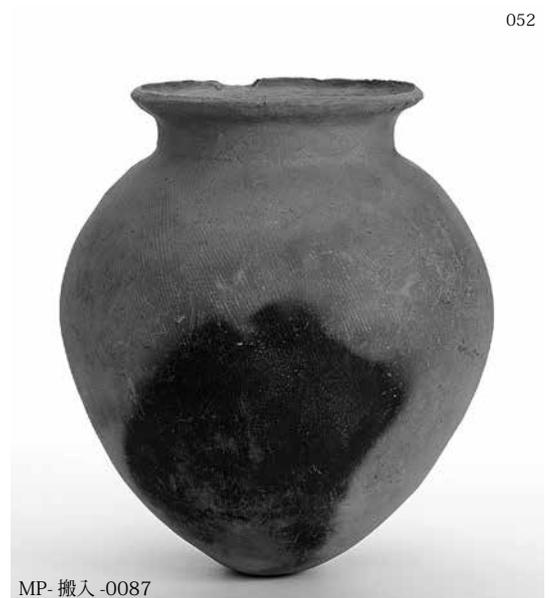
MP- 搬入 -0096

051

052 搬入土器（東阿波地方）

本土器は東阿波地方の甕で、共伴土器は布留1式である。北地区の第48次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部に短く直立する頸部とやや受口の口縁がつく。口縁端部は内方へ突出させる。胴部外面はハケ調整、内面はケズリをおこなう。底部は使用による摩滅がみられる。乳褐色を呈す。外面に煤の付着がみられる。

第48次調査
遺構：SK-1104
層位：第4層
土色：—
取上：土-403
No.：241
共伴：布留1式
高さ：23.2
胴径：20.3



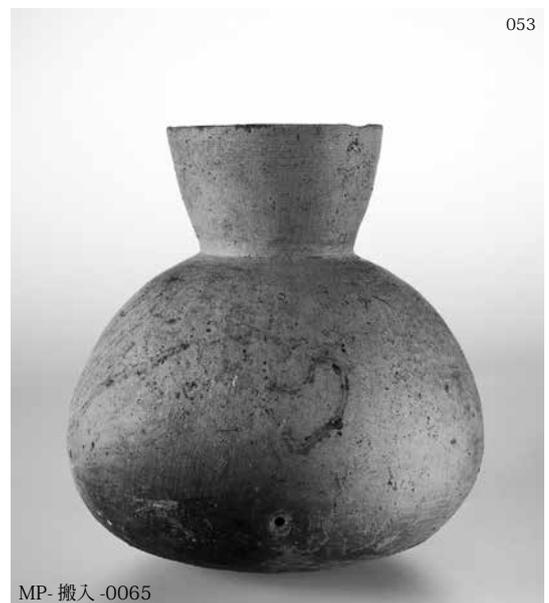
MP- 搬入 -0087

052

053 搬入土器（伊勢湾岸地方）

本土器は伊勢湾岸地方の直口壺で、共伴土器は庄内式である。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。下膨れの胴部で、底部が僅かに残存する程度である。口頸部はやや内湾ぎみに拡がる形態で、端部は薄くなる。外面全体を縦位ミガキで仕上げた後、口縁部下と胴部上端に細条の櫛描直線文各1帯施文する。胴部下半に0.3cmの小孔を穿孔する。淡褐色を呈す。

第79次調査
遺構：SK-109
層位：第3層
土色：—
取上：土-301
No.：261
共伴：庄内式
高さ：19.0
胴径：17.7



MP- 搬入 -0065

053

001



MP-特殊-0152

001 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅰ-1様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第16次調査の大溝から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。底部はやや大きめであるが、広口壺を忠実に模した土器である。球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。胴部に3条のヘラ描直線文を巡らす。外面・口縁部内面はミガキ調整を施す。

第16次調査
遺構：SD-105
層位：—
土色：黒色砂質土
取上：土-13
No.：172
共伴：大和第Ⅰ-1様式
高さ：7.6
胴径：7.2

002



MP-特殊-0014

002 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅰ-2様式のミニチュア土器である。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。口縁部を欠くが、ほぼ全形のわかる台付壺である。胴部下半の最大胴径部分には粘土帯を巡らせ、爪圧痕で刻目とする。この文様から前期の可能性がある。脚台は短く拡がる。全体はナデ調整で仕上げる。

第53次調査
遺構：SR-101A
層位：第5層
土色：黒褐色粘土
取上：—
No.：344
共伴：大和第Ⅰ-2様式
残存高：4.4
胴径：4.3

003



MP-特殊-0180

003 特殊土器（鉢 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅱ-2様式のミニチュア土器である。南地区の第33次調査の環濠から出土した。浅い筒形の完形の鉢である。手捏ね成形で器壁は厚く、器形は歪になっている。また、器面は指頭による凹凸が多い。

第33次調査
遺構：SD-110
層位：第3層
土色：黒粘
取上：—
No.：343
共伴：大和第Ⅱ-2様式
高さ：3.3
胴径：5.6

004

004 特殊土器 (鉢 / ミニチュア)

本土器は、大和第三-1 様式のミニチュア土器である。中央区の第98次調査の暗黄灰色粘質土層から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。手捏ね成形の筒形の鉢である。底部は厚く、口縁部は薄い。

第98次調査
遺構：—
層位：—
土色：暗黄灰色粘質土
取上：—
No. : 500
共伴：大和第三-1 様式
高さ：3.9
胴径：4.8



MP-特殊-0177

005

005 特殊土器 (高坏 / ミニチュア)

本土器は、大和第三-1 様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第20次調査の井戸から出土した。高さ3.0cmの極小の完形の高坏である。手捏ね成形で粗雑なつくりである。黒灰色を呈す。

第20次調査
遺構：SX-101
層位：第6層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-643
No. : 429
共伴：大和第三-1 様式
口径：3.3
高さ：3.0



MP-特殊-0164

006

006 特殊土器 (水差形土器 / ミニチュア)

本土器は、大和第三様式のミニチュア土器である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口縁部と把手を欠損するが、ほぼ完形の水差形土器である。欠損部には僅かであるが研磨をおこなう。下膨れの胴部に上方へ立ち上がる頸部がつく写実的な水差形土器で、器壁も薄く丁寧な成形である。頸部から胴部上半には簾状文風に櫛描刺突文を連続させる。また、文様間にはミガキを挿入する。胴部下半はミガキ調整で仕上げ、一般的な土器調整と変わらない。胴部下半に穿孔がみられる。

第23次調査
遺構：SK-137
層位：第1層
土色：—
取上：—
No. : 540
共伴：大和第三様式
残存高：5.4
胴径：5.0



MP-特殊-0008

007



MP-特殊-0172

007 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅲ様式のミニチュア土器である。北西端の第29次調査の環濠から出土した。もとは水差形土器であったが、口頸部と把手が欠損した後、破面を研磨し、把手部に小孔をあけ、無頸壺とする。底部と胴部下半の一部を欠損する。胴部は扁球形を呈し、上半には櫛描直線文を3帯巡らす。

第29次調査
遺構：SD-110
層位：第2層
土色：植物層
取上：－
No.：31
共伴：大和第Ⅲ様式
高さ：5.0
胴径：6.8

008



MP-特殊-0066

008 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅲ様式、あるいは大和第Ⅳ様式のミニチュア土器である。南地区の第72次調査の区画溝から出土した。胴部下半を僅かに欠くが、ほぼ完形の無頸壺である。1孔一対の紐孔をあける。胴部は扁球形を呈し、上半には櫛描簾状文を1帯巡らす。

第72次調査
遺構：SD-107
層位：第3層
土色：灰黒粘
取上：－
No.：239
共伴：大和第Ⅲ・Ⅳ様式
高さ：2.7
胴径：4.5

009



MP-特殊-0161

009 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅲ-2様式、あるいは大和第Ⅲ-3様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第19次調査の区画溝から出土した。もとは細頸壺の可能性はあるが、口頸部は欠損しており、破面を研磨し無頸壺としたものである。扁球形の胴部で、底部を大きく作っている。全体にナデ調整で仕上げる。

第19次調査
遺構：SD-202
層位：第3層
土色：暗黒褐粘
取上：－
No.：418
共伴：大和第Ⅲ-2・3様式
高さ：3.7
胴径：5.0

010

010 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第三様式のミニチュア土器である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。もとは細頸壺の可能性があり、口頸部は欠損しており、破面を研磨し無頸壺としたものである。球形の胴部で、底部は突出せず丸底にちかい。全体にナデ調整で仕上げ、胴部上半に稚拙な櫛描直線文を3～4帯施文する。

第34次調査
遺構：SD-102C
層位：第8層
土色：黒粘
取上：－
No.：93
共伴：大和第三様式
高さ：5.2
胴径：5.2



MP-特殊-0205

011

011 特殊土器 (甕 / ミニチュア)

本土器は、大和第三様式のミニチュア土器である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部から胴部の一部を欠く甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく写実的な甕である。内外面はケズリ調整をおこない、その後、内面はナデ・ミガキ調整を僅かに施す。

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第6層
土色：砂質土
取上：－
No.：347
共伴：大和第三様式
口径：4.5
高さ：5.9



MP-特殊-0001

012

012 特殊土器 (鉢 / ミニチュア)

本土器は、大和第三-3様式のミニチュア土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部と脚台部の一部を僅かに欠くが、ほぼ完形の台付鉢である。鉢部は碗形を呈す。脚台部は大きめでやや内湾ぎみに立ち上がる。2条1単位の櫛で鉢部に稚拙な波状文と直線文を交互に2帯、脚裾部に波状文を描く。内面には施文時の爪圧痕が残る。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第7層
土色：植物層
取上：土-704
No.：806
共伴：大和第三-3様式
口径：6.6
残存高：7.7



MP-特殊-0211

013



MP-特殊-0210

013 特殊土器（鉢 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅲ-3様式のミニチュア土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を僅かに欠くが、ほぼ完形の鉢である。大きな底部に樽状の胴部を呈する鉢である。手捏ね成形で器壁が厚く鈍重な感のある土器である。

第37次調査
遺構：SK-2130
層位：第4層
土色：灰粘
取上：土-1418
No.：716
共伴：大和第Ⅲ-3様式
高さ：4.5
胴径：4.2

014



MP-特殊-0154

014 特殊土器（鉢 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅲ-3様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第19次調査の井戸から出土した。鉢部から脚台部の一部を欠く。短く内湾気味に立ち上がる鉢部に一体的な脚台がつく。鉢部と脚台部の界は強いヨコナデによって1条の細い凸帯が巡る。脚台は、指頭により円形透孔をあける。

第19次調査
遺構：SK-113
層位：第4層
土色：灰黒色粘質土
取上：土-401
No.：332
共伴：大和第Ⅲ-3様式
復元口径：8.5
高さ：4.3

015



MP-特殊-0171

015 特殊土器（壺蓋 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅲ-4様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。裾径4.5cmの極小品で、完形の壺蓋である。扁平な笠形を呈し、頂部は細長く突出させ摘み部とする。2孔一対の紐孔2つをあける。

第22次調査
遺構：SK-102
層位：第1層
土色：黒色土
取上：—
No.：128
共伴：大和第Ⅲ-4様式
高さ：2.1
裾径：4.5

016 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、西地区北部の第84次調査の古墳周濠から出土したため、時期は特定できないが、共伴土器から大和第Ⅲ様式の可能性があるミニチュア土器である。口縁部と底部の一部を欠くが、ほぼ完形の長頸壺である。手捏ね成形のため、均整はとれていない。底部は大きく、横長の球形の胴部にやや内湾気味に立ち上がる口頸部がつく。外面はナデ調整で仕上げる。黒灰色を呈す。

第84次調査
遺構：SD-101S
層位：第3層
土色：黒粘（ベース混）
取上：－
No.：177
共伴：大和第Ⅲ様式？
高さ：7.4
胴径：5.0



MP-特殊-0157

017 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第Ⅳ-1様式のミニチュア土器である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。高さ4.7cmの極小品で、完形の長頸壺である。上胴部に張りもち、直口する頸部がつく。手捏ね成形で、全体はハケ調整で仕上げる。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第8層
土色：黒灰色砂質土
取上：－
No.：853
共伴：大和第Ⅳ-1様式
高さ：4.7
胴径：2.9



MP-特殊-0160

018 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

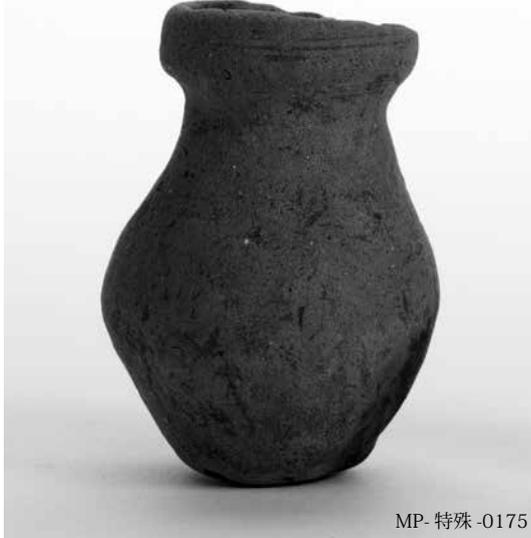
本土器は、大和第Ⅳ-1様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第16次調査の大溝から出土した。底部が欠損するが、ほぼ全体のわかる壺である。下膨れの胴部に短く外反する口縁部がつく。頸胴部界に1孔一対の紐孔をあける。外面胴部上半はミガキ調整を施す。黒色を呈す。

第16次調査
遺構：SD-101S
層位：－
土色：黒粘
取上：土-04
No.：76
共伴：大和第Ⅳ-1様式
残存高：6.1
胴径：6.2



MP-特殊-0065

019



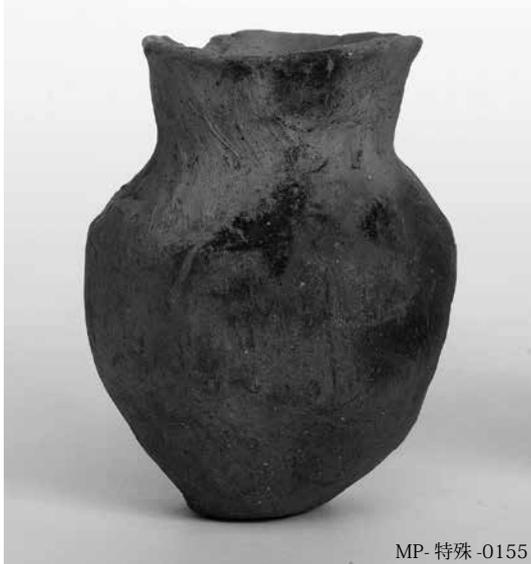
MP-特殊-0175

019 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第IV-1様式のミニチュア土器である。西地区北部の第89次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形の壺である。手捏ね成形のため、均整はとれていない。縦長の球形の胴部に短く内湾ぎみに立ち上がる口縁部がつく。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。

第89次調査
遺構：SK-1112
層位：第5層
土色：灰粘
取上：－
No.：407
共伴：大和第IV-1様式
高さ：5.5
胴径：3.9

020



MP-特殊-0155

020 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第IV-1様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形の壺である。胴部上半が肩の張る壺で、口頸部は僅かに外反する。手捏ね成形のため、均整はとれていない。胴部はケズリ、口頸部はナデ調整で仕上げる。

第22次調査
遺構：SK-101
層位：第2(下)層
土色：黒粘
取上：土-242
No.：213
共伴：大和第IV-1様式
高さ：9.1
胴径：7.0

021



MP-特殊-0156

021 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第IV-1様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠き、横方向の把手が欠損し、胴部下半と底面の一部が剥離するが、ほぼ完形の把手付壺である。縦長の胴部に短く外反する口縁部がつく。手捏ね成形のため、均整はとれていない。胴部はケズリ後ナデ、口縁部はナデ調整で仕上げる。黒灰色を呈す。

第22次調査
遺構：SK-101
層位：第2(下)層
土色：黒粘
取上：土-243
No.：213
共伴：大和第IV-1様式
残存高：8.0
胴径：5.8

022

022 特殊土器 (高坏 / ミニチュア)

本土器は、大和第IV-1様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第22次調査の井戸から出土した。高さ3.4cmの極小の完形高坏である。逆円錐状の坏部に小さな脚台がつく。手捏ね成形であるが、ケズリによって形を整えている。

第22次調査
遺構：SK-101
層位：第5層
土色：灰黒色粘砂
取上：土-501
No.：233
共伴：大和第IV-1様式
口径：3.4
高さ：3.4



MP-特殊-0168

023

023 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第IV-2様式のミニチュア土器である。西地区南部の第99次調査第6トレンチの土坑から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形の広口壺である。球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は丸い。ミニチュア土器としては丁寧な作りで、器面はナデ調整で仕上げる。暗褐色を呈し、生駒山西麓産、あるいは盆地東南部産と考えられる。

第99次調査
遺構：SK-6101
層位：—
土色：—
取上：—
No.：89
共伴：大和第IV-2様式
高さ：5.7
胴径：5.3



MP-特殊-0185

024

024 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第IV様式と考えられるミニチュア土器である。西地区北部の第80次調査の区画溝から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形の壺である。手捏ね成形のため、均整はとれていない。底部は大きく、下膨れの胴部に短く屈曲する口縁部がつく。口縁部上面に刺突文、胴部上半に稚拙な櫛描横型流水文を巡らす。

第80次調査
遺構：SD-101
層位：第4層
土色：—
取上：土-402
No.：186
共伴：大和第IV様式？
高さ：4.4
胴径：3.7



MP-特殊-0204

025



MP-特殊-0096

025 特殊土器（高坏 / ミニチュア）

本土器は、大和第Ⅳ様式と考えられるミニチュア土器である。西地区北部の第89次調査の区画溝から出土した。完形の高坏である。長脚の脚部に壘状の坏部がつく。坏部下半から脚部の外面と脚部内面はケズリ調整をおこなう。坏部のケズリによって、坏部の立ち上がり部を強調させる。

第89次調査
遺構：SD-1114B
層位：第8層
土色：暗灰粘（ハード）
取上：－
No.：533
共伴：大和第Ⅳ様式？
口径：5.8
高さ：6.8

026



MP-特殊-0174

026 特殊土器（壺蓋 / ミニチュア）

本土器は、南東端の第91次調査の古墳時代初頭の環濠から出土したが、器形や胎土から弥生時代中期のミニチュア土器の可能性はある。中央が僅かに盛り上がる円盤状の壺蓋であるが、手捏ね成形のため、不整円形となっている。完形品である。裾部に2孔一対の紐孔を2方にあける。

第91次調査
遺構：SD-103
層位：第2-b層
土色：緑灰粘
取上：－
No.：75
時代：弥生時代中期？
高さ：1.0
裾径：3.9

027



MP-特殊-0181

027 特殊土器（壺蓋 / ミニチュア）

本土器は、北地区の第48次調査の排水溝から出土したため、時期は特定できないが、器形から弥生時代中期のミニチュア土器と考えられる。裾径3.5cmの壺蓋である。完形品である。笠形で頂部には摘み部を突出させる。裾端部は、上方へ肥厚する。裾部に2孔一対の紐孔をあける。

第48次調査
遺構：－
層位：－
土色：－
取上：－
No.：121
時代：弥生時代中期？
高さ：1.6
裾径：3.5

028 特殊土器（台形土器 / ミニチュア）

028

本土器は、大和第IV様式、あるいは大和第V-1様式のミニチュア土器である。南端の第69次調査の環濠から出土した。台部上面が平坦で、脚台が「ハ」字状にひろく台形土器である。脚台部の一部を欠くが、ほぼ全形のわかる土器である。台部上面中央には凹みをもつ。端部は面をもつ。手捏ね成形後、ヘラで器面を整える。脚裾部は縦方向に爪圧痕を連続させ、文様風にみせる。

第 69 次調査
遺構：SD-1109
層位：第 6 層
土色：植物層
取上：－
No.：761
共伴：大和第IV・V-1 様式
高さ：5.0
裾径：5.3



MP-特殊-0020

029 特殊土器（壺 / ミニチュア）

029

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第19次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠く。広口壺を模したものであるが、底部が大きくやや鈍重な感のある土器である。全体はナデ調整で仕上げる。

第 19 次調査
遺構：SK-102
層位：第 3 層
土色：黒褐色粘質土
取上：土-302
No.：296
共伴：大和第V-1 様式
高さ：5.5
胴径：5.0



MP-特殊-0162

030 特殊土器（壺 / ミニチュア）

030

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形である。手捏ね成形の極小の広口壺である。胴部はやや扁球形を呈し、口縁部は短く外反する。全体はナデ調整で仕上げる。

第 19 次調査
遺構：SD-204
層位：第 4(下) 層
土色：黒粘
取上：土-4004
No.：666
共伴：大和第V-1 様式
高さ：2.9
胴径：3.3



MP-特殊-0165

031



MP-特殊-0068

031 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。北地区の第51次調査の井戸から出土した。高さ4.5cmの極小品で、口縁部の一部を欠くが完形の壺である。手捏ね成形のため、均整はとれていない。縦長の胴部に短い口縁部がつく形態である。外面はへら状工具の押さえ痕跡がみられる。

第51次調査
遺構：SK-104
層位：第8層
土色：—
取上：土-801
No.：133
共伴：大和第V-1様式
高さ：4.5
胴径：3.3

032



MP-特殊-0095

032 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。西地区北部の第84次調査の井戸から出土した。完形の無頸壺である。手捏ね成形で、器壁が厚く鈍重感のある土器である。胴部上半はやや内湾する。口縁部に2孔一対の紐孔を対置方向にあける。内外面はナゲ調整で仕上げる。

第84次調査
遺構：SK-101
層位：第3層
土色：—
取上：土-301
No.：356
共伴：大和第V-1様式
高さ：4.1
胴径：5.4

033



MP-特殊-0200

033 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形の無頸壺である。手捏ね成形のため、均整はとれていない。胴部上半で強く内湾する。口縁部に2孔一対の紐孔をあける。内外面はナゲ調整で仕上げる。黒灰色を呈す。

第61次調査
遺構：SD-102B
層位：第3層
土色：黒褐色粘砂
取上：—
No.：270
共伴：大和第V-1様式
高さ：3.4
胴径：4.6

034

034 特殊土器（壺蓋 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1のミニチュア土器である。南東端の第83次調査の土坑から出土した。最大裾径4.4cmの壺蓋である。裾端部の一部を欠くが、ほぼ完形である。裾部が内湾ぎみに立ち上がり、端部は上方へ摘まみあげる。頂部の摘み部は突出させる。裾部に2孔一対の紐孔を2方にあける。

第83次調査
遺構：SK-1103
層位：第6層
土色：黒色粘砂
取上：－
No.：186
共伴：大和第V-1様式
高さ：1.9
裾径：4.4



MP-特殊-0176

035

035 特殊土器（台付鉢 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。口縁部内面を僅かに欠くが、ほぼ完形の台付鉢である。小さな脚台に碗形の鉢がつく。口縁部は内面側で肥厚し、端部はやや尖りぎみになる。口縁部に2孔一対の紐孔を内面側からあける。内外面はナデ調整で仕上げる。

第61次調査
遺構：SD-102B
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：－
No.：603
共伴：大和第V-1様式
口径：5.2
高さ：4.5



MP-特殊-0201

036

036 特殊土器（高坏 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。中央区の第76次調査の区画溝から出土した。口縁部と脚裾部の一部を欠くが、ほぼ完形の高坏である。碗形の坏部で口縁部は外側に短く屈曲する。脚部は短く太い柱状の脚で、裾部は小さく拡がる。全体はナデ調整で仕上げる。坏部内外面と脚部外面に赤色塗彩の一部が残存する。

第76次調査
遺構：SD-1111
層位：第4層
土色：－
取上：土-414
No.：245
共伴：大和第V-1様式
口径：6.9
高さ：6.4



MP-特殊-0067

037



MP-特殊-0203

037 特殊土器（高坏 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。中央区の第76次調査の土坑から出土した。口縁部と脚裾部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる土器で、高坏(結合形土器)を忠実に模している。口縁部は大きく横方向に屈曲し、坏部底面との界は突出する。柱状の脚で裾部は大きく広がる。全体はナデ調整で仕上げる。

第76次調査
遺構：SK-1108
層位：第1(下)層
土色：—
取上：土-151
No.：379
共伴：大和第V-1様式
復元口径：13.6
高さ：9.6

038



MP-特殊-0011

038 特殊土器（高坏 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-1様式のミニチュア土器である。南地区の第33次調査の黒褐色粘質土層から出土した。口縁部と脚裾部の一部を欠くが、ほぼ完形の高坏である。手捏ね成形で、器形はやや歪であるが、碗形の高坏を忠実に模している。口縁部下には、円形浮文を巡らす、約半分は剥落している。器面には指頭圧痕が残る。

第33次調査
遺構：—
層位：第IV層
土色：黒褐色粘質土
取上：—
No.：381
共伴：大和第V-1様式
口径：8.6
高さ：6.3

039



MP-特殊-0010

039 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V様式のミニチュア土器である。南端の第33次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。無頸壺を忠実に模している。扁球形の胴部に上方に僅かに突出する口縁部がつく。胴部上半はミガキ、下半はナデ調整で仕上げる。口縁部下に2孔一対の紐孔をあける。

第33次調査
遺構：SD-109
層位：第6層
土色：黒灰粘
取上：土-601
No.：373
共伴：大和第V様式
高さ：6.4
胴径：8.8

040

040 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V様式と思われるミニチュア土器である。南地区の第69次調査の区画溝から出土した。口縁部を欠くが、短く外反するものと思われる、形態的には壺であろう。底部は突出し、球形の胴部の上半に1条の凸帯を巡らす。凸帯は、外面の粘土の上下を指頭により摘み出して作っている。口縁部の接合痕は、内面側で明瞭に残っている。

第69次調査
遺構：SD-1104
層位：第2(下)層
土色：暗灰色粘質土
取上：－
No.：714
共伴：大和第V様式？
残存高：5.5
胴径：5.5



MP-特殊-0202

041

041 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V様式のミニチュア土器である。北東端の第24次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形の広口壺である。扁球形の胴部に上方に立ち上がる口頸部がつく。口縁部は下方に垂下し面をもつ。全体に厚手の作りで、鈍重感のある土器になっている。口縁部には1帯と胴部上半には2帯の円形竹管文を巡らす。胴部下半はミガキ調整で仕上げる。

第24次調査
遺構：SD-201
層位：第4-b層
土色：暗黄褐色砂質土
取上：－
No.：205
共伴：大和第V様式
高さ：8.9
胴径：6.8



MP-特殊-0007

042

042 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-2様式と思われるミニチュア土器である。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形の壺である。縦長の胴部で、口縁部は短く上方に立ち上がる。手捏ね成形のため、均整はとれていない。外面はナデ調整で仕上げる。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第5(下)層
土色：－
取上：土-7541
No.：721
共伴：大和第V-2様式？
高さ：8.2
胴径：6.3



MP-特殊-0025

043



MP-特殊-0158

043 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-2様式、あるいは大和第VI-1様式のミニチュア土器である。南端の第33次調査の環濠から出土した。口縁部を欠失するが、ほぼ全体のがわかる壺である。胴部上半に肩の張りがある壺で、短く外反する口縁部がつく。手捏ね成形で、器面が厚くやや鈍重な感がある。

第33次調査
遺構：SD-109
層位：第5(下)層
土色：黒粘
取上：土-5429
No.：341
共伴：大和第V-2・VI-1様式
残存高：6.2
胴径：5.3

044



MP-特殊-0012

044 特殊土器（甕 / ミニチュア）

本土器は、大和V-2様式、あるいは大和第VI-1様式のミニチュア土器である。南端の第33次調査の環濠から出土した。甕を忠実に模している。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形である。口縁端部は、尖りぎみである。胴部上半から口縁部には接合痕が明瞭に残る。

第33次調査
遺構：SD-109
層位：第4層
土色：黒粘
取上：土-405
No.：238
共伴：大和第V-2・VI-1様式
口径：7.6
高さ：7.2

045



MP-特殊-0024

045 特殊土器（高坏 / ミニチュア）

本土器は、大和第V-2様式、あるいは大和第VI-1様式のミニチュア土器である。南端の第69次調査の環濠から出土した。裾部の一部を欠くが、ほぼ完形である。坏部は浅い皿形で短く外反する口縁部がつく。脚部は低く、外方にひらく。手捏ね成形のため、不整形である。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第5(下)層
土色：—
取上：土-6557
No.：548
共伴：大和第V-2・VI-1様式
口径：5.1
高さ：3.4

046

046 特殊土器 (高坏 / ミニチュア)

本土器は、大和第V-2様式、あるいは大和第VI-1様式のミニチュア土器である。南端の第33次調査の環濠から出土した。高坏を忠実に模している。裾部の一部を欠くが、ほぼ完形である。坏部は浅い皿形で短く外反する口縁部がつく。脚部は、「ハ」字状にひろく。坏部の内外面・脚部外面はミガキ調整で仕上げる。

第33次調査
遺構：SD-109
層位：第4層
土色：—
取上：土-403
No.：238
共伴：大和第V-2・VI-1様式
口径：7.8
高さ：5.3



MP-特殊-0009

047

047 特殊土器 (壺蓋 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-1様式のミニチュア土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。裾部を僅かに欠くが、ほぼ完形の壺蓋である。円錐形を呈し、頂部は丸く作る。頂部よりやや下に紐孔と考えられる径0.2cmの小孔を一对あける。外面はハケ後ナデ、内面はナデ調整で仕上げる。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-521
No.：496
共伴：大和第VI-1様式
高さ：3.4
裾径：6.0



MP-特殊-0209

048

048 特殊土器 (壺蓋 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-1様式のミニチュア土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。特殊049の壺とはセットになるものと考えられる。裾端部を僅かに欠くが、ほぼ完形の壺蓋である。円盤状で、中央の摘み部が突出する形態である。内外面は、ミガキ調整をおこなう。2孔一对の紐孔をあける。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-509
No.：496
共伴：大和第VI-1様式
高さ：1.2
裾径：3.8



MP-特殊-0207

049



MP-特殊-0208

049 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第VI-1様式のミニチュア土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。特殊048の壺蓋と同じ地点より出土しており、胎土や焼成具合も同じで、本土器とセットになるものであろう。完形の無頸壺である。球形の胴部に上方に短く突出する口縁部がつく。口縁端部は面をもつが、やや内傾する。口縁部下に2孔一対の紐孔をあける。全体に丁寧な作りで、外面はミガキ調整をおこなう。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-511
No.：496
共伴：大和第VI-1様式
高さ：6.2
胴径：6.4

050



MP-特殊-0206

050 特殊土器（甕 / ミニチュア）

本土器は、大和第VI-1様式のミニチュア土器である。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。完形の甕である。鉢状を呈する胴部に短く外反する口縁部がつく。手捏ね成形のため、形は整っておらず器壁が厚い。口縁部の接合痕も明瞭に残す。口縁部には爪あるいはへらによる刻目を巡らす。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第5(下)層
土色：黒粘
取上：土-1524
No.：543
共伴：大和第VI-1様式
口径：7.3
高さ：5.0

051



MP-特殊-0029

051 特殊土器（鉢 / ミニチュア）

本土器は、大和第VI-2様式のミニチュア土器である。南端の第69次調査の環濠から出土した。底部を大きく突出させた縦長の碗状を呈す鉢である。完形品である。底部から粘土紐積み上げの明瞭な接合痕跡を残す。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第5層
土色：—
取上：土-2591
No.：313
共伴：大和第VI-2様式
口径：5.2
高さ：5.7

052 特殊土器 (鉢 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-2様式のミニチュア土器である。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形の鉢である。口縁部が大きく広がる浅い碗状の鉢である。底部は指頭による摘みみで上底となっている。内外面は丁寧なミガキ調整をおこなう。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第5(下)層
土色：—
取上：土-6522
No.：548
共伴：大和第VI-2様式
口径：7.0
高さ：3.4



MP-特殊-0023

053 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-3様式のミニチュア土器である。南東端の第91次調査の土坑から出土した。高さ2.8cmの極小の壺である。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。手捏ね成形で、底部と胴部は一体の下膨れの形態で、短く外反する口縁部がつく。胴部上端に径1.5mmほどの円形竹管文2帯を巡らす。外面はへら状工具の押さえ痕跡がみられる。

第91次調査
遺構：SK-107
層位：第5層
土色：黒褐粘(植物混)
取上：—
No.：876
共伴：大和第VI-3様式
高さ：2.8
胴径：3.2

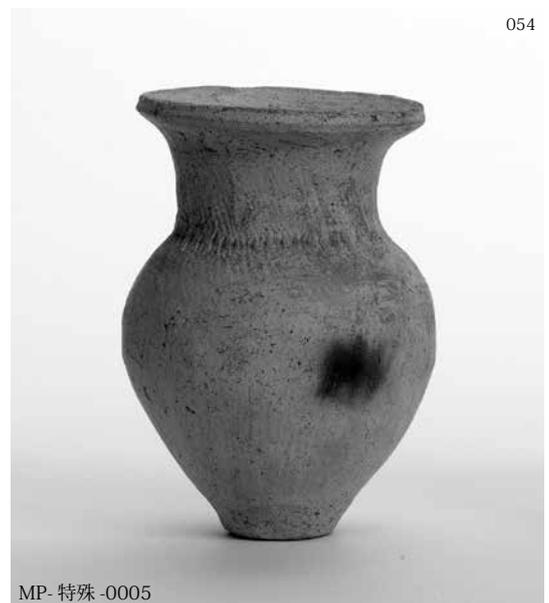


MP-特殊-0173

054 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-3様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。広口壺を忠実に模している。胴部上半が肩の張る壺で、上方へ立ち上がる頸部に外反する口縁部がつく。頸胴部界に刺突文を施す。頸部から胴部はハケ後ナデ、一部ミガキ調整で仕上げる。乳褐色を呈す。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：中層
土色：黒粘
取上：土-37
No.：49
共伴：大和第VI-3様式
口径：6.6
高さ：10.5



MP-特殊-0005

055



MP-特殊-0004

055 特殊土器（鉢 / ミニチュア）

本土器は、大和第VI-3様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。碗形の鉢で、口縁端部は面をもつ。底部はやや大きめである。丁寧な作りで、内外面はミガキ調整で仕上げる。

第14次調査
遺構：SK-106
層位：中層
土色：黒粘
取上：土-40
No.：49
共伴：大和第VI-3様式
口径：8.3
高さ：4.4

056



MP-特殊-0186

056 特殊土器（壺 / ミニチュア）

本土器は、大和第VI-3様式のミニチュア土器である。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。広口壺を模している。胴部上半が肩の張る壺で、頸部は大きく外反する。口縁部には円形竹管文を巡らせた後、その竹管文に重ねるように3方3個一組の円形浮文を貼付し、その上に竹管文を押し擦する。胴部上半には稚拙な櫛描波状文と櫛描刺突文を巡らす。胴部下半は、ミガキ調整で仕上げる。

第74次調査
遺構：SK-119
層位：第3層
土色：—
取上：土-328
No.：662
共伴：大和第VI-3様式
高さ：8.8
胴径：8.1

057



MP-特殊-0169

057 特殊土器（高坏 / ミニチュア）

本土器は、大和第VI-3様式のミニチュア土器である。北東端の第24次調査の環濠から出土した。口縁部と脚裾部を僅かに欠くが、ほぼ完形の高坏である。碗形の坏部に、「ハ」字状に開く脚台部がつく。内外面はナゲ調整で仕上げる。

第24次調査
遺構：SD-107
層位：第2層
土色：黒灰粘
取上：土-248
No.：121
共伴：大和第VI-3様式
口径：4.2
高さ：4.5

058

058 特殊土器 (器台 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-3様式のミニチュア土器である。南地区の第63次調査の区画溝から出土した。完形の器台である。口縁部と裾部が大きく外反する。口縁端部は面をもつ。4方に円形透孔をあける。内外面は、ナデ調整で仕上げる。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第1(下)層
土色：黒褐色粘質土
取上：その1
No.：191
共伴：大和第VI-3様式
口径：7.7
高さ：6.7



MP-特殊-0098

059

059 特殊土器 (壺 / ミニチュア)

本土器は、大和第VI-4様式のミニチュア土器である。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。口縁部を欠くが、ほぼ完形の広口壺である。扁球形の胴部に外反する口縁部がつく。へら状工具先端による縦方向の刺突文を、頸部に2段、胴部上端に1段、横方向の刺突文を1段巡らす。また、頸胴部界と胴部の最下段に直線文を各1条を巡らす。胴部は、丁寧なミガキ調整で仕上げる。

第79次調査
遺構：SK-105
層位：第6層
土色：暗灰色粘砂
取上：—
No.：234
共伴：大和第VI-4様式
残存高：5.0
胴径：6.0



MP-特殊-0094

060

060 特殊土器 (鉢 / ミニチュア)

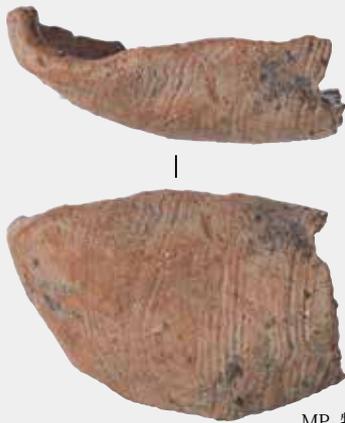
本土器は、大和第VI-4様式のミニチュア土器である。西地区北部の第93次調査の井戸から出土した。底部と胴部が一体で、やや胴部が内湾する完形の鉢である。手捏ね成形で、口縁端部は無調整で粗雑である。

第93次調査
遺構：SK-2111
層位：第4層
土色：黒粘
取上：その1
No.：230
共伴：大和第VI-4様式
口径：4.2
高さ：3.7



MP-特殊-0178

061



MP-特殊-0214

061 特殊土器（鳥形土器 / 異形）

本土器は、大和第Ⅲ様式の鳥形土器である。南地区の第77次調査の落ち込み状遺構から出土した。鳥形土器の頸部の注口部と思われる残片である。頸部は斜め上方に伸びる細頸と思われる、上端が口縁となっている。外面は頸部に対し、横位方向に櫛描直線文を巡らせる。内面はナデ調整で仕上げている。

第77次調査
遺構：SX-3101
層位：第1層
土色：黒色粘質土
取上：—
No.：37
共伴：大和第Ⅲ様式
残存長：5.5
残存幅：2.1

062



MP-特殊-0215

062 特殊土器（鳥形土器 / 異形）

本土器は、大和第Ⅱ様式あるいは大和第Ⅲ様式の鳥形土器である。南地区の第33次調査の区画溝から出土した。鳥形土器の胴部下半から底部の破片である。胴部は円形の底部から伸び上がるように形作る。外面はミガキ、内面はナデ調整で仕上げている。黒灰色を呈する。

第33次調査
遺構：SD-127
層位：第2(下)層
土色：灰黒粘
取上：—
No.：157
共伴：大和第Ⅱ・Ⅲ様式
残存長：9.2
残存幅：5.6

063 特殊土器（楕円形坏の高坏 / 異形）

063



MP-特殊-0106

本土器は、大和第Ⅴ様式の楕円形坏の高坏である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。坏部の一部を欠くが、ほぼ完形である。「ハ」字状に広がる脚部に浅い楕円形の坏部がつく。坏部の長軸側には互に向き合うように長方形の突出を作り、その下を三角形の透孔風にする。その突出部分に弧帯文風の精緻な櫛描文を描く。また、この文様を除く外面部分と坏部内面の側面には赤色塗彩が施されている。脚部には、四方に円形透孔を縦方向に4つあける。脚部にも赤色塗彩が残る。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：—
土色：砂層
取上：土-03
No.：72
様式：大和第Ⅴ様式
坏径：20.8×15.7
高さ：17.8

064 特殊土器（底部方形の鉢 / 異形）

本土器は、大和第三-1様式の底部が方形の鉢である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部及び鉢部上半が欠損した後、丁寧な打ち欠きで口縁部を再生している。底部は円形のもの強いナデと指頭による押さえにより、膨らみのある方形に成形している。鉢部は直線的に上方へ立ち上がる。鉢部下端の底部近くに縦方向の小さな把手を貼り付ける。全体のバランスから欠失した口縁部ちかくに同様の把手が存在した可能性がある。内外面はミガキ調整で仕上げる。内面には僅かに赤色顔料の付着がみられる。

第13次調査
遺構：SD-106D
層位：第10-b層
土色：黒粘Ⅲ
取上：土-1031
No.：426
共伴：大和第三-1様式
高さ：9.4
幅：15.2



MP-特殊-0003

065 特殊土器（楕円形の鉢 / 異形）

本土器は、大和第三-2様式の楕円形の鉢である。北地区の第23次調査の区画溝から出土した。底部から口縁部の一部が残存する。楕円形の平板な底部からやや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部は内側へ肥厚する。内外面はミガキ調整で仕上げる。

第23次調査
遺構：SD-151
層位：第1層
土色：黒灰粘
取上：—
No.：66
共伴：大和第三-2様式
復元口径：18.0×13.5
高さ：6.0



MP-特殊-0197

066



MP-特殊-0196

066 特殊土器（斜口縁の鉢 / 異形）

本土器は、大和第Ⅳ-2様式の口縁部が斜めに切り取られた鉢である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。底部から口縁部の一部が残存する。一般的な壺胴部下半であるが、何らかの理由で斜めに切り取り、口縁部としているものである。外面はミガキ調整で仕上げているが、このミガキを切って口縁部を仕上げていることから、壺完成前後に破損したために器種を変更したと考えられる。内面はナデ調整で仕上げる。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第5層
土色：灰黒色粗砂
取上：G-504
No.：749
共伴：大和第Ⅳ-2様式
復元口径：16.6×15.9
復元高：11.3

067



MP-特殊-0194

067 特殊土器（双脚の鉢 / 異形）

本土器は、大和第Ⅱ-2様式の底部が双脚となる土器である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。底部の一部が残存する。底部の端部に細長い長方形の突出部を作ることで、台部としている。内面は丁寧なミガキ調整をおこなう。底部の大きさから大形の鉢と考えられる。

第19次調査
遺構：SD-203
層位：第1層
土色：黒褐色土
取上：—
No.：369
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：10.6
残存幅：6.1

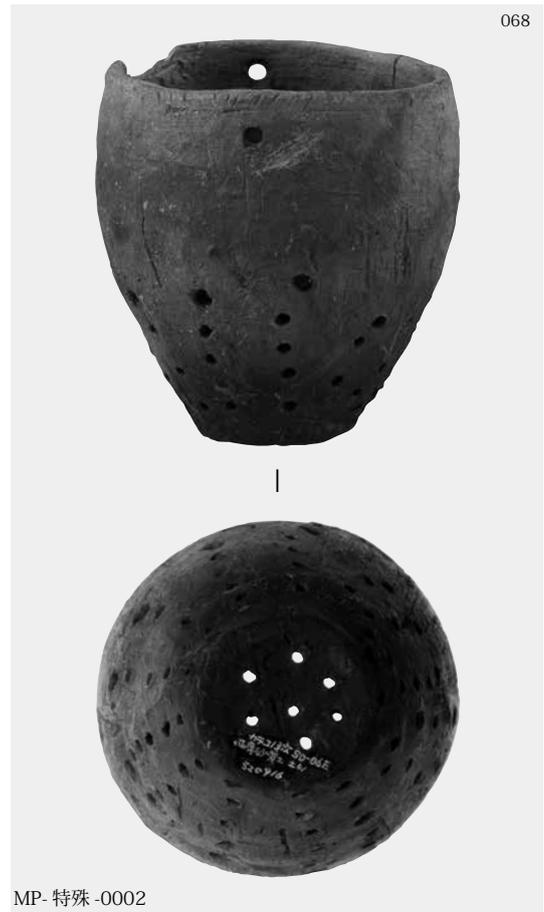
068 特殊土器（多孔鉢 / 異形）

本土器は、大和第三-3・4様式の多孔鉢である。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。縦長の碗状を呈し、口縁部はやや内湾する。口縁端部は僅かに面をもち、外側に小さく浅めの刻目をいれる。口縁部はヨコナデ、鉢下半はケズリ調整で仕上げる。鉢下半には、0.2～0.4cmの円孔を放射状におおよそ14列4～6段乱雑にあける。また、底面にも7つあける。口縁部下には吊り下げのための紐孔1孔一対をあける。内部には灰状物質が充満していたため、灰黒色の付着物が残る。



内面の付着物

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第6層
土色：砂質土
取上：土-669
No：346
共伴：大和第三-3・4様式
高さ：8.0
胴径：7.5

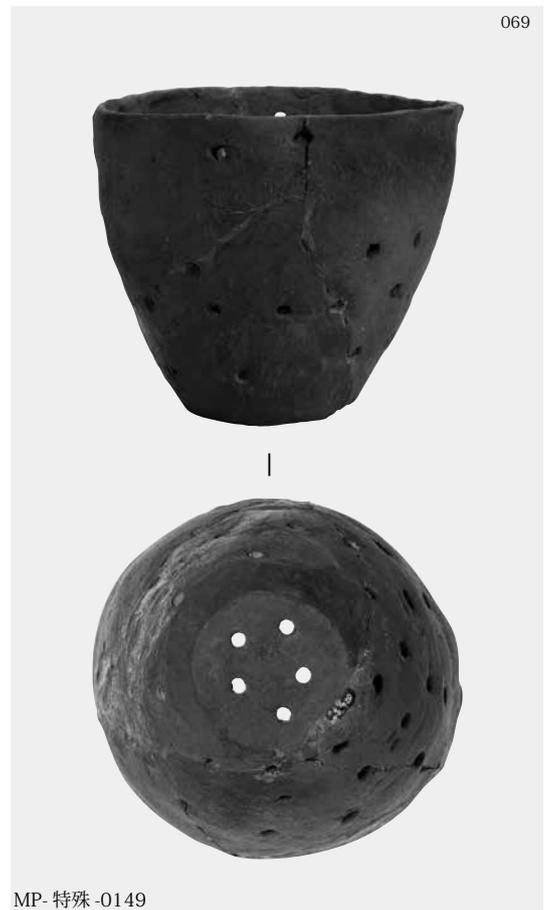


MP-特殊-0002

069 特殊土器（多孔鉢 / 異形）

本土器は、大和第四-1様式の多孔鉢である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部から底部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。縦長の碗状を呈す。全体にナデ調整で仕上げるが、やや不整形であり、あまり丁寧な作りでない。鉢下半には、0.3cm前後の円孔を放射状におおよそ11列3～4段乱雑にあける。底面の孔は欠損のため、不明である。口縁部下には吊り下げのための紐孔2孔一対をあける。内面には灰状物質の付着物が残る。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第8層
土色：黒灰色砂質土
取上：—
No：720
共伴：大和第四-1様式
口径：7.7
高さ：6.6



MP-特殊-0149

070



MP-特殊-0216

070 特殊土器（多孔高坏 / 異形）

本土器は、大和第IV-1様式の多孔高坏である。中央区の第98次調査の土坑から出土した。高坏（結合形土器）の坏部片である。外面は、ケズリ後ミガキ調整をおこなう。内面は被熱により器面が劣化しており、調整は不明である。坏部には径0.2cmの小孔をおおよそ4段にわたって放射状に丁寧にあけている。外面の色調が淡褐色であるのに対し、内面は被熱により小孔部分が赤褐色、その外側が灰褐色、さらにその外側が赤褐色というようにリング状に変色している。

第98次調査
遺構：SK-128
層位：第3層
土色：黒色粘質土（炭混）
取上：－
No.：425
様式：大和第IV-1様式
残存長：19.2
残存幅：13.1

071



MP-特殊-0199

071 特殊土器（多孔高坏 / 異形）

本土器は、大和第V-1様式の多孔高坏である。中央区の第72・76次調査の区画溝から出土した。高坏（結合形土器）の坏部と脚部の破片である。坏部は平らな底面から直立した後、大きく外反する口縁部がつく。脚部は柱状である。内外面は、丁寧なミガキ調整をおこなう。坏部には径0.3cmの小孔を1cmほどの間隔で不規則にあけている。また、坏部内面には放射状（6方向？）に赤色による直線文を描く。

第72次調査
遺構：SD-109
層位：第3層
土色：灰黒粘
取上：その2
No.：337
様式：大和第V-1様式
残存長：15.1
残存幅：9.4

072 特殊土器（注口付無頸壺 / 異形）

072



MP-特殊-0217

本土器は、大和第Ⅴ様式の注口付無頸壺である。南地区の第63次調査の区画溝から出土した。口縁部と胴部の一部が残存する。球形の胴部の上端には、外側に粘土帯を貼付・肥厚させる口縁部がつく。口縁端部は内傾する。口縁部下の対置方向に横方向の把手をつける。この把手の中間には、斜め上方に3cmほど立ち上がる注口をつける。口縁部と把手には円形竹管文を巡らす。外面はハケ調整で仕上げる。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：—
No.：220
様式：大和第Ⅴ様式
口径：17.3
残存高：18.3

073 特殊土器（円窓付土器 / 異形）

073

本土器は、大和Ⅴ様式の円窓付土器である。南東端の第47次調査の溝から出土した。壺の口頸部と胴部上半の一部を欠損する。下膨れの胴部に太めの脚台がつく。胴部上半に円窓の一部が残存する。頸胴部界にはヘラ描きの刺突文を巡らす。外面は、胴部上半が斜め方向のミガキ、胴部下半から脚台部はケズリ後ハケ調整、内面はナデ調整で仕上げる。脚裾部は1条の凹線文をいれる。

第47次調査
遺構：SD-2121
層位：第1層
土色：暗灰褐色砂質土
取上：土-101
No.：72
様式：大和第Ⅴ様式
残存高：22.7
胴径：19.0



MP-特殊-0078

074



MP-特殊-0212

074 特殊土器（被籠状凸帯壺 / 異形）

本土器は、大和第VI-4様式の被籠壺である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。口縁部を欠失し、胴部の一部も欠損する。下膨れを呈す球形の胴部で、底部は小さい。胴部上端・中央・下端に横方向の1条の細い粘土紐を貼り付けた凸帯を巡らせ、その上半と下半の凸帯間に5条1単位の縦方向の凸帯を4方向に重ならないように貼り付ける。また、その凸帯間はミガキ調整をおこなう。胴部上端の頸部間には櫛描波状文を巡らす。外面下半には、煤あるいは黒色物の付着がみられる。

第40次調査
遺構：SD-102
層位：第3層
土色：—
取上：土-366
No.：171
共伴：大和第VI-4様式
残存高：15.7
胴径：18.5

075 特殊土器（籠目鉢 / 異形）

075



MP-特殊-0073
[P5220]

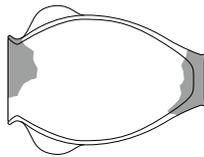
075-1

本土器は、古墳時代前期(布留1式)の可能性がある籠目土器の鉢である。南地区の第61次調査の黒褐色土層から出土した。口縁部2片と底部付近の1片が残存する。内湾ぎみに立ち上がる碗形の鉢で、外面全体に籠目が残っている。口縁端部の外側に扁平な粘土紐を貼付け、凸帯とし口縁部を作る。口縁端部は薄くシャープである。内面はナデ調整で仕上げる。

第61次調査
遺構：—
層位：—
土色：黒褐色土Ⅱ
取上：—
No.：155
共伴：布留1式?
残存長：5.9
残存幅：7.8

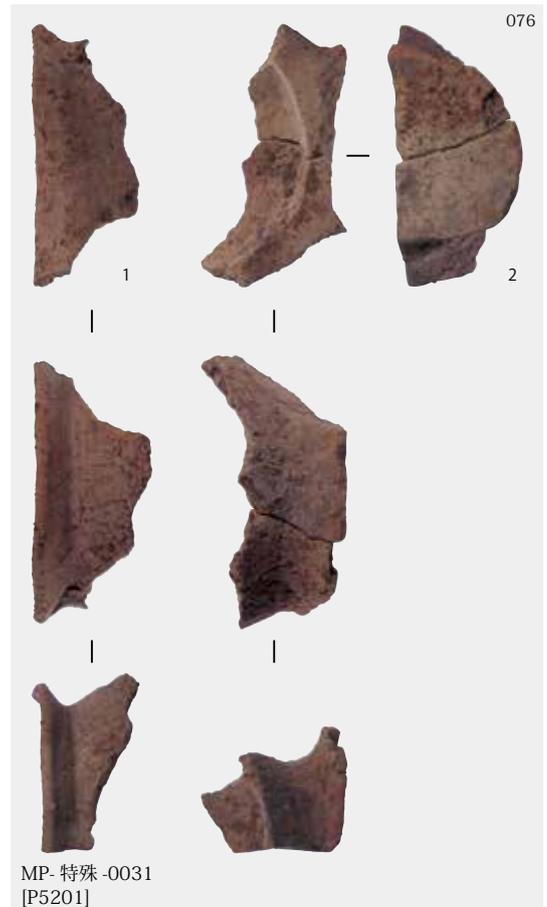
076 特殊土器（広片口鉢 / 異形）

本土器は、大和第IV-2様式の広片口鉢である。南地区の第65次調査の溝などから出土した。口縁部1片と尾部2片のみであるが、ほぼ全形を把握できるものである。器高35cmほどの甕を縦に半裁した形で、甕の口縁部に相当する部分が片口であり、また、甕底部にあたる部分が尾部になる。片口部の外面はハケ調整、尾部側はケズリ調整をおこない、一般的な甕の調整と変わらない。半裁した切断面は、面をもち丁寧に仕上げている。片口部と胴部の界の括れ部には、粘土の貼付けが一部残っていることから、把手が貼付けられていた可能性がある。尾部は、縁辺に一部粘土を貼り足すとともに指頭によって摘み出している。内外面とも保存状態が悪く、調整はわかりにくい、内面はミガキ調整と思われる。外面は被熱のため、淡灰赤色を呈している。



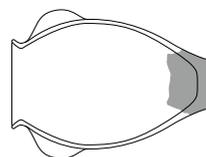
076-1

第 65 次調査
遺構：SD-123
層位：第 1 層
土色：黒褐色土
取上：土 -197
No.：870
共伴：大和第IV-2 様式
残存長：5.1
残存幅：12.9



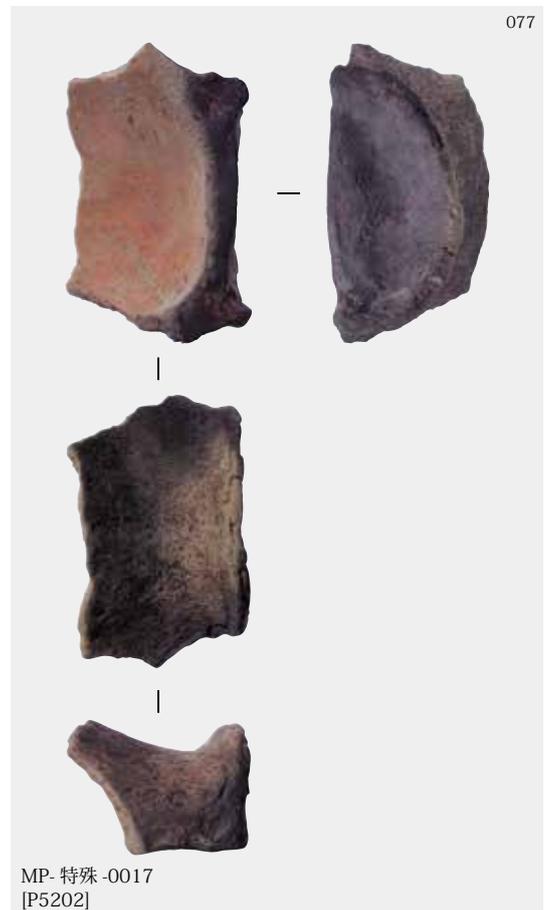
077 特殊土器（広片口鉢 / 異形）

本土器は、大和第IV-2様式の広片口鉢である。南地区の第61次調査の溝から出土した。広片口鉢の尾部の破片である。本土器も甕を半裁したもので、形態や尾部縁辺の作り方、ケズリ調整は前掲特殊076と類似している。この土器は保存状態が良好で、内面と鉢部上面の全面に朱が付着し、尾部裏面(側面)と外面には朱が点的に付着している。外面には煤の付着がみられる。

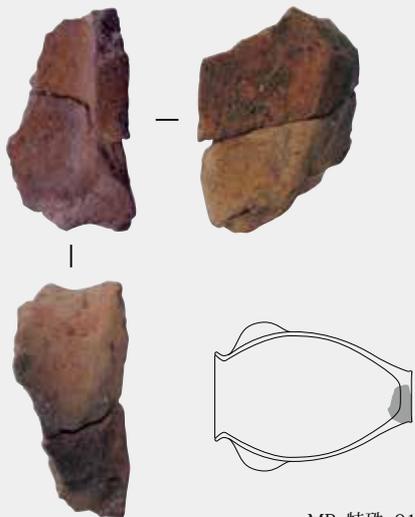


第 61 次調査

遺構：SD-104
層位：第 4 層
土色：黒粘
取上：—
No.：211
共伴：大和第IV-2 様式
残存長：7.3
残存幅：11.7



078



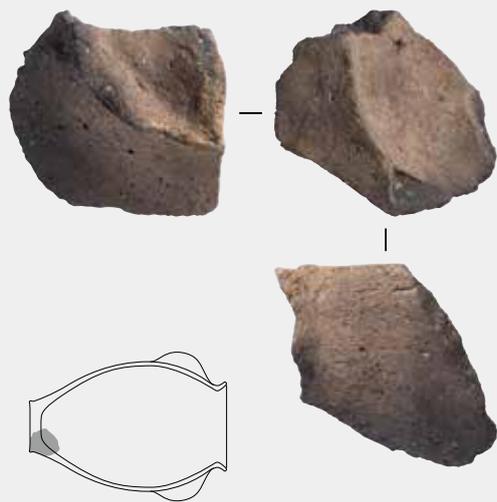
MP-特殊-0136
[P5203]

078 特殊土器（広片口鉢 / 異形）

本土器は、南地区の第65次調査の黒褐色土層(弥生時代中・後期)等から出土したため、詳細な時期は不明である。中期末から後期初頭の可能性がある。広片口鉢の尾部の破片である。内外面とも保存状態が悪く、調整はわかりにくい。外面はケズリ、内面はミガキ調整と思われる。尾部の縁辺の摘み出しがなく、逆に突出部を削り取っている。また、尾部裏面(側面)にもケズリ調整を施している。内面には、ほんの僅かであるが朱の付着が認められる。外面は被熱のため、淡灰赤色を呈している。

第65次調査	
遺構:	—
層位:	—
土色:	黒褐色土
取上:	—
No.:	180
共伴:	弥生時代中期末・後期初頭?
残存長:	4.6
残存幅:	7.6

079



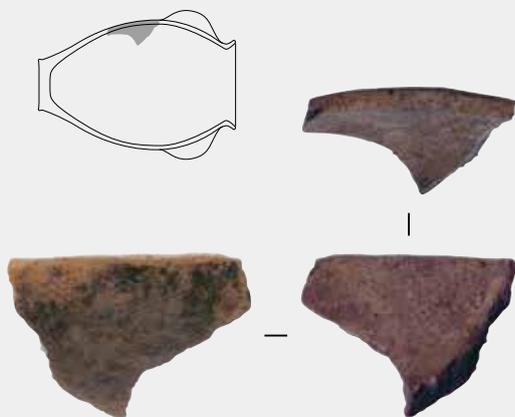
MP-特殊-0238

079 特殊土器（広片口鉢 / 異形）

本土器は、大和第V-1様式の広片口鉢である。南東端の第40次調査の環濠から出土した。広片口鉢の尾部の破片で、甕底部を縦方向に半裁した形状である。裁断面にあたる口縁部上面はナデ調整で仕上げる。短側面にあたる底部面は指頭による端部の摘み出しで突出させ、長側面側はケズリ調整である。内面はミガキ調整で仕上げる。朱はほとんど残っていないが、内面の僅かな凹みに残存する。

第40次調査	
遺構:	SD-101
層位:	西壁 Sec. 第3層
土色:	—
取上:	—
No.:	288
様式:	大和第V-1様式
残存長:	6.3
残存幅:	5.5

080



MP-特殊-0137
[P5204]

080 特殊土器（広片口鉢 / 異形）

本土器は、大和V-1様式の広片口鉢である。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。広片口鉢の鉢部の破片で、楕円形を呈する。鉢部の上端部は、裁断したような面をもっておらず、やや丸くなっていることから甕を半裁したものではないと考えられる。内面はナデ調整で仕上げるが、指頭圧痕の凹みが残る。内面および鉢上端部には僅かに朱が付着する。外面はハケ調整で仕上げる。また、煮沸による煤が付着する。

第61次調査	
遺構:	SD-101B
層位:	第4層
土色:	黒色粘砂
取上:	—
No.:	88
共伴:	大和第V-1様式
残存長:	7.8
残存幅:	9.3

081 特殊土器（飯蛸壺 / 異形）

081

本土器は、大和第IV様式の飯蛸壺である。北限の第70次調査の河跡から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。円筒形で底部は丸底になる。口縁部より少し下がったところに紐孔1つをあける。内外面はナデ調整で仕上げる。

第70次調査
遺構：SR-101
層位：第4層
土色：—
取上：土-401
No.：23
共伴：大和第IV様式
高さ：7.8
胴径：5.4



MP-特殊-0032

082 特殊土器（鉢 / 赤彩）

082

本土器は、大和第I-2様式の赤彩土器である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口縁部を僅かに欠くが、ほぼ完形の鉢である。底部から内湾ぎみに立ち上がる鉢で、碗状を呈す。口縁端部は、僅かに面をもつ。口縁部には一対の紐孔を穿孔する。鉢部上端には、ヘラ描直線文7条を浅く巡らす。ミガキや塗彩によって目立たなくなっている。底部底面を除く内外面には赤彩が施されているが、鉢部下半は剥落している。内面はナデ調整で仕上げています。土器胎土から奈良盆地東南部産、あるいは生駒山西麓産と考えられる。

第23次調査
遺構：SK-153
層位：第3層
土色：灰粘
取上：土-303
No.：550
様式：大和第I-2様式
口径：11.7
高さ：6.8



MP-特殊-0153

083 特殊土器（鉢 / 赤彩）

083

本土器は、大和第I-2様式の赤彩土器である。西地区中央部の第38次調査の土坑から出土した。口縁部から底部の一部が残存する。底部から内湾ぎみに立ち上がる鉢で、碗状を呈す。口縁端部は、僅かに面をもつ。鉢部上端には、ヘラ描直線文16条を浅く巡らす。底部底面を除く内外面には赤彩が施されている。内外面はミガキ調整で仕上げています。

第38次調査
遺構：SK-205・206
層位：第2層
土色：黒灰粘
取上：—
No.：138
様式：大和第I-2様式
高さ：10.6
残存幅：6.8



MP-特殊-0192

084



MP-特殊-0237

084 特殊土器 (小形長頸壺 / 異粘土使用)

本土器は、大和第VI-4様式の異粘土で製作された小形長頸壺である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。口縁端部を僅かに欠くが、ほぼ完形である。球形の胴部上半からあまり括れずに上方にのびる頸部とやや外反する口縁部がつく。口縁端部はやや内湾し尖りぎみである。底部から胴部上半まではあまり砂粒を混ぜない淡褐色の粘土で、頸部から口縁部は細砂粒が混在した乳褐色の粘土を用いて製作している。

第47次調査
遺構：SD-2102
層位：第2・3層
土色：崩壊土
取上：－
No.：497
様式：大和第VI-4様式
高さ：11.5
胴径：9.1

085



MP-特殊-0190

085 特殊土器 (手焙形土器 / 異粘土使用)

本土器は、大和第VI-3・4様式の異粘土で製作された手焙形土器である。南地区の第65次調査の方形周溝墓の周濠から出土した。手焙形土器の鉢胴部の一部である。浅い碗形の鉢下半に1条の凸帯を巡らせ、その上に刻目をいれる。口縁部は受口状を呈す。凸帯を界に下半と上半では胎土が異なる。下半は、石英・長石などの砂粒を多量に含む淡褐色の粘土、上半は砂粒をあまり含まない淡赤褐色の粘土で製作されている。

第65次調査
遺構：SK-102
層位：第1層
土色：黒褐色土
取上：－
No.：1145
様式：大和第VI-3・4様式
残存高：8.2
残存幅：15.3

086



MP-特殊-0123

086 特殊土器 (甕 / 異粘土使用)

本土器は、大和第VI-4様式の異粘土で製作された甕である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部から胴部の一部を欠損する。球形の胴部に短く外反する口縁部で、口縁部には片口がつく。口縁端部は丸く、底部は僅かに突出する。胴部下半は右上がり、上半は水平方向の矢羽状タタキを残す。上半のタタキはナデ調整によって消されている。胴部下半の塊部分は暗褐色を呈す盆地東南部産の粘土、上半は淡褐色を呈す唐古・鍵産の粘土を用いて製作されている。

第34次調査
遺構：SD-102
層位：第1(下)層
土色：黒褐色粘質土
取上：－
No.：44
様式：大和第VI-4様式
口径：13.4
高さ：13.2

087 特殊土器（高坏 / 異粘土使用）

本土器は、大和第VI-4様式の異粘土で製作された高坏である。東端の第75次調査の環濠から出土した。坏部の口縁部片である。皿形の坏底部に外上方向へ伸びる口縁部がつく。口縁端部はやや鋭い。坏部の大半は黒褐色を呈す盆地東南部産の粘土で製作されているが、口縁端部のみ淡褐色を呈す唐古・鍵産の粘土を用いて製作されている。

第75次調査
遺構：SD-101
層位：第3-b層
土色：茶灰色粘質土
取上：－
No.：89
共伴：大和第VI-4様式
残存長：7.3
残存幅：9.6



MP-特殊-0189

088 特殊土器（直口壺 / 動物爪圧痕）

本土器は、大和第III-3様式のネズミの爪圧痕が残された直口壺である。南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から出土した。口縁部を欠損する。縦長の球形の胴部に直口する頸部がつく。頸部から胴部上半にかけて櫛描直線文11帯以上、最下段に波状文1帯を施文する。胴部下半はミガキ調整を施す。胴部上半には、4条1単位の鋭い傷痕が逆「ハ」字状に2～3回にわたって上から下へ付けられている。土器製作後の乾燥時にネズミなどの小動物が壺に乗ろうとした時についた爪痕と思われる。胴部外面には被籠状圧痕と思われるものがつく。胴部に穿孔を施す。

第33次調査
遺構：SK-124
層位：第4-b層
土色：暗茶褐粘
取上：土-401
No.：680
共伴：大和第III-3様式
残存高：37.2
胴径：27.8



MP-特殊-0076

089 特殊土器（壺 / 動物爪圧痕）

本土器は、大和第III-3様式のネズミの爪圧痕が残された壺である。南地区の第69次調査の井戸から出土した。壺の胴部上半の破片である。櫛描直線文と波状文が交互に施文されている。また、単位が明瞭でないが、鋭い傷痕が2～3回にわたって上から下へ付けられている。この傷痕は円形刺突穴と一体となっており、土器製作後の乾燥時にネズミなどの小動物が壺に飛びついた時についた爪痕と思われる。

第69次調査
遺構：SK-1137
層位：第3-b層
土色：明黄色砂質土
取上：－
No.：2087
様式：大和第III-3様式
残存長：9.9
残存幅：9.3



MP-特殊-0127

090



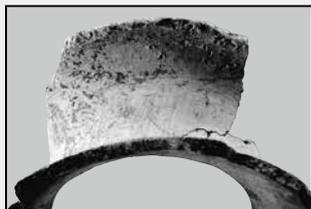
MP- 特殊 -0128

090 特殊土器（甕 / 動物爪圧痕）

本土器は、大和第Ⅲ-3様式のネズミの爪圧痕が残された甕である。南地区の第69次調査の井戸から出土した。口縁部から胴部片である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は、上方へ肥厚する。外面はハケ調整、内面はハケ後ナデ調整で仕上げる。甕の内面の大きく2ヶ所に爪痕跡がみられる。1つは口縁部の上面で多数の鋭い傷痕、他方は胴部中央内面で多数の鋭い傷痕と小さな円形刺突穴である。土器製作後の乾燥時にネズミなどの小動物が甕内部に入って出ようとした時についた爪痕と思われる。外面全体に煤が付着する。

第69次調査
遺構：SK-1137
層位：第5(下)層
土色：モミ層(灰粘混)
取上：—
No.：2062
様式：大和第Ⅲ-3様式
残存高：12.6
残存幅：18.9

091



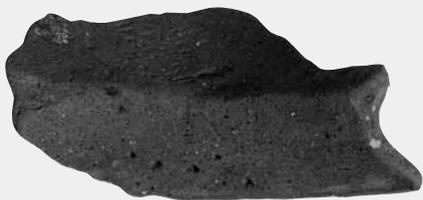
MP- 特殊 -0042

091 特殊土器（壺 / 動物歯形圧痕）

本土器は、大和第Ⅲ-1様式のイヌの歯形が残された壺である。西地区中央部の第20次調査の井戸から出土した。口縁部から胴部片である。口縁端部は、上方へ肥厚する。胴部外面は粗いハケ調整、口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部の内外面に小穴が半円弧状に3～4列並んでおり、また、それら小穴の端の口縁端部はやや歪んでおり、土器製作後の乾燥時にイヌが口縁部を啜えて数回噛んだ歯形の痕跡とみられる。土器の色調が淡灰褐色で、摂津地域からの搬入品の可能性がある。

第20次調査
遺構：SK-103
層位：第2層
土色：黒褐色粘質土
取上：土-219
No.：172
様式：大和第Ⅲ-1様式
残存高：8.4
残存幅：14.5

092



MP- 特殊 -0191

092 特殊土器（甕 / 動物歯形圧痕）

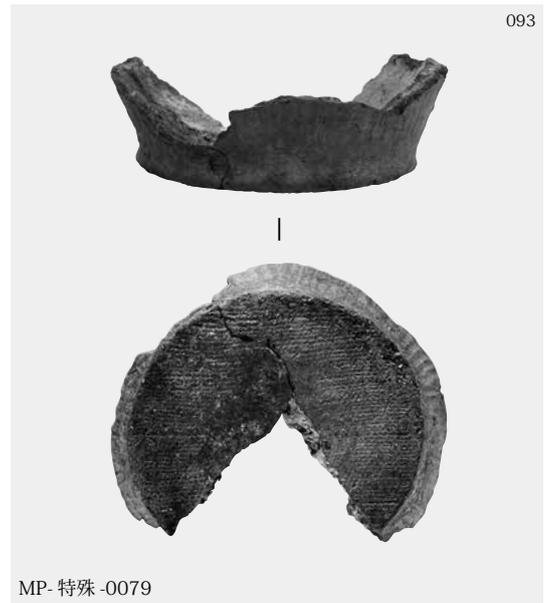
本土器は、古墳時代前期(庄内式)のイヌの歯形が残された甕である。南東端の第91次調査の環濠から出土した。甕の口縁部から胴部片である。口縁部は短く外反する。口縁端部は、わずかに上方へ肥厚する。胴部の外面はタタキ、内面はケズリ、口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部の内外面に小穴が並んでおり、また、それら小穴の端の口縁端部はやや凹んでおり、土器製作後の乾燥時にイヌが口縁部を啜えて数回噛んだ歯形の痕跡とみられる。土器の色調が黒褐色で角閃石を含んでいることから、奈良盆地東南部地域からの搬入品と思われる。

第91次調査
遺構：SD-103
層位：第2層
土色：—
取上：土-1225
No.：727
様式：庄内式
残存高：4.2
残存幅：8.7

093 特殊土器（甕 / 布圧痕）

本土器は、底部に布圧痕が残る大和Ⅱ-2様式の甕である。北地区の第23次調査の土坑から出土した。大和形甕の平底の底部片である。外面には粗いハケ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げる。底部裏面に布圧痕(12×11本/cm)が残されている。

第23次調査
遺構：SK-152・153・154
層位：第1層
土色：暗黄灰色土
取上：—
No.：253
様式：大和Ⅱ-2様式
残存高：2.7
底径：5.5

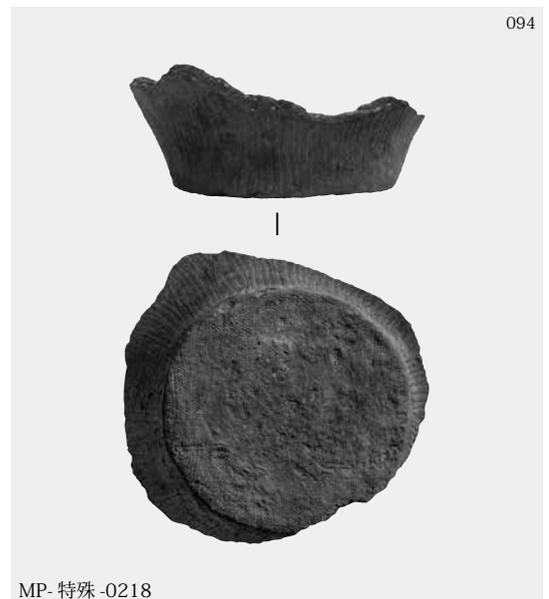


MP-特殊-0079

094 特殊土器（甕 / 布圧痕）

本土器は、底部に布圧痕が残る大和Ⅲ-3・4様式の甕である。北東端の第34次調査の環濠から出土した。大和形甕の平底の底部片である。外面には粗いハケ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げる。底部裏面に布圧痕(11×8本/cm)が残されている。

第34次調査
遺構：SD-102C
層位：第6層
土色：植物層
取上：—
No.：91
様式：大和Ⅲ-3・4様式
残存高：4.9
底径：8.4

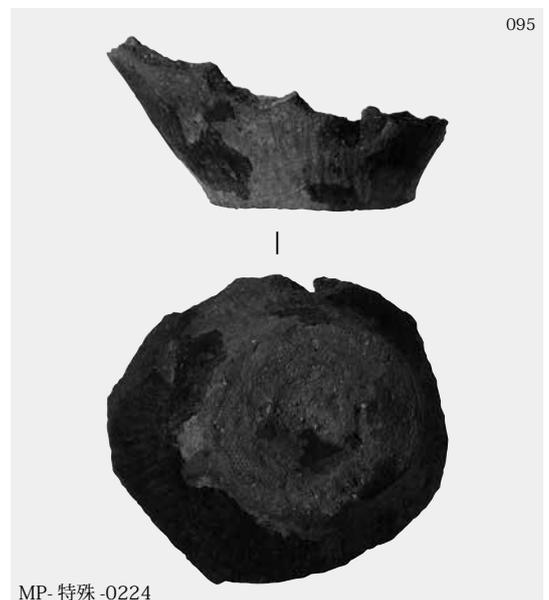


MP-特殊-0218

095 特殊土器（甕 / 布圧痕）

本土器は、底部に布圧痕が残る大和Ⅱ-3様式の甕である。西地区南部の第58次調査の区画溝から出土した。大和形甕の平底の底部片である。外面には粗いハケ調整を施す。また、煤の付着がみられるが、被熱により底部縁辺は器面が剥落する。この剥落は底部裏面にも及び、この剥落した部分に布圧痕が残されている。このことから、布敷で甕を製作し、最終段階で底部に薄く粘土を貼り付けたと考えられる。

第58次調査
遺構：SX-101
層位：第5層
土色：暗灰色細砂
取上：—
No.：326
様式：大和Ⅱ-3様式
残存高：4.4
底径：4.8



MP-特殊-0224

096



MP-特殊-0034

096 特殊土器（有段口縁壺 / 補修）

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の有段口縁壺を粘土により補修した土器である。西地区中央部の第97次調査の区画溝から出土した。口縁部から頸部の破片である。外反ぎみに広がる頸部に、大きく屈曲して上方へ内湾ぎみに立ち上がる口縁部がつく。口縁端部は面をもつ。口縁部外面には、櫛描簾状文2帯とその文様間に円形竹管文を押捺する。口縁部の内外面に、縦方向にひび割れが生じて、粘土を貼り付けて補修している。外面の櫛描文様は補修粘土に覆われ消えている。また、内面の補修粘土は、外面より広い範囲に及んでいる。

第97次調査
遺構：SD-1101
層位：第2層
土色：黒褐色粘質土（砂混）
取上：—
No.：6
様式：大和第Ⅲ-3様式
高さ：5.5
復元口径：20.6

097



MP-特殊-0188

097 特殊土器（甕 / 補修）

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の甕を粘土により補修した土器片である。北西端の第19次調査の土坑から出土した。甕の底部から胴部にかけての破片である。底部から外反ぎみに立ち上がる。外面はケズリ、内面はナデ調整で仕上げる。胴部下半の一部(4×2cm)に穴があいたため、粘土を充填したものである。補修した部分は、黒褐色を呈している。

第19次調査
遺構：SK-105
層位：第1層
土色：灰黒色粘質土
取上：土-102
No.：193
様式：大和第Ⅲ-3様式
残存高：5.7
底径：5.0

098



MP-特殊-0018

098 特殊土器（大鉢 / 補修）

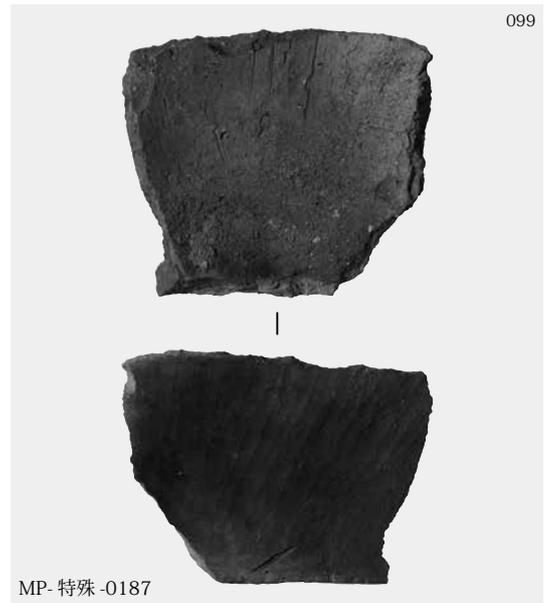
本土器は、大和第Ⅳ様式の大鉢を粘土により補修した土器である。北西端の第13・19次調査の環濠から出土した。口縁部から胴部の破片である。碗形の鉢部に脚台がつく。鉢底部は円盤充填である。口縁端部は面をもち、内外方に肥厚する。外面はタタキ成形後、粗いハケとナデ、ミガキ調整を施す。内面はナデ後ミガキ調整で仕上げる。10片の鉢胴部片のうち、2片の内外面に縦方向のひび割れが生じて粘土を貼り付けて補修している。補修した部分は、一部粘土が盛り上がっている。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第5層
土色：灰黒色粗砂
取上：G-503
No.：748
様式：大和第Ⅳ様式
残存長：20.0
残存幅：15.7

099 特殊土器（壺 / 補修）

本土器は、大和第Ⅳ様式の壺胴部を粘土により補修した土器片である。南地区の第65次調査の土坑から出土した。壺の胴部下半から底部の破片である。底部から外反ぎみに立ち上がる。外面はミガキ、内面はケズリ調整で仕上げる。内面の底部及び底部から縦方向にひび割れが生じて粘土を貼り付けている。補修した部分は、一部粘土が盛り上がっている。

第65次調査
遺構：SK-105
層位：第5(下)層
土色：灰黒色粘砂
取上：—
No.：427
様式：大和第Ⅳ様式
残存長：9.3
残存幅：10.6



MP-特殊-0187

100 特殊土器（広口長頸壺 / 補修）

本土器は、大和第Ⅱ-2様式の壺を樹皮紐により補修した土器片である。北地区の第26次調査の土坑から出土した。広口長頸壺の口縁部片である。口縁部は大きく外反する。口縁端部は丸く、刻目をいれる。内外面は粗くミガキ調整で仕上げる。壺の口縁部から頸部の縦方向のひび割れに対し、小孔をあけ樹皮紐を3重ほどに巻き付けたものである。

第26次調査
遺構：SK-2106
層位：第3(下)層
土色：黒粘
取上：その2
No.：506
様式：大和第Ⅱ-2様式
残存長：3.8
残存幅：5.2



MP-特殊-0131

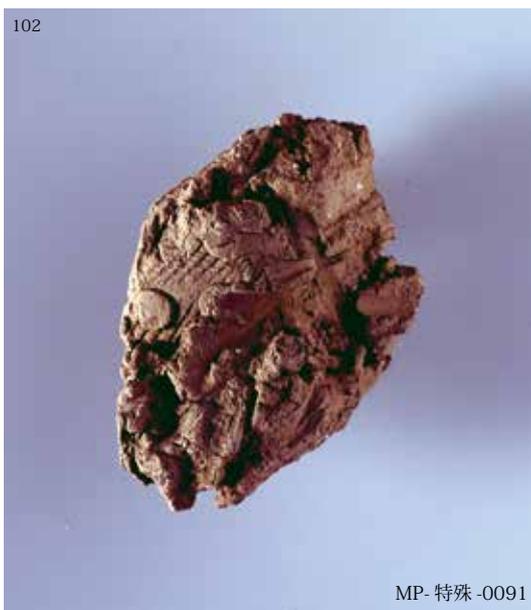
101 特殊土器（甕蓋 / 補修）

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の甕蓋を樹皮紐により補修した土器片である。北東端の第48次調査の環濠から出土した。蓋胴部から裾部にかけての破片である。笠形の蓋で裾部は大きく広がる。外面はケズリ後ミガキ、内面はナゲ調整で仕上げる。裾端部は上下に肥厚し、やや面をもつ。蓋の縦方向のひび割れに対し、小孔をあけ樹皮紐を3重ほどに巻き付けたものである。他方の破片は失われている。

第48次調査
遺構：SD-C-201
層位：第7層
土色：暗灰褐粘(植物層)
取上：その2
No.：140
様式：大和第Ⅲ-1様式
残存高：5.5
復元裾径：23.8



MP-特殊-0080



102 特殊土器（壺 / 製作失敗）

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の壺の製作途中で失敗した土器片である。北西端の第19次調査の環濠から出土した。壺の外表面の一部と粘土塊と一緒に固められたものである。壺の外表面には、櫛描簾状文2帯と円形浮文2段(上1・下2)が貼付されている。このことから、細頸壺の口縁部、あるいは胴部の破片であろう。また、この破片と一体になっている粘土塊は、スサ痕がみられることから、土器用の粘土塊ではない可能性もある。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第10層
土色：黒粘
取上：－
No.：859
様式：大和第Ⅲ-1様式
長さ：6.6
幅：4.6



103 特殊土器（広口壺 / 製作失敗）

本土器は、古墳周濠から出土したため、時期は特定できないが、土器型式から大和第Ⅴ様式の広口壺と考えられるもので、製作途中で失敗した土器片である。西地区中央部の第20次調査から出土した。広口壺の口縁部から頸部である。口縁部は下方へ垂下する。頸部の一部は折り曲げられ、口縁部にくっついている。

第20次調査
遺構：SX-102
層位：第1(下)層
土色：黒褐色粘質土
取上：－
No.：127
様式：大和第Ⅴ様式？
長さ：3.7
幅：7.4



104 特殊土器（漆内蔵の壺 / 内蔵物遺存）

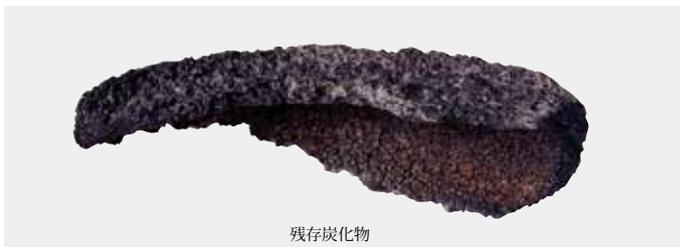
本土器は、弥生時代前期の漆内蔵の壺と思われる底部片である。西地区北部の第79次調査の溝から出土した。底部外面はミガキ調整と思われる。底部内面には、漆が厚く付着する。

第79次調査
遺構：SD-103
層位：第5-b層
土色：灰粘(砂混)
取上：－
No.：268
時期：弥生時代前期
残存高：4.3
残存幅：11.5

105 特殊土器（炭化物内蔵の壺 / 内蔵物遺存）

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の炭化物内蔵の広口長頸壺である。西地区中央部の第20次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠く。縦長の球形の胴部に、外上方に長く伸びる頸部、大きく屈曲して広がる口縁部をもつ。口縁端部は上下に僅かに肥厚する。口縁端部には櫛による刺突文を巡らす。頸部から胴部にかけて櫛描直線文を14帯施文する。胴部下半はミガキ、胴部内面はハケ調整を施す。壺内部の底部から胴部にかけて斜め1/3の範囲に雑穀の炭化物がリング状に残存するが、一部は遊離している。

第20次調査
遺構：SX-101
層位：第6層
土色：—
取上：土-640
No：429
様式：大和第Ⅲ-1様式
高さ：43.7
胴径：23.7



残存炭化物



MP-特殊-0043

106 特殊土器（炭化物内蔵の鉢 / 内蔵物遺存）

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の炭化物内蔵の鉢である。西地区北部の第79次調査の土坑から出土した。口縁部から胴部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる鉢である。扁球形の胴部で、上半はやや内湾する。口縁部は外側へ折り曲げ、櫛描きの刺突文を巡らす。胴部上半には櫛描直線文を3帯施文する。鉢部内面には、煮沸により炭化した物質が底部から口縁部にかけて斜め2/3の範囲に残存する。その厚みは、厚いところで約1.5cmに及ぶ。

第79次調査
遺構：SK-113
層位：第2層
土色：—
取上：土-201
No：390
様式：大和第Ⅲ-1様式
高さ：18.7
胴径：28.5

MP-特殊-0130
[P3008]



107 特殊土器 (炭化物内蔵の壺 / 内蔵物遺存)

本土器は、大和第V-1様式の炭化物内蔵の壺である。南東端の第47次調査の環濠から出土した。口縁部から胴部の一部を欠くが、ほぼ完形の短頸壺である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。胴部外面はケズリ調整で仕上げる。壺内部には、炭化した米の塊が残存していたが、現在は3片に遊離している(MT-穀物-0010)。内面の状況や炭化米塊の曲面の状況から、底部の底面ではなく、やや斜めの位置で残存していた可能性がある。

第47次調査
遺構：SD-2101
層位：第8層
土色：—
取上：土-852
No.：192
様式：大和第V-1様式
高さ：19.5
胴径：15.8



108 特殊土器 (赤色顔料内蔵の鉢 / 内蔵物遺存)

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の赤色顔料内蔵の鉢である。西地区北部の第79次調査の土坑から出土した。口縁部から胴部の一部を欠くが、ほぼ全体のわかる鉢である。胴部は底部から直線的に拡がる。口縁部は内方へ肥厚して面をもち、ヘラによる刻目をいれる。胴部上半には櫛描波状文と直線文を各1帯施文する。内外面はミガキ調整を施す。外面は煮沸による煤が付着する。また、鉢部内面下半には、赤色顔料(ベンガラ)が付着している。胴部上半は摩滅のため、不明。

第79次調査
遺構：SK-118
層位：第4層
土色：—
取上：土-401
No.：442
様式：大和第Ⅲ-1様式
口径：18.0
高さ：13.2



109 特殊土器 (赤色顔料内蔵の鉢 / 内蔵物遺存)

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の赤色顔料内蔵の鉢である。南地区の第33次調査の土坑から出土した。口縁部から胴部の破片である。底部から内湾ぎみに立ち上がる碗状の鉢である。口縁部は面をもち、ヘラによる刻目をいれる。胴部上半には櫛描波状文3帯とその間に直線文を施文する。内外面はミガキ調整を施す。外面は煮沸により黒色化する。また、鉢部内面には、赤色顔料が付着している。

第33次調査
遺構：SK-134
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：土-401
No.：515
様式：大和第Ⅲ-1様式
残存高：14.5
胴径：16.0

110 特殊土器（ト骨内蔵の壺 / 内蔵物遺存）

110

本土器は、大和第三-3様式のト骨が内蔵されていた広口壺である。西地区中央部の第20次調査の土坑から出土した。口縁部から胴部の一部を欠くが、ほぼ完形の広口壺である。縦長の球形の胴部に大きく外反する口縁部がつく。口縁端部は上方へ肥厚し、面をもつ。外面は粗いハケ調整で仕上げる。外面は煮沸により煤が一部付着する。内部には、イノシシ幼獣の肩甲骨が使用されたト骨(MK-ト骨-0002)が内蔵されていたが、現在は別置している。

第20次調査
遺構：SK-107
層位：第5層
土色：黒粘
取上：土-502
No.：199
様式：大和第三-3様式
高さ：24.7
胴径：19.6



MP-特殊-0071

111 特殊土器（ネズミ内蔵の壺 / 内蔵物遺存）

111

本土器は、大和第一-2様式のハタネズミが内蔵されていた広口壺である。北地区の第23次調査の区画溝から出土した。口縁部から胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の広口壺である。球形の胴部に緩やかに外反する口頸部がつく。口縁端部は面をもつ。頸部に幅広の削出凸帯1条を作出し、その中央にヘラ描直線文1条を巡らす。外面はミガキ調整を施す。本土器内部からハタネズミの骨2個体分(MB-骨類-0073・0074)が見つかったが、現在は別置している。

第23次調査
遺構：SD-203
層位：第5層
土色：灰黒色砂質土
取上：土-503
No.：275
様式：大和第一-2様式
高さ：32.5
胴径：26.6



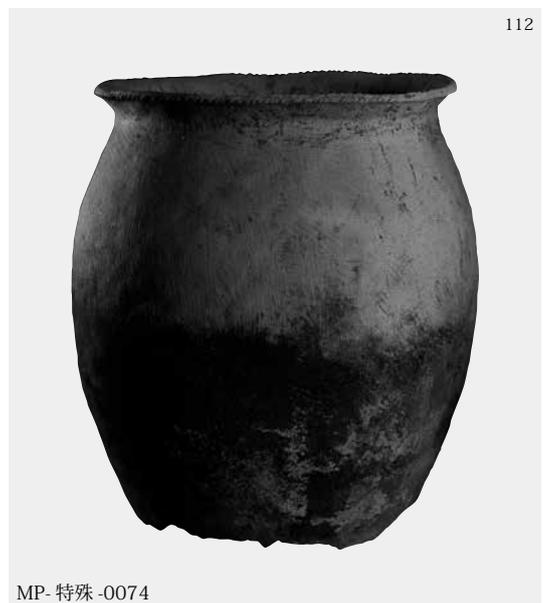
MP-特殊-0045

112 特殊土器（甕 / 井戸杵転用）

112

本土器は、大和第二-3様式の井戸杵に転用された甕である。西地区中央部の第20次調査の井戸の杵として使用されていた。底部は筒状にするため、打ち欠きにより欠失している。底部を欠失している以外は、ほぼ形が残っている大和形甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁部には、ヘラ状工具による刻み目を巡らす。胴部外面は縦位の粗いハケ、口縁部の内外面は横位のハケを施す。胴部下半には煤が付着する。

第20次調査
遺構：SX-201
層位：第6層
土色：黄褐色細砂
取上：土-601
No.：644
様式：大和第二-3様式
高さ：36.0
胴径：36.5



MP-特殊-0074

113



MP-特殊-0050

113 特殊土器（甕 / 井戸枠転用）

本土器は、大和第Ⅲ-1様式の井戸枠に転用された甕である。中央区の第50次調査の井戸の枠として使用されたものである。口縁部を下にして設置されていた。底部から胴部下半は筒状にするため、打ち欠きにより欠失しているが、他の部分は全体が揃っており、ほぼ全形がわかる大和形甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁端面は広く、その下端にはヘラによる刻目を巡らす。外面は、胴部全体に粗いハケ、下半にミガキ調整を施す。内面は、口縁部に横位ハケ、胴部に斜位のハケ調整を施す。胴部全体に煤が付着する。

第50次調査
遺構：SK-105
層位：第1層
土色：—
取上：土-03
No.：424
様式：大和第Ⅲ-1様式
高さ：40.0
胴径：42.3

114



MP-特殊-0142

114 特殊土器（有段口縁壺 / 井戸枠転用）

本土器は、大和第Ⅲ-3様式の井戸枠に転用された有段口縁壺である。南地区の第69次調査の井戸（大型白・甕・有段口縁壺を組んだ集水施設）の上段の枠として使用されたものである。特殊115の甕の口縁部と互いに合わさるようにして、口縁部を下にして載っていた。胴部以下を打ち欠いた口頸部である。頸部は上方へ僅かに広がりながら立ち上がり、屈曲して内湾ぎみの短い口縁部がつく。内外面はハケ調整、口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。頸胴部界には、粘土紐による凸帯を貼付け、その上にヘラによる刺突を細かく巡らす。

第69次調査
遺構：SK-1130
層位：第6層
土色：—
取上：土-601
No.：1836
様式：大和第Ⅲ-3様式
口径：33.0
高さ：19.5

115



MP-特殊-0141

115 特殊土器（甕 / 井戸枠転用）

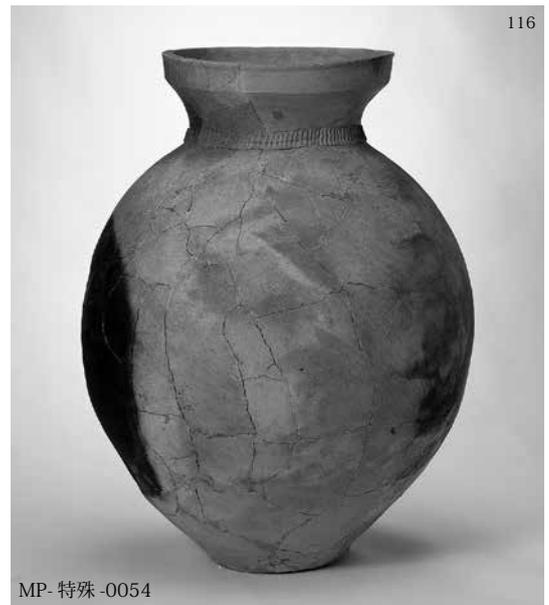
本土器は、大和第Ⅲ-3様式の井戸枠に転用された甕である。南地区の第69次調査の井戸（大型白・甕・有段口縁壺を組んだ集水施設）の中段の枠として使用され、逆さになった大型白（木製品067）の上に載っていた。口縁部の一部を欠く。底部は、筒状にするため打ち欠く。ほぼ全形がわかる大和形甕である。縦長の球形の胴部に強く屈曲する短めの口縁部がつく。口縁端面には、ハケ状工具による刻み目を巡らす。胴部外面の上半は左上がりのタタキ後、縦位の粗いハケ、下半はミガキ調整を施す。内面の口縁部は横位ハケ、胴部は斜位のハケ調整を施す。胴部下半には煤が付着する。

第69次調査
遺構：SK-1130
層位：第12層
土色：—
取上：土-1201
No.：1985
様式：大和第Ⅲ-3様式
高さ：47.7
胴径：42.9

116 特殊土器（有段口縁壺 / 井戸枠転用）

本土器は、大和第三-1様式の井戸枠に転用された有段口縁壺である。中央区の第50次調査の井戸（集水施設）の枠として使用されていた。口縁部の一部を欠く。また、底部は筒状にするため、打ち欠きにより欠失している。この底部は、枠本体設置時に横に置かれていた。壺は、縦長の球形の胴部に短く外反する頸部と上方に立ち上がる口縁部がつく。頸胴部界には、粘土紐による凸帯を貼付け、その上にヘラによる刺突を巡らす。本遺跡において、ほぼ完形に復元できた最大の土器で、高さ88.9cmである。

第50次調査
遺構：SK-106
層位：第1層
土色：—
取上：土-101
No.：320
様式：大和第三-1様式
高さ：88.9
胴径：67.7

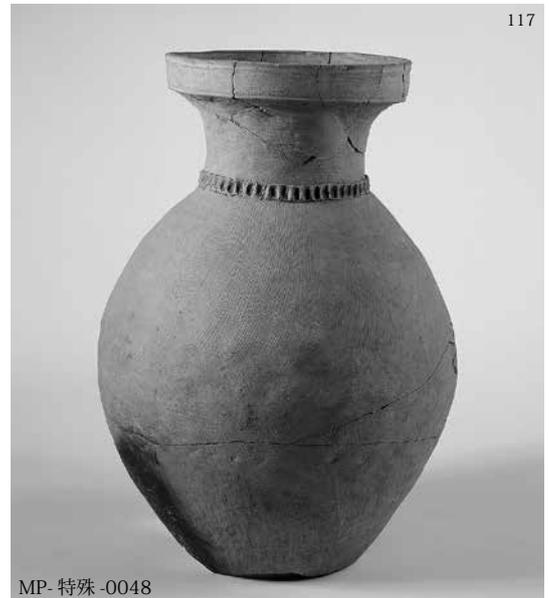


MP-特殊-0054

117 特殊土器（有段口縁壺 / 井戸枠転用）

本土器は、大和第三-3様式の井戸枠に転用された有段口縁壺である。北西端の第19次調査の井戸（2段組の集水施設）の下段の枠として使用され、特殊118の甕が上に載っていた。頸部・胴部の一部を欠く。また、底部は筒状にするため、打ち欠きにより欠失している。ほぼ全形のわかる壺である。縦長の球形の胴部に短く外反する頸部と上方に立ち上がる口縁部がつく。口縁部の上下端には、凹線各1条を巡らせる。頸胴部界には、粘土紐による凸帯を貼付け、その上にヘラによる刺突を巡らす。

第19次調査
遺構：SX-202
層位：第4層
土色：—
取上：土-402
No.：899
様式：大和第三-3様式
高さ：50.5
胴径：36.0

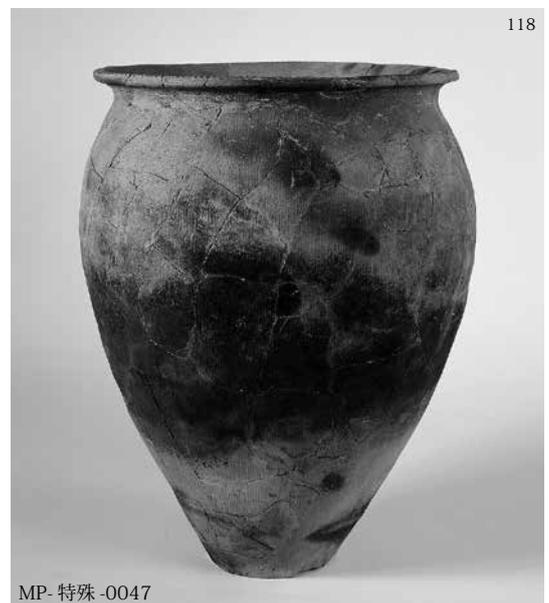


MP-特殊-0048

118 特殊土器（甕 / 井戸枠転用）

本土器は、大和第三-3様式の井戸枠に転用された甕である。北西端の第19次調査の井戸（2段組の集水施設）の上段の枠として使用され、特殊117の壺の上に載っていた。口縁部・胴部の一部を欠く。また、底部は筒状にするため、打ち欠きにより欠失している。ほぼ全形がわかる大和形甕である。縦長の球形の胴部に短く外反する口縁部がつく。口縁部には、ハケ状工具による刻み目を巡らす。胴部外面は縦位の粗いハケ、口縁部の内外面は横位のハケを施す。胴部下半には煤が付着する。

第19次調査
遺構：SX-202
層位：第4層
土色：—
取上：土-401
No.：898
様式：大和第三-3様式
高さ：48.5
胴径：38.7



MP-特殊-0047

119

119 特殊土器（短頸壺 / 壺棺転用）



MP-特殊-0102

本土器は、大和第Ⅳ-1様式の棺本体に転用された短頸壺である。中央区の第50次調査で検出した。口頸部は打ち欠きにより欠失しており、欠失した開口部は直径約13cmである。この部分を覆うように特殊120の壺胴部が重ねられていた。口頸部以外はほぼ形が残り、胴部は縦長の球形を呈する。頸胴部界には、ハケ原体による刺突を巡らす。胴部外面の上半はハケ後丁寧なナデ、下半はケズリ後ミガキ調整を施す。胴部中央に長軸1.7cm、短軸1.2cmほどの楕円形の穿孔1つがみられる。

第50次調査
遺構：SX-101
層位：—
土色：—
取上：土-101
No.：122
様式：大和第Ⅳ-1様式
高さ：31.9
胴径：29.0

120 特殊土器（広口壺 / 壺棺蓋転用）

120



特殊119・120を合わせた状態

MP-特殊-0103

本土器は、大和第Ⅳ-1様式の土器棺蓋に転用された広口壺である。中央区の第50次調査で検出した。特殊119の土器棺本体の蓋として使用されたもので、胴部を縦半分に打ち割っている。欠損部分の開口部は、34cmほどの円形を呈する。胴部内面の棺本体の開口部が接していた部分以外は、埋置後の鉄分の付着が激しい。口縁部も一部欠損するが、意識的なものかどうかは判断できない。球形の胴部に外反する口頸部がつく。口縁端部は上下に肥厚し、2条の凹線文と3個一組の円形浮文を6方向（4方向残存）に貼り付けたものと思われる。頸部に4条の凹線文、胴部上半に細条の櫛描波状文3帯を巡らす。

第50次調査
遺構：SX-101
層位：—
土色：—
取上：土-101
No.：122
様式：大和第Ⅳ-1様式
高さ：40.1
胴径：34.0

121 特殊土器（甕 / 甕棺転用）

本土器は、大和第IV様式の土器棺本体に転用された大型の甕である。北西端の第13次調査で検出した。口縁部から胴部上半1/2は削平のため、欠失する。甕棺内には壺胴部片(MP-特殊-0240)があり、蓋として利用したものと考えられる。上胴部に膨らみをもつ縦長の胴部に短く屈曲する口縁部がつく。口縁端部は上方に肥厚する。口縁部はヨコナデ調整で、屈曲部には細かい刻目を入れる。胴部下半はケズリ、上胴部はナデ調整で仕上げる。

第13次調査
遺構：SX-101
層位：第1層
土色：—
取上：土-101
No.：638
様式：大和第IV様式
高さ：49.5
復元胴径：39.0



MP-特殊-0239

122 特殊土器（広口壺 / 壺棺転用）

本土器は、大和第VI-2様式の土器棺本体に転用された広口壺である。南地区の第69次調査で検出した。口頸部は打ち欠きにより欠失しており、欠失部分は直軸19cm、短軸16.5cmの楕円形を呈している。球形の胴部で、底部は小さく突出する。胴部はハケ後ナデ調整をおこない、ミガキ調整で仕上げる。

第69次調査
遺構：SX-1101
層位：第1層
土色：—
取上：土-101
No.：769
様式：大和第VI-2様式
高さ：54.0
胴径：40.5



MP-特殊-0225

123 特殊土器（高坏 / 壺棺蓋転用）

本土器は、大和第VI-2様式の土器棺蓋に転用された高坏坏部である。南地区の第69次調査で検出した。特殊122の土器棺本体の蓋として使用されたもので、特殊122の内部から破片となって出土した。多くは接合し、坏部の約2/3が残存する。皿形の坏部下半に短く外湾する口縁部がつく。口縁端部はやや丸く、下方にやや肥厚する。脚部との接合部は明瞭。外面は僅かにミガキ調整が残るが、内外面全体の保存状態が悪く不明である。

第69次調査
遺構：SX-1101
層位：第1層
土色：—
取上：土-119
No.：769
様式：大和第VI-2様式
口径：27.0
高さ：7.8



MP-特殊-0226

124



MP-特殊-0108

124 特殊土器（広口壺 / 被熱）

本土器は、大和第Ⅰ-2様式の被熱した広口壺の口縁部片である。西地区中央部の第20次調査の木器貯蔵穴に投棄された土器である。頸部から口縁部が緩やかに外反する広口壺である。口縁部に1孔の紐孔をあける。胴部は赤色化だけであるが、口縁部は高熱により器面が暗赤色化し、溶解・発泡するとともに口縁部が大きく歪む。口縁部外面が最も強く被熱している。

第20次調査
遺構：SK-215
層位：第2(下)層
土色：灰黒粘
取上：土-275
No.：705
様式：大和第Ⅰ-2様式
口径：17.0
残存高：9.8

125



MP-特殊-0221

125 特殊土器（広口壺 / 被熱）

本土器は、大和第Ⅰ-2様式の被熱した広口壺の口縁部片である。西地区中央部の第20次調査の木器貯蔵穴に投棄された土器である。口縁部は大きく歪み、元の形状はわからない。内外面はミガキ調整を施す。外面からの被熱で、器面は暗赤色化し、溶解する。

第20次調査
遺構：SK-215
層位：第4層
土色：灰粘
取上：—
No.：713
様式：大和第Ⅰ-2様式
残存長：10.0
残存幅：8.0

126



MP-特殊-0222

126 特殊土器（広口壺 / 被熱）

本土器は、大和第Ⅰ-2様式の被熱した広口壺の頸部片である。西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。頸部には3条のへら描直線文が巡る。外面からの被熱で、器面は暗灰色化し、溶解・発泡する。頸部は大きく歪む。

第37次調査
遺構：SK-2202
層位：第1層
土色：暗灰青粘
取上：—
No.：691
様式：大和第Ⅰ-2様式
残存長：7.9
残存幅：9.8

127

127 特殊土器（短頸壺 / 被熱）

本土器は、大和第四-1様式の被熱した短頸壺である。南地区の第33次調査の井戸や溝等から出土した。胴部下半から口縁部までであるが、全体では1/3程度が残存する。縦長球形の胴部で上方に頸部が立ち上がり、さらに大きく外反して上方へ口縁部がのびる。胴部外面下半はケズリ、上半から頸部はハケ調整で仕上げる。頸胴部界にはハケ原体による列点文を巡らす。器面は全体に劣化し、色調は被熱の度合いにより異なり、赤褐色（胴部上半）・淡赤褐色（口頸部）・淡灰色（口縁部・胴部上半）・淡褐色（胴部下半）を呈するが、局部的に淡褐色や淡灰色、灰黒色を呈する。

第33次調査
遺構：SK-120
層位：第2層
土色：—
取上：土-228
No.：460
様式：大和第四-1様式
残存高：40.3
残存胴径：28.2



MP-特殊-0219

128

128 特殊土器（甕蓋 / 被熱）

本土器は、大和第四-1様式の被熱した甕蓋である。南地区の第33次調査の柱穴から出土した。摘み部から裾部までであるが、全体では1/3程度が残存する。やや内湾ぎみの笠形を呈する体部で、摘み部は外側へやや突出する。裾端部は、上下に肥厚する。外面はハケ・ケズリ調整がみられるが、器面は劣化し調整は不明。色調は全体に赤褐色を呈するが、局部的に淡褐色や淡灰色、灰黒色を呈する部分がある。

第33次調査
遺構：Pit-111
層位：第1層
土色：—
取上：土-103
No.：174
様式：大和第四-1様式
高さ：14.7
復元裾径：37.5



MP-特殊-0049

129

129 特殊土器（甕 / 被熱）

本土器は、大和第四-1様式の被熱した甕である。南地区の第33次調査の井戸・溝から出土した。口縁部・胴部の一部を欠くが、ほぼ全形のわかる甕である。やや突出ぎみの底部に縦長の胴部がつく。胴部は上半に張りをもつ。口縁部は短く外反し、端部は上方へ肥厚する。胴部上半の外面はハケ後ナデ、下半はケズリ、内面はナデ調整で仕上げる。口縁部から胴部上半の斜め1/3にかけて強く被熱し、器面は剥落・劣化し、色調は淡灰色から淡灰黒色を呈する。また、被熱の反対側の胴部上半は淡赤褐色を呈している。底部に内面側からの穿孔がみられる。

第33次調査
遺構：SD-115・SK-120
層位：第2層
土色：灰粘
取上：—
No.：179
様式：大和第四-1様式
高さ：23.2
復元胴径：16.6



MP-特殊-0220

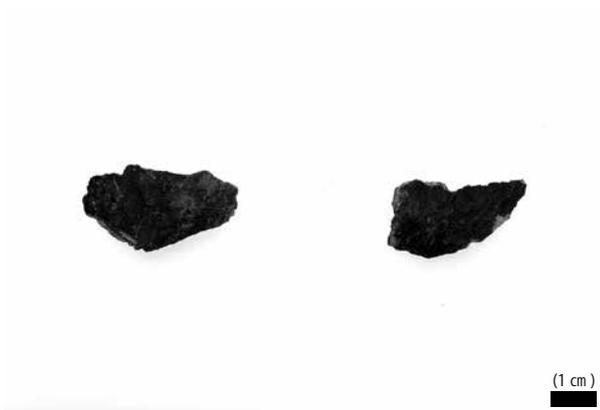
底部の穿孔



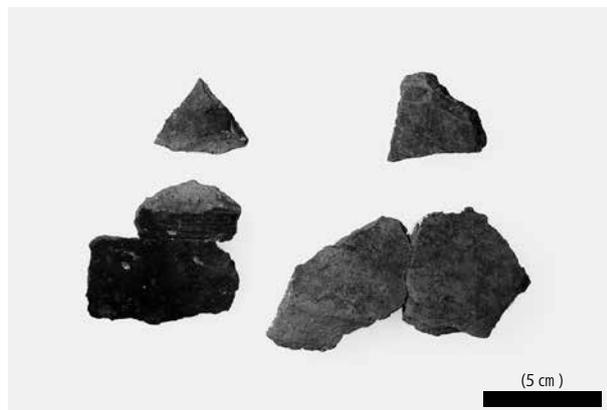
編年011(MP- 編年-0044)殘片



編年017(MP- 編年-0118)殘片



編年023(MP- 編年-0294)殘片



編年029(MP- 編年-0127)殘片



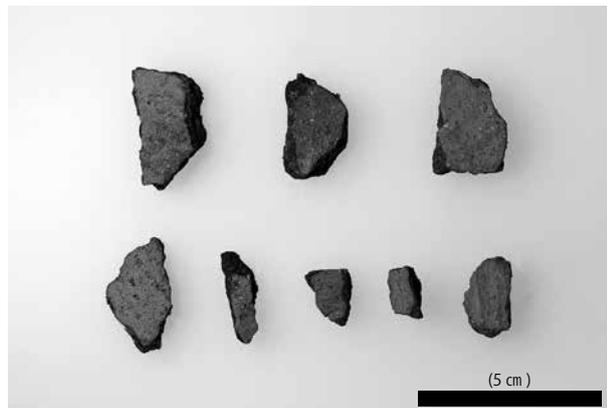
編年034(MP- 編年-0226)殘片



編年045(MP- 編年-0072)殘片



編年049(MP- 編年-0240)殘存蔓

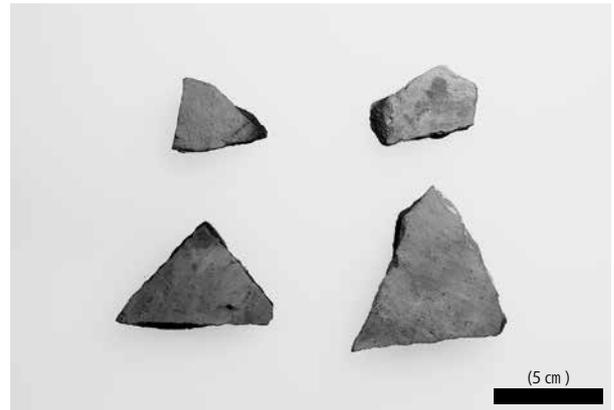


編年066(MP- 編年-0123)殘片

1. 遺物図版



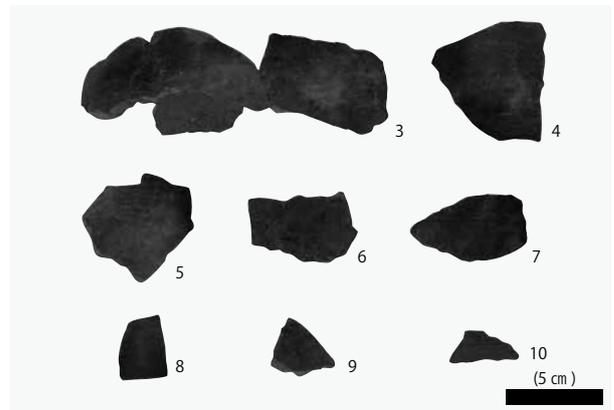
編年068(MP-編年-0066)残片



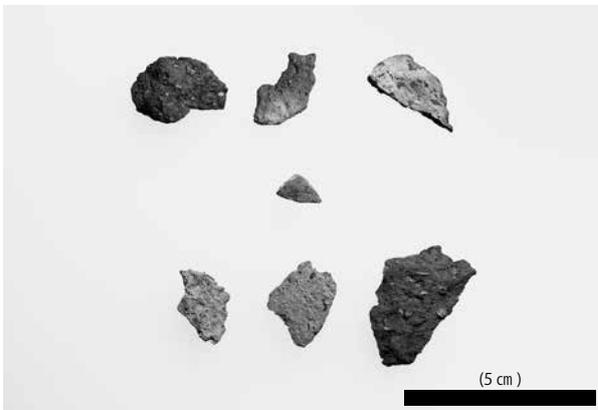
搬入007(MP-搬入-0008)残片



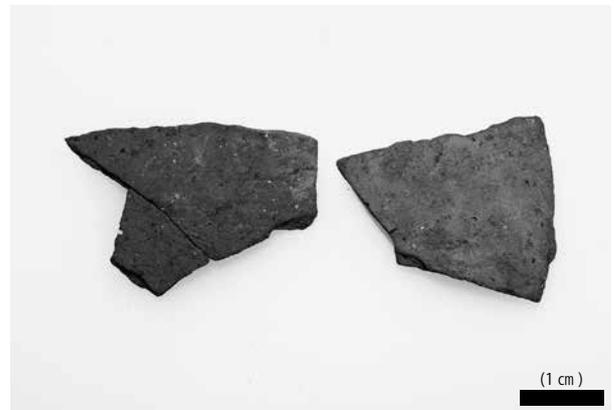
搬入013(MP-搬入-0093)内蔵礫



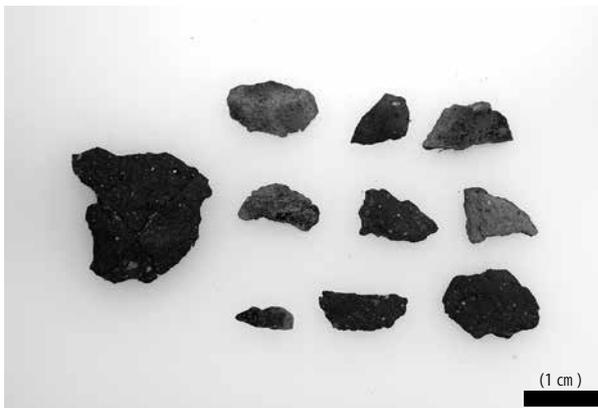
搬入025(MP-搬入-0025)残片



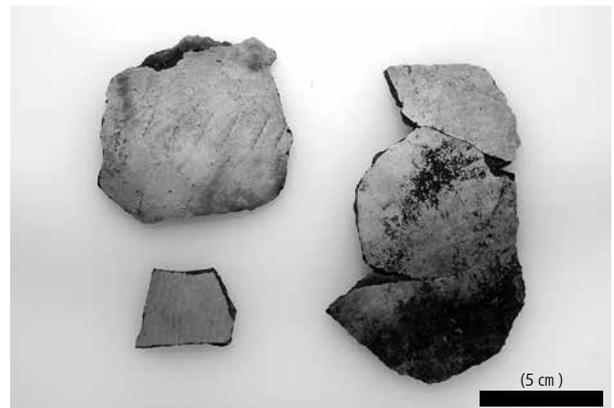
搬入032(MP-搬入-0061)残片



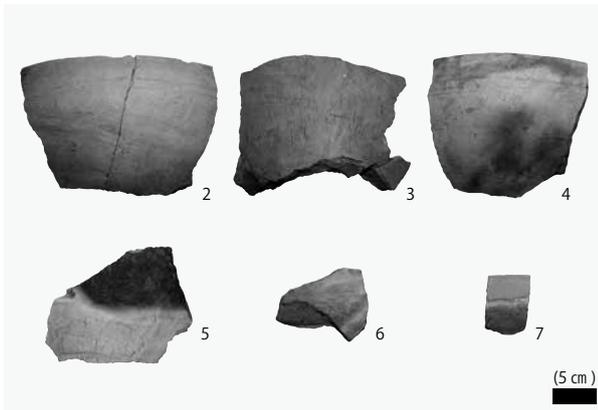
特殊072(MP-特殊-0217)残片



特殊074(MP-特殊-0212)残片



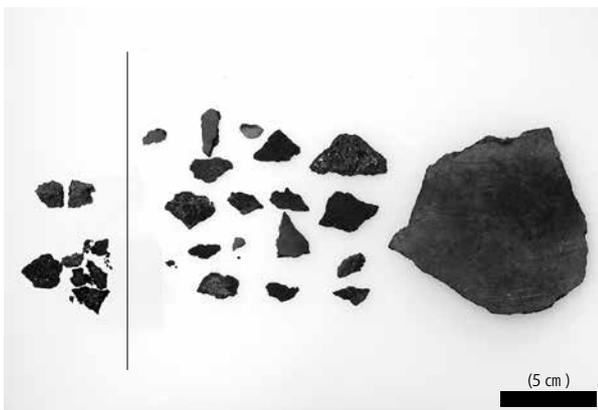
特殊091(MP-特殊-0042)残片



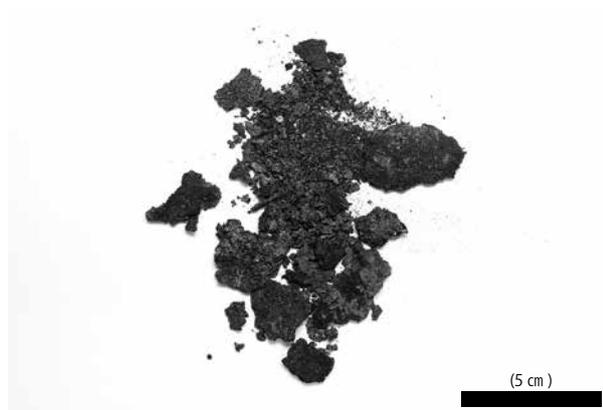
特殊098(MP-特殊-0018)残片



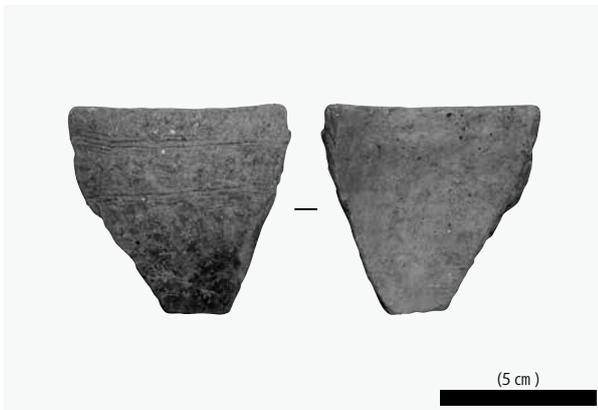
特殊101(MP-特殊-0080)樹皮残片



特殊105(MP-特殊-0043)内蔵炭化物残片(左)と土器残片(右)



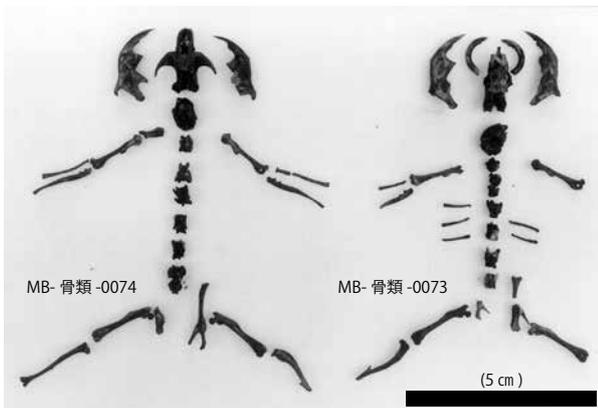
特殊106(MP-特殊-0130)内蔵炭化物残片



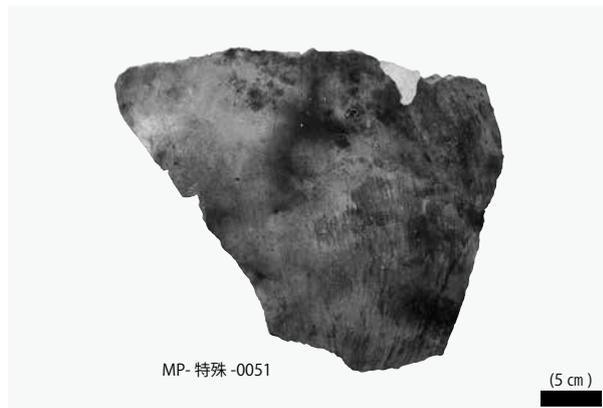
特殊109(MP-特殊-0193)残片



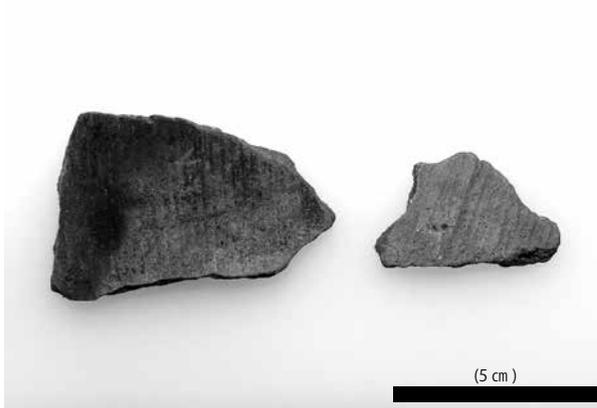
特殊110(MP-特殊-0071)内蔵卜骨



特殊111(MP-特殊-0045)内蔵ネズミ骨



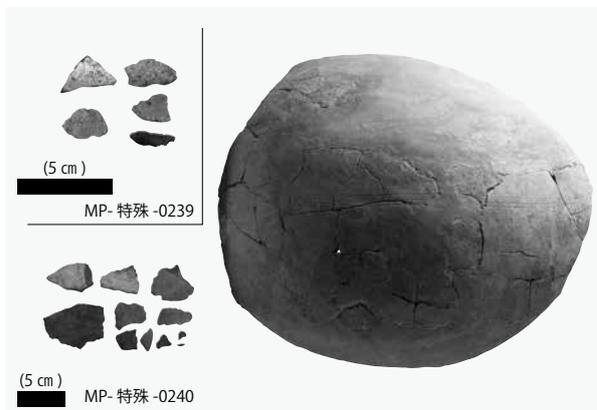
特殊113(MP-特殊-0050)附属土器残片



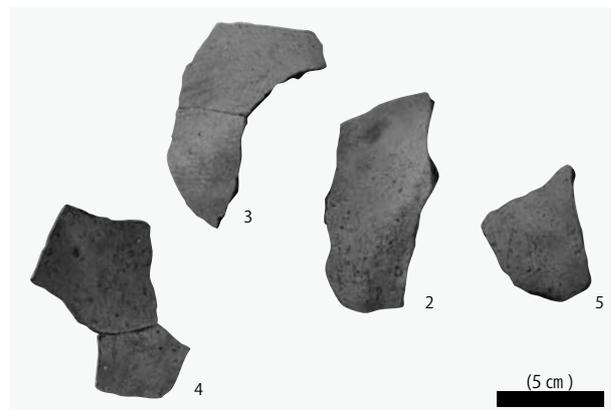
特殊 115(MP-特殊-0047)残片



特殊 116(MP-特殊-0054)残片



特殊 121(MP-特殊-0239)残片(左上)と甕棺蓋(壺胴部片)



特殊 127(MP-特殊-0219)残片



特殊 128(MP-特殊-0049)残片

弥生土器 一覧表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
弥生001	MP-縄文-0019	66	SR-201	第9層	灰白色砂	—	67	I-1	高(22.5)、幅(13.0)、 厚0.7		22
		66	SR-201	第9層	灰白色砂	—	74				
		66	SR-201	第9層	灰白色砂	—	63				
弥生002	MP-編年-0147	66	SR-201	第7層	—	土-701	58	I-1	口径12.8、高さ27.0、 胴径22.5		22
弥生003	MP-編年-0105	82	SK-219	第3層	—	土-301	301	I-1	高さ3.4、裾径12.1、 厚0.9		22
弥生004	MP-編年-0106	82	SK-219	第2層	—	土-216	280	I-1	口径14.4、高さ26.3、 胴径24.8		22
		82	SK-219	第2(下)層	—	土-252	284				
		82	SK-219	第2(下)層	植物層	—	277				
弥生005	MP-編年-0107	82	SK-219	第2(下)層	—	土-253	284	I-1	口径23.2、高さ25.0、 底径6.7		23
		82	SK-219	第1層	灰黒色粘質土	—	257				
		82	SK-219	第2(下)層	植物層	—	277				
弥生006	MP-編年-0008	19	SK-1103	第6層	黒灰粘	土-602	868	I-1	口径※15.1、高さ28.8、 胴径25.8		23
		19	SK-1103	第6層	黒灰粘	—	848				
弥生007	MP-編年-0095	19	SK-1103	第6層	黒灰粘	—	848	I-1	口径※18.7、高さ13.5、 底径6.7		23
		19	中世大溝Ⅱ	第3層	暗灰粘	—	164				
弥生008	MP-編年-0057	14	SK-202	—	灰黒粘	土-04	75	I-1	口径14.3、高さ28.1、 胴径22.4		23
弥生009	MP-編年-0006	14	SK-202	—	灰黒粘	—	74	I-1	口径※13.4、 高さ※11.2		24
弥生010	MP-編年-0036	45	SR-201	第3層	黒灰粘	土-301	28	I-1	口径11.1、高さ20.5、 胴径22.3		24
弥生011	MP-編年-0044	53	SX-201	—	灰黒粘	—	389	I-1	口径49.3、高さ74.8、 胴径63.4		24
弥生012	MP-編年-0160	53	SX-201	第1層	—	土-101	462	I-1	口径14.8、高さ30.8、 胴径29.3		24
弥生013	MP-編年-0029	37	土器群2201	—	—	—	872	I-1	口径24.0、高さ25.1、 底径7.6		25
弥生014	MP-編年-0007	16	SX-102	—	黒粘Ⅲ	土-02	224	I-1	口径※7.4、高さ10.2、 胴径9.6		25
弥生015	MP-編年-0155	37	SD-2202B	第8層	黒褐粘	その2	1027	I-1	口径6.1、高さ10.6、 胴径8.3		25
弥生016	MP-編年-0034	20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-1223	705	I-2	高さ1.2、裾径12.3		25
弥生017	MP-編年-0118	20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-2209	707	I-2	口径22.8、高さ35.9、 胴径※38.4、		26
		20	SK-215	第3層	炭化物層	—	709				
		20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-1247	705				
		20	SK-215	第4層	灰粘	—	713				
		20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-2231	707				
		20	廃土	—	—	—	704				
弥生018	MP-編年-0009	20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-214	699	I-2	摘み部径5.8、高さ8.5、 裾径※20.3		26
弥生019	MP-編年-0012	20	SK-215	第2層	灰黒粘	—	681	I-2	口径22.1、高さ24.7、 底径6.8		26
		20	SK-215	第2層	灰黒粘	—	675				
		20	SK-215	第2層	灰黒粘	—	647				
		20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-205	699				
		20	—	—	暗褐色土Ⅱ	—	641				
20	SK-215	Sec.第3層	暗茶褐色砂質土	—	695						
弥生020	MP-編年-0222	37	SD-2202	第3層	植物層	土-301	816	I-2	口径※13.9、高さ20.6、 胴径16.5		26
弥生021	MP-編年-0304	37	SD-2202	第3(下)層	—	土-1313	1064	I-2	高さ※16.8、胴径13.9、 底径6.1		27
弥生022	MP-編年-0199	84	SK-202	—	灰粘	—	354	I-2	口径12.2、高さ12.7、 底径6.3		27
弥生023	MP-編年-0294	37	SK-2204	第3層	植物層	—	804	I-2	口径15.4、高さ23.0、 胴径20.8		27
		37	SK-2204	第3層	植物層	その1	856				
		37	SK-2204	第3層	植物層	その2	856				
		37	SK-2204	第3層	植物層	その3	869				
37	SK-2204	第3層	植物層	その1	953						
弥生024	MP-編年-0075	16	SX-102	—	黒粘Ⅲ	土-03	224	I-2	口径18.0、高さ31.6、 胴径※26.0		27
弥生025	MP-編年-0223	16	SX-102	—	黒粘Ⅲ	土-04	224	I-2	口径23.4、高さ11.0		28
弥生026	MP-編年-0017	23	SK-153	第3層	灰粘	土-317	550	I-2	口径※19.0、高さ13.2、 底径6.2		28
		23	SK-153	第3層	灰粘	土-318	550				
		23	SK-152・ 153・154	第3(下)層	灰粘	—	309				
弥生027	MP-編年-0286	23	SK-154	第3層	灰粘	土-301	371	II-1	口径※24.2、高さ32.0、 胴径22.5		28
弥生028	MP-編年-0124	27	SD-201	第2層	灰色粘砂	土-201	73	II-1	口径20.8、高さ28.7、 胴径20.7		28

2. 遺物一覧表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
弥生029	MP-編年-0127	33	SK-208	第4層	植物層	—	1021	II-1	高さ※47.0、胴径36.0、 底径10.5		29
		33	SK-208	第1層	暗灰色粘質土	—	1020				
弥生030	MP-編年-0068	33	SK-208	西壁Sec.第4層	植物層	—	1120	II-1	口径24.0、高さ23.4、 底径7.2		29
		33	SK-208	第1層	暗灰色粘質土	—	150				
		33	SK-208	第1層	暗灰色粘質土	—	1020				
弥生031	MP-編年-0019	33	SK-208	第5層	灰褐粘	土-503	1072	II-1	口径23.8、高さ16.3、 底径6.8		29
		33	SK-208	第4-b層	灰粘	—	1051				
		33	SK-208	第5層	灰褐粘	—	1042				
弥生032	MP-編年-0144	82	SK-203	第2層	—	土-201	230	II-1	口径28.3、高さ29.7、 底径7.5		29
		82	SK-203	第2層	—	土-203	230				
		82	SK-203	第1層	灰黒色粘質土	—	219				
		82	SK-203	第2層	—	土-202	230				
		82	SK-203	第1層	—	土-106	220				
		82	SK-203	第1層	—	G-101	220				
弥生033	MP-編年-0224	82	SK-203	第2層	黒色灰層	—	231	II-1	口径38.5、高さ40.5、 底径8.6		30
		82	SK-203	第1層	—	土-119	220				
		82	SK-203	第2層	—	土-204	230				
		82	SK-203	第1層	—	土-120	220				
		82	SK-203	第1層	—	土-118	220				
		82	SK-203	第1層	—	土-117	220				
弥生034	MP-編年-0226	19	SD-1203	第3層	黒粘	土-301	440	II-2	高さ(32.6)、胴径24.3、 底径7.0		30
弥生035	MP-編年-0048	22	SK-1201	第2層	灰黒粘	土-201	300	II-2	高さ33.6、胴径22.5、 底径7.8		30
弥生036	MP-編年-0013	22	SK-1101	第3層	黒粘	土-302	366	II-3	高さ※35.0、胴径22.2、 底径7.5		30
弥生037	MP-編年-0104	22	SK-1101	第2(下)層	暗灰褐色粘質土	土-252	232	II-3	口径19.8、高さ※25.0、 胴径17.9		31
		22	SK-1101	第2(下)層	暗灰褐色粘質土	—	209				
		22	SK-1101	第2(下)層	暗灰褐色粘質土	—	244				
		22	SK-1101	第2(下)層	暗灰褐色粘質土	G-220	232				
弥生038	MP-編年-0130	22	SK-1101	第3層	黒粘	土-301	269	II-3	口径19.6、高さ9.5、 底径5.3		31
		22	SK-1101	第3層	黒粘	—	246				
弥生039	MP-編年-0087	74	SK-104	第3層	—	土-301	805	II-3	高さ28.0、胴径20.9、 底径6.6		31
弥生040	MP-編年-0058	29	SD-107	第1層	暗灰色微砂質土	土-101	22	II-3	口径18.8、高さ13.9、 裾径11.0		31
弥生041	MP-編年-0290	37	SK-2116	第4層	植物層	土-403	1091	II-3	摘み部径6.6、高さ14.1、 裾径32.3		32
		37	SK-2116	第4層	植物層	土-402	1091				
		37	SK-2116	第4層	植物層	W-403	1091				
弥生042	MP-編年-0103	33	SD-202A	第5層	黒粘	—	960	II-3	口径18.5、高さ15.6、 胴径19.5		32
弥生043	MP-編年-0227	20	SX-101	第6層	灰黒色砂質土	土-645	436	III-1	口径6.1、高さ26.1、 胴径17.2		32
弥生044	MP-編年-0050	20	SK-103	第3(下)層	黒粘	土-302	214	III-1	口径7.3、高さ20.4、 胴径18.1		32
弥生045	MP-編年-0072	13	SD-106D	第10-b層	黒粘III	—	425	III-1	口径25.2、高さ28.3、 胴径26.8		33
		13	SD-106C	第9-c層	黒粘II	—	419				
		13	SD-106D	第10-b層	黒粘III	—	426				
弥生046	MP-編年-0018	26	SK-1102	第5層	黒粘	土-502	392	III-1	口径14.4、高さ20.9、 胴径15.3		33
		26	SK-1102	第5層	黒粘	—	381				
弥生047	MP-編年-0230	22	SK-103	第4層	黒粘	土-401	291	III-1	口径22.0、高さ18.2、 底径9.6		33
弥生048	MP-編年-0231	23	SK-117	第2層	黒粘(炭灰混)	土-201	184	III-1	口径14.7、高さ9.8、 底径5.2		33
弥生049	MP-編年-0240	74	SK-113	第6層	—	土-601	315	III-2	口径14.1、高さ27.5、 胴径21.0		34
弥生050	MP-編年-0037	47	SD-2105	第5(下)層	灰褐色砂礫土 (植物層)	—	474	III-2	口径19.4、高さ14.7、 胴径20.0		34
弥生051	MP-編年-0236	76	SD-1117	第4層	—	土-407	381	III-3	口径8.6、高さ12.5、 胴径15.2		34
弥生052	MP-編年-0049	37	SK-2130	第8層	灰粘	土-801	911	III-3	口径10.9、高さ21.0、 胴径17.8		34
弥生053	MP-編年-0031	37	SK-2130	第8層	灰粘	土-803	911	III-3	口径16.8、高さ27.2、 胴径25.3		35
弥生054	MP-編年-0228	37	SK-2130	第8層	灰粘	土-802	911	III-3	高さ(43.1)、胴径32.4、 底径6.8		35
弥生055	MP-編年-0145	37	SK-2130	第11層	—	土-1103	957	III-3	口径14.2、高さ27.3、 胴径22.7		35
弥生056	MP-編年-0279	37	SK-2130	第10層	黒灰粘	土-1003	946	III-3	口径5.4、高さ12.4、 胴径10.7		35
弥生057	MP-編年-0296	37	SK-2130	第3層	灰黒粘	土-303	410	III-3	最大幅13.0、口径11.7、 高さ7.5、裾径4.7		36

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 次数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
弥生058	MP-編年-0033	37	SK-2130	第10層	黒灰粘	土-1001	946	Ⅲ-3	口径36.3、高28.0、 裾径20.5		36
		37	SK-2130	第11層	暗灰粘	その5	948				
弥生059	MP-編年-0108	82	SK-109	第2層	—	土-201	180	Ⅲ-3	口径10.8、高20.1、 底径18.4		36
弥生060	MP-編年-0128	33	SK-124	第4-b層	暗茶褐粘	土-403	680	Ⅲ-3	口径13.0、高9.6、 胴径14.0、底径4.3		36
		33	SK-124	第4-b層	暗茶褐粘	—	692				
弥生061	MP-編年-0061	69	SK-1137	第10層	—	土-1001	2139	Ⅲ-3	口径13.8、高26.9、 胴径21.0		37
弥生062	MP-編年-0060	69	SK-1137	第7層	—	土-702	2135	Ⅲ-3	口径13.1、高10.1、 裾径7.1		37
弥生063	MP-編年-0110	79	SK-101	第5層	—	土-501	182	Ⅲ-4	口径14.4、高27.2、 胴径21.6		37
弥生064	MP-編年-0014	22	SK-105	第4層	—	土-401	327	Ⅲ-4	口径8.2、高21.7、 胴径17.5		37
弥生065	MP-編年-0137	22	SK-105	第5層	灰白色粗砂	—	324	Ⅲ-4	口径10.9、高20.8、 胴径15.9		38
弥生066	MP-編年-0123	22	SK-105	第2層	黒粘	—	331	Ⅲ-4	口径28.4、高39.8、 胴径32.6		38
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-220	341				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-243	341				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-248	341				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-291	330				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-293	330				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-299	330				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-1202	330				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-1209	330				
弥生067	MP-編年-0016	22	SK-105	第2層	黒粘	土-1228	330	Ⅲ-4	最大幅26.5、口径19.4、 高21.3、裾径※15.0		38
		22	SK-105	第2層	黒粘	—	331				
		22	SK-105	第2層	黒粘	土-269	330				
弥生068	MP-編年-0066	37	SK-2104	第3層	黒粘(炭灰混)	—	66	Ⅲ-4	口径27.5、高19.4、 裾径13.9		38
		37	SK-2104	第1層	黒灰色粘質土	—	48				
		37	—	第1層	黒褐色土	—	5				
		37	—	第1層	黒褐色土	—	15				
		37	—	第1層	黒褐色土	—	6				
		37	SK-2104	第2層	黒色粘質土	—	65				
		37	SD-2005	—	—	—	8				
弥生069	MP-編年-0170	40	SD-106	第1層	暗灰褐色粘質土	土-101	484	Ⅲ-4	口径14.6、高12.3、 裾径10.0		39
弥生070	MP-編年-0234	48	SX-1102	—	—	—	85	Ⅳ-1	口径18.0、高34.5、 胴径29.1		39
弥生071	MP-編年-0233	48	SX-1102	—	—	—	85	Ⅳ-1	口径14.5、高27.8、 胴径21.5		39
弥生072	MP-編年-0025	33	SK-120	第2層	灰粘	土-252	460	Ⅳ-1	口径25.7、高11.4、 胴径26.4		39
弥生073	MP-編年-0237	51	SD-103	第2層	黒色粘質土	—	43	Ⅳ-1	口径24.6、高21.3、 裾径14.5		40
		51	SD-103	第1(下)層	黒褐色土	—	35				
		51	SD-103	第1層	黒褐色土	—	23				
弥生074	MP-編年-0293	37	SK-2120	第5層	黒粘	土-501	698	Ⅳ-1	口径8.7、高18.2、 胴径20.3		40
弥生075	MP-編年-0086	13	SK-107	第1層	黒粘	土-102	529	Ⅳ-1	口径23.0、高17.4、 裾径13.3		40
弥生076	MP-編年-0092	13	SK-107	第1層	黒粘	土-101	529	Ⅳ-1	口径25.2、高19.0、 裾径13.5		40
弥生077	MP-編年-0241	18	SR-3101	—	淡灰色粗砂	—	27	Ⅳ-2	口径18.2、高54.0、 胴径36.9		41
弥生078	MP-編年-0140	13	SD-102	南壁Sec.	粗砂	土-01	124	Ⅳ-2	口径9.0、高21.5、 胴径17.8		41
弥生079	MP-編年-0001	13	SD-102	—	植物層	土-25	114	Ⅳ-2	口径14.6、高22.0、 胴径17.4		41
弥生080	MP-編年-0005	13	SD-102	—	植物層	土-27	114	Ⅳ-2	口径※15.0、高25.9、 胴径19.0		41
弥生081	MP-編年-0056	13	SD-102	—	植物層	土-26	114	Ⅳ-2	口径14.1、高25.6、 胴径19.3		42
弥生082	MP-編年-0238	13	SD-102	—	植物層	土-28	114	Ⅳ-2	口径11.8、高さ19.9、 胴径15.4		42
弥生083	MP-編年-0256	37	SK-2103	第6層	灰粘	土-602	277	V-1	口径6.9、高さ12.8、 胴径10.3		42
弥生084	MP-編年-0088	47	SD-2101	第7(下)層	灰黒色砂質土	土-752	405	V-1	高さ3.0、胴径12.5		42
弥生085	MP-編年-0089	47	SD-2101	第7(下)層	灰黒色砂質土	土-757	405	V-1	口径12.7、高さ15.2、 胴径19.9		43
弥生086	MP-編年-0249	47	SD-2101	第8層	—	土-889	499	V-1	口径8.3、高さ25.4、 胴径13.8		43

2. 遺物一覧表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	№	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
弥生087	MP-編年-0250	47	SD-2101	第8層	—	土-888	499	V-1	口径10.4、高さ11.8、 胴径16.0		43
弥生088	MP-編年-0039	47	SD-2101	第7層	灰黒色砂質土	土-706	527	V-1	口径26.6、高さ20.5、 裾径15.0		43
		47	SD-2101	第8層	—	土-884	389				
弥生089	MP-編年-0040	47	SD-2101	第7(下)層	灰黒色砂質土	土-763	405	V-1	口径32.7、高さ26.1、 裾径14.0		44
		47	SD-2101	第8層	—	土-871	389				
弥生090	MP-編年-0090	47	SD-2101	第7(下)層	灰黒色砂質土	—	402	V-1	口径31.7、高さ※27.1、 裾径※17.7		44
弥生091	MP-編年-0038	47	SD-2101	第7(下)層	灰黒色砂質土	—	402	V-1	口径13.6、高さ15.1、 裾径11.6		44
弥生092	MP-編年-0042	47	SD-2101	第7(下)層	灰黒色砂質土	土-759	405	V-1	口径17.4、高さ18.2、 裾径14.0		44
弥生093	MP-編年-0085	75	SD-101B	第6層	—	土-610	237	V-1	口径27.9、高さ28.7、 裾径25.5		45
弥生094	MP-編年-0253	13	SD-105	—	中期黒粘	土-03	208	V-1	口径9.6、高さ11.3、 胴径10.3		45
弥生095	MP-編年-0071	13	SD-105	—	中期黒粘	土-01	208	V-1	口径8.6、高さ6.6、 底径3.7		45
弥生096	MP-編年-0257	40	SD-101	第7層	—	土-703	273	V-1	口径17.2、高さ14.8、 裾径10.0		45
弥生097	MP-編年-0259	49	SD-103	第1(下)層	—	土-20	119	V-1	最大幅31.0、口径29.9、 高さ23.3、裾径15.7		46
		49	SD-103	第1(下)層	—	土-19	119				
		49	SD-103	第2層	黒粘	—	124				
		49	SD-103	第2層	黒粘	土-211	162				
		49	SD-103	第2層	黒粘	土-214	162				
		49	SK-104	第1(下)層	黒色粘質土	—	111				
弥生098	MP-編年-0062	69	SD-1109	第6層	—	土-601	848	V-2	口径12.5、高さ21.5、 胴径28.3		46
弥生099	MP-編年-0300	37	SK-2122	第25層	黒粘	土-2501	1010	VI-1	口径13.5、高さ28.1、 胴径20.0		46
弥生100	MP-編年-0301	37	SK-2122	第13層	灰黒粘	土-1302	944	VI-1	口径12.6、高さ25.7、 胴径17.8		46
弥生101	MP-編年-0302	37	SK-2122	第11層	灰黒粘(植物混)	土-1101	945	VI-1	口径12.3、高さ24.4、 胴径18.0		47
弥生102	MP-編年-0303	37	SK-2122	第20層	灰黒粘(植物混)	土-2003	968	VI-1	口径9.4、高さ20.0、 胴径13.1		47
弥生103	MP-編年-0299	37	SK-2122	第4(下)層	黒灰粘	土-1427	468	VI-1	口径16.8、高さ13.1、 裾径6.2		47
		37	SK-2122	第5層	黒粘	土-506	496				
弥生104	MP-編年-0298	37	SK-2122	第6層	—	土-607	583	VI-1	口径18.1、高さ12.3、 裾径8.0		47
		37	SK-2122	第4層	黒灰粘	土-416	415				
弥生105	MP-編年-0297	37	SK-2122	第5層	黒粘	土-545	496	VI-1	口径17.1、高さ19.7、 胴径13.5		48
		37	SK-2122	第4(下)層	黒灰粘	土-1441	468				
弥生106	MP-編年-0094	76	SD-1106	北壁Sec.	—	土-02	477	VI-1	摘み部径1.9、高さ1.5、 裾径4.4		48
弥生107	MP-編年-0093	76	SD-1106	北壁Sec.	—	土-02	477	VI-1	口径4.2、高さ8.7、 胴径10.2		48
弥生108	MP-編年-0143	69	SD-1109	第6層	—	土-614	848	VI-1	口径16.7、高さ32.0、 胴径23.6		48
弥生109	MP-編年-0022	33	SK-125	第6層	黒粘	土-601	506	VI-2	口径9.3、高さ18.9、 胴径13.5		49
弥生110	MP-編年-0100	33	SK-125	第6層	黒粘	土-602	506	VI-2	口径17.0、高さ26.4、 胴径20.0		49
弥生111	MP-編年-0263	33	SK-125	第3層	黒粘	土-348	483	VI-2	口径14.7、高さ26.3、 胴径18.3		49
弥生112	MP-編年-0152	33	SK-125	第3(下)層	黒粘	土-361	496	VI-2	口径12.8、高さ9.7、 底径4.0		49
弥生113	MP-編年-0023	33	SK-125	第3層	黒粘	土-305	412	VI-2	口径13.7、高さ10.2、 底径3.3		50
弥生114	MP-編年-0027	33	SK-125	第3層	黒粘	土-337	420	VI-2	口径21.4、高さ15.0、 裾径12.5		50
弥生115	MP-編年-0070	33	SK-125	第3層	黒粘	土-334	420	VI-2	口径19.5、高さ13.0、 裾径※19.5		50
弥生116	MP-編年-0101	33	SK-114	第5層	黒灰粘	土-505	476	VI-3	口径12.6、高23.2、 胴径22.2		50
弥生117	MP-編年-0186	14	SK-106	下層	黒粘	土-g	37	VI-3	口径12.6、高20.9、 胴径18.9		51
弥生118	MP-編年-0187	14	SK-106	下層	黒粘	土-24	38	VI-3	口径9.5、高17.5、 胴径11.0		51
弥生119	MP-編年-0175	14	SK-106	下層	黒粘	土-c	37	VI-3	口径17.1、高12.4、 裾径11.3		51
弥生120	MP-編年-0185	14	SK-106	中層	黒粘	土-03	49	VI-3	高(14.8)、胴径15.9、 底径4.2		51
弥生121	MP-編年-0131	24	SD-107	第3(下)層	黒粘	土-370	182	VI-3	口径24.0、高17.4、 裾径15.2		52
弥生122	MP-編年-0074	14	SK-101	下層	黒粘	土-27	10	VI-3	口径14.0、高22.4、 胴径18.0		52

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
弥生123	MP-編年-0003	13	SD-104	上層	黒粘	土-77	135	VI-3	口径26.2、高19.4、 胴径24.7、底径5.0		52
		13	SD-104	—	黒粘	—	131				
		13	SD-104	後期包含層	—	—	157				
		13	SD-104	上層	黒粘	—	133				
		13	SD-104	上層	黒粘	土-83	135				
		13	SD-104	上層	黒粘	—	132				
弥生124	MP-編年-0004	13	SD-104	上層	黒粘	土-146	135	VI-3	高22.3、胴径18.3、 底径3.6		52
		13	SD-104	上層	黒粘	土-145	135				
		13	SD-104	上層	黒粘	土-144	135				
		13	SD-104	上層	黒粘	土-147	135				
		13	SD-104	上層	黒粘	—	132				
		13	SD-104	上層	黒粘	—	133				
		13	SD-104	—	黒粘	—	136				
13	SD-104	後期包含層	—	—	157						
弥生125	MP-編年-0268	40	SK-101	第11層	—	土-11008	345	庄内	高30.9、胴径27.7、 底径4.8		53
弥生126	MP-編年-0098	40	SK-101	第12層	黒灰色シルト	土-12001	357	庄内	口径11.0、高21.7、 胴径20.1		53
弥生127	MP-編年-0278	38	SK-101	第4層	—	土-401	115	布留1	高27.0、胴径22.4		53
弥生128	MP-編年-0195	48	SK-1104	第4層	—	土-401	241	布留1	口径16.0、高30.5、 胴径24.8		53
弥生129	MP-編年-0096	48	SK-1101	第3層	—	土-301	272	布留1	口径16.0、高22.7、 胴径19.3		54
弥生130	MP-編年-0129	26	SD-1101	第2層	黒粘	土-204	168	布留1	口径12.1、高7.3、 胴径7.4		54
弥生131	MP-編年-0194	38	SK-101	第4層	—	土-402	115	布留1	口径10.5、高7.4、 胴径10.0		54
		47	SD-2101	第3層	植物層	土-307	94	布留0	口径10.0、高9.4、 裾径11.3		54
47	SD-2101	第3層	植物層	土-308	94						
弥生132	MP-編年-0275	47	SD-2101	第3層	植物層	土-307	94	布留0	口径10.0、高9.4、 裾径11.3		54
弥生133	MP-編年-0182	47	SD-2101	第4層	—	土-417	162	布留0	口径22.1、高15.9、 裾径13.4		55
弥生134	MP-編年-0179	40	SD-103	第2層	黒褐色粘質土	—	60	布留1	口径17.5、高14.6、 裾径11.9		55
弥生135	MP-編年-0097	23	SK-124	第2(下)層	黒粘	土-204	332	布留1	口径12.1、高19.4、 胴径17.3		55
弥生136	MP-編年-0141	26	SK-2106	第3層	黒粘	土-303	286	布留1	口径12.7、高19.8、 胴径19.7		55

搬入土器 一覧表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	搬入元 /備考	掲載 ページ
搬入001	MP-搬入-0075	20	SK-215	—	—	Sec.土-13	718	I-2	口径25.2、高25.8、 胴径25.4、底径8.5	瀬戸内	56
		20	SK-215	Sec.第27層	—	—	719				
		20	SK-215	—	—	—	750				
		20	SK-215	—	—	Sec.土-14	718				
搬入002	MP-搬入-0104	20	SK-206	第1(下)層	暗褐色土	—	418	I-2	口径23.8、高※26.3、 胴径22.4	瀬戸内	56
		20	SD-201	第2層	黒褐色粘質土	—	465				
		20	SD-201	第4層	黄灰色砂質土	—	492				
		20	SD-201	西壁Sec. 第62層	—	—	761				
		20	SK-206	—	暗褐色土	—	443				
		20	SK-206	第1(下)層	暗褐色土	土-1001	419				
20	SK-220	第1層	暗茶褐色土	—	637						
搬入003	MP-搬入-0052	53	SK-201	第2層	灰褐粘	その2	395	I?	長(4.6)、幅(6.0)、厚0.8	中部	56
搬入004	MP-搬入-0080	53	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	214	I~III	長(3.0)、幅(3.0)、厚0.7	中部	57
搬入005	MP-搬入-0081	53	SR-101A	第4(上)層	灰黒色粘砂	—	292	I~III	長(2.8)、幅(3.3)、厚0.7	中部	57
搬入006	MP-搬入-0017	34	SD-102C	第7層	青灰色シルト	—	94	III-3・ III-4	長(5.8)、幅(12.8)、 厚0.6	筑前	57
搬入007	MP-搬入-0008	19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4001	666	IV-2	口径※35.5、 高さ※83.1、 胴径※55.8	吉備 他未接合片4点 あり	58
		19	SK-102	第3層	黒褐色粘質土	土-319	296				
		19	SK-102	第2層	黒褐色土	土-208	195				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4084	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4267	682				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4268	682				
		19	SD-204	第2層	暗灰褐色砂質土	—	572				
		19	—	—	黄褐色土II	—	97				
		19	SK-101	第7(下)層	黒粘	—	553				
19	SK-101	第1層	黄褐色土	—	124						

2. 遺物一覽表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 次数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	搬入元 /備考	掲載 ページ
搬入007	MP-搬入-0008	19	SD-102	第3(下)層	黒粘	土-318	516	IV-2	口径※35.5、 高さ※83.1、 胴径※55.8	吉備	58
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4002	666				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4071	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4072	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4074	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4086	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4144	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	—	631				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4171	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4175	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4179	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4181	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4184	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4187	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4188	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4189	673				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4266	682				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4274	682				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4275	682				
		19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4277	682				
19	SD-204	第4(下)層	黒粘	その2	1222						
19	SD-204	第3層	暗黄褐色砂質土	—	576						
19	SD-204	第2層	暗灰褐色砂質土	—	567						
19	SD-204	第2層	暗灰褐色砂質土	—	648						
搬入008	MP-搬入-0050	51	SK-104	第5層	—	土-546	100	V-1	口径39.6、高73.4、 裾径※29.1	吉備	58
搬入009	MP-搬入-0067	65	SD-123	第1層	黒褐色土	G-104	860	IV-2	口径15.1、高(26.1)、 胴径※32.6	吉備	59
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	G-115	870				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	G-103	860				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	G-109	860				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	土-122	860				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	土-193	870				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	土-167	860				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	G-110	860				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	—	869				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	—	879				
		65	SD-123	第1層	黒褐色土	—	856				
65	SD-123	第1層	黒褐色土	土-111	860						
搬入010	MP-搬入-0037	40	SD-102B	第6層	茶褐色土	—	395	IV	口径※11.0、高19.1、 胴径16.6	吉備	59
搬入011	MP-搬入-0004	19	SK-105	第2層	黒褐色砂	土-218	430	Ⅲ-2	高(11.1)、幅(15.4)、 厚1.9	摂津	59
搬入012	MP-搬入-0036	37	SK-2106	第2層	—	土-201	87	Ⅲ-4	口径9.4、高23.5、 胴径19.9	摂津	60
搬入013	MP-搬入-0093	76	SK-1107	第2層	—	土-210	275	Ⅲ-3	高10.4、胴径9.6、 底径3.2	生駒山西麓	60
搬入014	MP-搬入-0057	37	SK-2130	第13層	—	土-1301	961	Ⅲ-3	口径8.9、高20.0、 胴径17.4	生駒山西麓	60
搬入015	MP-搬入-0058	37	SK-2130	第13層	—	土-1302	961	Ⅲ-3	高(13.1)、胴径11.9、 底径4.0	生駒山西麓	61
搬入016	MP-搬入-0056	37	SK-2106	第2層	—	土-202	87	Ⅲ-4	高※21.2、高(16.8)、 胴径14.4	生駒山西麓	61
搬入017	MP-搬入-0105	37	SK-2114	第4層	黒粘	土-426	352	Ⅲ-2	口径14.3、高※21.3、 胴径15.8	生駒山西麓	61
		37	SK-2114	第4層	黒粘	土-427	352				
		37	SK-2114	アゼSec. 第11層	灰黒粘	—	340				
搬入018	MP-搬入-0074	44	SD-103	第3層	灰黒粘	土-316	201	Ⅲ-4	口径16.0、高27.3、 胴径20.6	近江	62
搬入019	MP-搬入-0078	98	SX-201	第1層	灰褐粘(植物混)	—	551	Ⅱ-1	口径※27.5、高※27.2、 胴径※20.7	伊勢湾岸	62
搬入020	MP-搬入-0013	22	中世大溝	—	黒灰色砂質土	—	178	Ⅱ-2	口径8.6、高(14.2)、 胴径※20.2	伊勢湾岸	62
搬入021	MP-搬入-0023	23	SK-123	第2層	暗黄褐色土	—	360	Ⅱ-2	口径15.0、高※7.6、 胴径20.6	伊勢湾岸	63
		23	SK-123	第4層	炭灰層	土-404	340				
		23	SK-123	第1(上)層	暗黄褐色土	—	432				
搬入022	MP-搬入-0073	86	SD-5201	第5層	—	土-501	132	Ⅱ-2	高(19.6)、胴径21.0	伊勢湾岸	63
搬入023	MP-搬入-0095	37	SK-2116	第4層	植物層	土-405	1091	Ⅲ-1	口径(13.0)、高27.5、 胴径20.2	伊勢湾岸	63

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 次数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	搬入元 /備考	掲載 ページ	
搬入024	MP-搬入-0064	23	SD-103	第2層	灰黒粘	土-235	178	II-3	高※25.9、胴径※20.8、 底径4.8	伊勢湾岸	64	
		23	SD-103	第1層	黒褐色土	—	173					
		23	SD-103	第2層	灰黒粘	—	176					
		23	—	—	黒色粘質土	—	10					
		23	—	—	黒色粘質土	—	9					
		23	—	—	黒色粘質土	—	8					
搬入025	MP-搬入-0025-1	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226	II-3	口径8.3、高(12.3)、 頸部幅11.7 長(8.4)、幅(15.3)、 厚0.6 長(5.8)、幅(16.3) 長(6.5)、幅(6.2) 長(6.0)、幅(6.1) 長(3.8)、幅(6.0) 長(3.6)、幅(6.3) 長(3.8)、幅(2.8) 長(3.3)、幅(3.6) 長(1.8)、幅(3.9)	伊勢湾岸	64	
	MP-搬入-0025-2	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226					
	MP-搬入-0025-3	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226					
		23	SK-151	第3層	灰黒粘	—	240					
			23	SK-151・ 152	第1層	暗黄灰色土	—					215
	MP-搬入-0025-4	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226					
	MP-搬入-0025-5	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226					
	MP-搬入-0025-6	23	SK-152・ 153・154	第3層	灰粘	—	308					
	MP-搬入-0025-7	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226					
	MP-搬入-0025-8	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226					
MP-搬入-0025-9	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226						
MP-搬入-0025-10	23	SK-151	第2層	灰粘	—	226						
搬入026	MP-搬入-0066	88	SK-2104	第1層	—	土-101	38	II-3	高(26.8)、胴径22.4	伊勢湾岸	64	
搬入027	MP-搬入-0003	15	SD-01	下層	黒粘	土-01	11	III-3	高※25.1、胴径19.0	伊勢湾岸	65	
搬入028	MP-搬入-0068	19	SK-105	第2層	黒褐色砂	土-213	430	III-3	高(14.3)、胴径17.7、 底径3.3	伊勢湾岸	65	
		19	—	—	黒色土III	—	314					
		19	—	—	黒色土III	—	313					
		19	—	—	黒色土IV	—	319					
		19	SK-105	第4層	黒粘	—	428					
		19	SK-105	第2層	黒褐色砂	土-213	430					
		19	SK-105	第2層	黒褐色砂	土-208	430					
搬入029	MP-搬入-0048	50	SD-101B	第3層	黒褐色粘土	土-301	234	II-3	高(20.3)、胴径(20.7)	天竜川流域	65	
		50	SD-101B	第4層	灰褐色粘土	—	238					
		50	SD-101B	第4層	—	土-401	241					
搬入030	MP-搬入-0077	51	SK-104	第4層	—	土-403	78	V-1	高(22.8)、胴径19.0、 底径9.8	瀬戸内	66	
		51	SK-104	北壁Sec.	—	土-01	139					
		51	SK-104	第4層	灰黒色砂質土	—	79					
		51	SK-104	第3層	黒粘	—	69					
搬入031	MP-搬入-0055	19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4144	673	III-3	口径10.2、高※12.5、 高(10.3)、胴径13.6	生駒山西麓	66	
搬入032	MP-搬入-0061	77	SD-4108	第2(下)層	—	土-254	228	III-3	口径18.8、高(14.8)、 厚1.0	紀伊	66	
		77	SD-4108	第2(下)層	灰黒色粘砂	—	232					
搬入033	MP-搬入-0091	34	SD-102	第1層	黒褐色粘質土	その1	8	VI-4	高16.1、胴径16.4、 底径3.3	奈良盆地東南部	67	
搬入034	MP-搬入-0029	34	SD-102	第1(下)層	黒褐色粘質土	—	44	VI-4	口径12.7、高19.3、 胴径15.9	奈良盆地東南部	67	
搬入035	MP-搬入-0034	34	SD-102	第1層	黒褐色粘質土	その1	4	VI-4	口径15.0、高18.0、 胴径17.4	奈良盆地東南部	67	
搬入036	MP-搬入-0092	34	SD-102	第3層	灰粘	—	56	VI-4	口径15.7、高18.3、 胴径17.0	奈良盆地東南部	68	
		34	SD-102	第3層	灰粘	—	52					
		34	SD-102	第1層	黒褐色粘質土	その3	26					
		34	—	—	—	—	—					
搬入037	MP-搬入-0035	34	SD-102	第1(下)層	黒褐色粘質土	その3	40	VI-4	口径16.7、高24.3、 胴径22.1	奈良盆地東南部	68	
		34	SD-102	第1(下)層	黒褐色粘質土	その1	38					
搬入038	MP-搬入-0033	34	SD-102	第1層	黒褐色粘質土	その1	4	VI-4	口径11.3、高8.1、 底径4.6	奈良盆地東南部	68	
搬入039	MP-搬入-0031	34	SD-102	第1(下)層	黒褐色粘質土	—	43	VI-4	口径20.8、高18.3、 底径14.2	奈良盆地東南部	69	
搬入040	MP-搬入-0018	40	SD-101	中央Sec. 第5層	灰黒粘	中央Sec. 土-301	475	VI-4	口径21.6、高16.2、 裾径13.5	奈良盆地東南部	69	
搬入041	MP-搬入-0030	34	SD-103	第1層	黒色粘質土	—	65	VI-4	高17.3、胴径15.2、 底径3.6	奈良盆地東南部	69	
搬入042	MP-搬入-0076	14	SK-106	下層	黒粘	土-22	38	VI-3	口径12.8、高24.9、 胴径19.2	近江	70	
搬入043	MP-搬入-0002	14	SK-106	下層	黒粘	土-15	38	VI-3	口径13.7、高22.2、 胴径17.4	近江	70	
搬入044	MP-搬入-0001	14	SK-106	中層	黒粘	土-29	49	VI-3	口径13.0、高11.1、 胴径12.6	近江	70	
搬入045	MP-搬入-0027	24	SD-107	第3(下)層	黒粘	土-369	182	VI-3	口径15.0、高21.5、 胴径17.2	近江	71	
搬入046	MP-搬入-0022	23	SD-1101	第1層	暗灰黄色砂質土	土-115	368	VI-3	口径17.0、高12.8、 胴径18.3	近江	71	

2. 遺物一覽表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	№	様式/ 時期	法量	搬入元 /備考	掲載 ページ
搬入047	MP-搬入-0094	91	SD-101B	第6(下)層	—	土-632	298	VI-3	口径※18.3、高30.4、 胴径※25.3	近江	71
		91	SD-101B	第6(下)層	黒灰色粘砂	—	235				
搬入048	MP-搬入-0264	33	SK-114	第5層	—	土-501	476	VI-3	口径14.4、高25.6、 胴径23.5	伊勢湾岸	72
搬入049	MP-搬入-0106-1	69	SD-1109	第5層	—	G-526	313	VI-3	高(15.4)、裾径14.2	伊勢湾岸	72
		69	SD-1109	第5層	—	G-525	313				
		69	SD-1109	第5(下)層	—	土-6566	548				
		69	SD-1109	第5(下)層	黒色粘砂	—	600				
		69	SD-1109	第5(下)層	黒色粘砂	—	374				
	MP-搬入-0106-2	69	SD-1109	第5層	黒色粘質土 (砂混)	—	361				
搬入050	MP-搬入-0086	38	SK-101	第4層	—	土-406	115	布留1	口径13.3、高20.6、 胴径18.7	山陰地方	72
搬入051	MP-搬入-0096	90	SD-101	第3層	—	土-351	45	庄内	口径11.6、高18.5、 胴径17.2	吉備	73
		90	SD-101	第3層	暗灰粘	—	37				
搬入052	MP-搬入-0087	48	SK-1104	第4層	—	土-403	241	布留1	口径12.6、高23.2、 胴径20.3	東阿波	73
搬入053	MP-搬入-0065	79	SK-109	第3層	—	土-301	261	庄内	口径9.0、高19.0、 胴径17.7	伊勢湾岸	73

特殊土器 一覽表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	№	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
特殊001	MP-特殊-0152	16	SD-105	—	黒色砂質土	土-13	172	I-1	高7.6、胴径7.2、 底径3.8		74
特殊002	MP-特殊-0014	53	SR-101A	第5層	黒褐色粘土	—	344	I-2	高(4.4)、胴径4.3、 底径2.5		74
特殊003	MP-特殊-0180	33	SD-110	第3層	黒粘	—	343	II-2	口径4.6、高3.3、 胴径5.6		74
特殊004	MP-特殊-0177	98	—	—	暗黄灰色粘質土	—	500	III-1	口径4.5、高3.9、 胴径4.8		75
特殊005	MP-特殊-0164	20	SX-101	第6層	灰黒色砂質土	土-643	429	III-1	口径3.3、高3.0、 底径2.5		75
特殊006	MP-特殊-0008	23	SK-137	第1層	—	—	540	III	高(5.4)、胴径5.0、 底径2.0		75
特殊007	MP-特殊-0172	29	SD-110	第2層	植物層	—	31	III	口径3.5、高5.0、 胴径6.8		76
特殊008	MP-特殊-0066	72	SD-107	第3層	灰黒粘	—	239	III・IV	口径2.6、高2.7、 胴径4.5		76
特殊009	MP-特殊-0161	19	SD-202	第3層	暗黒粘	—	418	III-2・3	口径1.7、高3.7、 胴径5.0		76
特殊010	MP-特殊-0205	34	SD-102C	第8層	黒粘	—	93	III	口径1.9、高5.2、 胴径5.2		77
特殊011	MP-特殊-0001	13	SD-106C	第6層	砂質土	—	347	III	口径4.5、高5.9、 底径1.8		77
特殊012	MP-特殊-0211	37	SK-2130	第7層	植物層	土-704	806	III-3	口径6.6、高(7.7)、 底径5.2		77
特殊013	MP-特殊-0210	37	SK-2130	第4層	灰粘	土-1418	716	III-3	口径2.9、高4.5、 胴径4.2		78
特殊014	MP-特殊-0154	19	SK-113	第4層	灰黒色粘質土	土-401	332	III-3	口径※8.5、高4.3、 底径※6.0		78
特殊015	MP-特殊-0171	22	SK-102	第1層	黒色土	—	128	III-4	高2.1、裾径4.5		78
特殊016	MP-特殊-0157	84	SD-101S	第3層	黒粘(べース混)	—	177	III?	口径3.1、高7.4、 胴径5.0		79
特殊017	MP-特殊-0160	19	SD-204	第8層	黒灰色砂質土	—	853	IV-1	口径1.7、高4.7、 胴径2.9		79
特殊018	MP-特殊-0065	16	SD-101S	—	黒粘	土-04	76	IV-1	口径4.7、高(6.1)、 胴径6.2		79
特殊019	MP-特殊-0175	89	SK-1112	第5層	灰粘	—	407	IV-1	口径2.7、高5.5、 胴径3.9		80
特殊020	MP-特殊-0155	22	SK-101	第2(下)層	黒粘	土-242	213	IV-1	口径5.3、高9.1、 胴径7.0		80
特殊021	MP-特殊-0156	22	SK-101	第2(下)層	黒粘	土-243	213	IV-1	口径5.0、高(8.0)、 胴径5.8		80
特殊022	MP-特殊-0168	22	SK-101	第5層	灰黒色粘砂	土-501	233	IV-1	口径3.4、高3.4、 裾径1.8		81
特殊023	MP-特殊-0185	99	SK-6101	—	—	—	89	IV-2	口径3.3、高5.7、 胴径5.3		81
特殊024	MP-特殊-0204	80	SD-101	第4層	—	土-402	186	IV	口径2.8、高4.4、 胴径3.7		81
特殊025	MP-特殊-0096	89	SD-1114B	第8層	暗灰粘(ハード)	—	533	IV?	口径5.8、高6.8、 裾径2.1		82
特殊026	MP-特殊-0174	91	SD-103	第2-b層	緑灰粘	—	75	中期?	高1.0、裾径3.9		82
特殊027	MP-特殊-0181	48	—	—	—	—	121	中期?	高1.6、裾径3.5		82

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
特殊028	MP-特殊-0020	69	SD-1109	第6層	植物層	—	761	Ⅳ・Ⅴ-1	台部径5.3、高5.0、 裾径5.3		83
特殊029	MP-特殊-0162	19	SK-102	第3層	黒褐色粘質土	土-302	296	V-1	口径※3.0、高5.5、 胴径5.0		83
特殊030	MP-特殊-0165	19	SD-204	第4(下)層	黒粘	土-4004	666	V-1	口径2.0、高2.9、 胴径3.3		83
特殊031	MP-特殊-0068	51	SK-104	第8層	—	土-801	133	V-1	口径1.3、高4.5、 胴径3.3		84
特殊032	MP-特殊-0095	84	SK-101	第3層	—	土-301	356	V-1	口径2.9、高4.1、 胴径5.4		84
特殊033	MP-特殊-0200	61	SD-102B	第3層	黒褐色粘砂	—	270	V-1	口径2.8、高3.4、 胴径4.6		84
特殊034	MP-特殊-0176	83	SK-1103	第6層	黒色粘砂	—	186	V-1	高1.9、裾径4.4		85
特殊035	MP-特殊-0201	61	SD-102B	第5層	灰黒粘	—	603	V-1	口径5.2、高4.5、 底径2.9		85
特殊036	MP-特殊-0067	76	SD-1111	第4層	—	土-414	245	V-1	口径6.9、高6.4、 底径4.5		85
特殊037	MP-特殊-0203	76	SK-1108	第1(下)層	—	土-151	379	V-1	口径※13.6、高9.6、 裾径※7.0		86
特殊038	MP-特殊-0011	33	—	第Ⅳ層	黒褐色粘質土	—	381	V-1	口径8.6、高6.3、 裾径4.3		86
特殊039	MP-特殊-0010	33	SD-109	第6層	黒灰粘	土-601	373	V	口径4.5、高6.4、 胴径8.8		86
特殊040	MP-特殊-0202	69	SD-1104	第2(下)層	暗灰色粘質土	—	714	V?	高(5.5)、胴径5.5、 底径2.5		87
特殊041	MP-特殊-0007	24	SD-201	第4-b層	暗黄褐色砂質土	—	205	V	口径4.3、高8.9、 胴径6.8		87
特殊042	MP-特殊-0025	69	SD-1109	第5(下)層	—	土-7541	721	V-2?	口径4.8、高8.2、 胴径6.3		87
特殊043	MP-特殊-0158	33	SD-109	第5(下)層	黒粘	土-5429	341	V-2・ Ⅵ-1	高(6.2)、胴径5.3、 底径2.8		88
特殊044	MP-特殊-0012	33	SD-109	第4層	黒粘	土-405	238	V-2・ Ⅵ-1	口径7.6、高7.2、 底径3.8		88
特殊045	MP-特殊-0024	69	SD-1109	第5(下)層	—	土-6557	548	V-2・ Ⅵ-1	口径5.1、高3.4、 裾径2.8		88
特殊046	MP-特殊-0009	33	SD-109	第4層	—	土-403	238	V-2・ Ⅵ-1	口径7.8、高5.3、 裾径3.9		89
特殊047	MP-特殊-0209	37	SK-2122	第5層	黒粘	土-521	496	Ⅵ-1	高3.4、裾径6.0		89
特殊048	MP-特殊-0207	37	SK-2122	第5層	黒粘	土-509	496	Ⅵ-1	高1.2、裾径3.8		89
特殊049	MP-特殊-0208	37	SK-2122	第5層	黒粘	土-511	496	Ⅵ-1	口径3.6、高6.2、 胴径6.4		90
特殊050	MP-特殊-0206	37	SK-2122	第5(下)層	黒粘	土-1524	543	Ⅵ-1	口径7.3、高5.0、 底径2.5		90
特殊051	MP-特殊-0029	69	SD-1109	第5層	—	土-2591	313	Ⅵ-2	口径5.2、高5.7、 底径2.3		90
特殊052	MP-特殊-0023	69	SD-1109	第5(下)層	—	土-6522	548	Ⅵ-2	口径7.0、高3.4、 底径2.6		91
特殊053	MP-特殊-0173	91	SK-107	第5層	黒粘(植物混)	—	876	Ⅵ-3	口径(2.8)、高2.8、 胴径3.2		91
特殊054	MP-特殊-0005	14	SK-106	中層	黒粘	土-37	49	Ⅵ-3	口径6.6、高10.5、 胴径7.4		91
特殊055	MP-特殊-0004	14	SK-106	中層	黒粘	土-40	49	Ⅵ-3	口径8.3、高4.4、 底径3.9		92
特殊056	MP-特殊-0186	74	SK-119	第3層	—	土-328	662	Ⅵ-3	口径5.4、高8.8、 胴径8.1		92
特殊057	MP-特殊-0169	24	SD-107	第2層	黒灰粘	土-248	121	Ⅵ-3	口径4.2、高4.5、 裾径2.9		92
特殊058	MP-特殊-0098	63	SD-103A	第1(下)層	黒褐色粘質土	その1	191	Ⅵ-3	口径7.7、高6.7、 裾径6.5		93
特殊059	MP-特殊-0094	79	SK-105	第6層	暗灰色粘砂	—	234	Ⅵ-4	高(5.0)、胴径6.0、 底径1.8		93
特殊060	MP-特殊-0178	93	SK-2111	第4層	黒粘	その1	230	Ⅵ-4	口径4.2、高3.7、 底径1.8		93
特殊061	MP-特殊-0214	77	SX-3101	第1層	黒色粘質土	—	37	Ⅲ	長(5.5)、幅(2.1)、 高(3.4)		94
特殊062	MP-特殊-0215	33	SD-127	第2(下)層	灰黒粘	—	157	Ⅱ・Ⅲ	長(9.2)、幅(5.6)、 高(2.9)		94
特殊063	MP-特殊-0106	13	SD-102	—	砂層	土-03	72	V	坯径18.5×15.3、 高17.8		94
		13	SD-102	—	砂層	土-13	72				
		13	SD-102	—	砂層	土-15	72				
		13	SD-102	—	砂層	土-16	72				
		13	SD-102	—	砂層	土-20	72				
		13	SD-102	—	砂層	土-21	72				
		13	SD-102	—	砂層	土-22	72				
13	SD-102	—	砂層	土-23	72						
特殊064	MP-特殊-0003	13	SD-106D	第10-b層	黒粘Ⅲ	—	426	Ⅲ-1	高9.4、幅14.3×14.5、 底径9.1×9.5		95

2. 遺物一覽表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
特殊065	MP-特殊-0197	23	SD-151	第1層	黒灰粘	—	66	Ⅲ-2	口径※18.0×13.5、 高6.0		95
特殊066	MP-特殊-0196	19	SD-204	第5層	灰黒色粗砂	G-504	749	Ⅳ-2	口径※16.6×15.9、 高※11.3、底径5.5		96
特殊067	MP-特殊-0194	19	SD-203	第1層	黒褐色土	—	369	Ⅱ-2	長(10.6)、幅(6.1)、 高(4.2)		96
特殊068	MP-特殊-0002	13	SD-106C	第6層	砂質土	土-669	346	Ⅲ-3・4	高8.0、幅7.5、 底径3.3		97
特殊069	MP-特殊-0149	19	SD-204	第8層	黒灰色砂質土	—	720	Ⅳ-1	口径7.7、高6.6		97
		19	SD-204	第3(下)層	灰黒粘	—	688				
特殊070	MP-特殊-0216	98	SK-128	第3層	黒色粘質土 (灰混)	—	425	Ⅳ-1	長(19.2)、幅(13.1)、 高(5.4)		98
		98	SK-128	第2層	黒色粘質土	—	405				
		98	SK-128	第4層	黒色粘砂	—	426				
		98	SK-128	第2層	黒色粘質土	—	424				
特殊071	MP-特殊-0199	72	SD-109	第3層	灰黒粘	その2	337	Ⅴ-1	長(15.1)、幅(9.4)、 高(12.6)		98
		76	SD-1111	第3層	黒褐色粘砂	—	232				
		76	SD-1111	第2層	黒褐色粘質土	—	135				
特殊072	MP-特殊-0217	63	SD-103A	第2層	灰黒粘	—	220	Ⅴ	口径17.3、高(18.3)、 幅(31.1)		99
		63	SD-103A	第2(下)層	灰黒粘	—	253				
		63	SD-103A	第1(下)層	黒褐色粘質土	—	178				
		63	SD-103A	第1(下)層	黒褐色粘質土	その1	192				
		63	SD-103A	第2層	灰黒粘	土-273	245				
		63	SD-103A	第1(下)層	黒褐色粘質土	—	189				
63	SD-103A	第2層	灰黒粘	—	214						
特殊073	MP-特殊-0078	47	SD-2121	第1層	暗灰褐色砂質土	土-01	72	Ⅴ	高(22.7)、胴径19.0、 裾径13.7		99
特殊074	MP-特殊-0212	40	SD-102	第3層	—	土-366	171	Ⅵ-4	高(15.7)、胴径18.5、 底径3.5		100
		40	SD-102	第3層	—	土-362	171				
		40	SD-102	第3層	—	土-364	171				
		40	SD-102	第3層	—	土-304	171				
特殊075	MP-特殊-0073-1	61	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	155	布留1	高(5.9)、幅(7.8)		100
	MP-特殊-0073-2	61	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	173		長(4.0)、幅(3.7)		
	MP-特殊-0073-3	61	—	—	黒褐色土Ⅱ	—	173		長(3.2)、幅(3.3)		
特殊076	MP-特殊-0031-1	65	SD-123	第1層	黒褐色土	土-197	870	Ⅴ	長(5.1)、幅(12.9)		101
	MP-特殊-0031-2	65	—	—	黒褐色土	—	950		長(6.3)、幅(11.7)、 高(5.6)		
		65	—	—	黒褐色土	—	960				
特殊077	MP-特殊-0017	61	SD-104	第4層	黒粘	—	211	Ⅳ-2	長(7.3)、幅(11.7)、 高(5.6)		101
特殊078	MP-特殊-0136	65	—	—	黒褐色土	—	180	中期末~ 後期初頭	長(4.6)、幅(7.6)、 高(5.0)		102
		65	—	—	茶灰色粘質土	—	801				
特殊079	MP-特殊-0238	40	SD0101	西壁Sec. 第3層	—	—	288	Ⅴ-1	長(6.3)、幅(5.5)、 高(5.0)		102
特殊080	MP-特殊-0137	61	SD-101B	第4層	黒色粘砂	—	88	Ⅴ-1	長(7.8)、幅(9.3)、 高(2.2)		102
特殊081	MP-特殊-0032	70	SR-101	第4層	—	土-401	23	Ⅳ	高7.8、胴径5.4		103
特殊082	MP-特殊-0153	23	SK-153	第3層	灰粘	土-303	550	Ⅰ-2	口径11.7、高6.8、 底径5.2		103
特殊083	MP-特殊-0192	38	SK-205 ・206	第2層	黒灰粘	—	138	Ⅰ-2	高10.6、幅(6.8)、 厚0.8		103
		38	SK-205	第1層	暗灰褐色粘質土	—	136				
特殊084	MP-特殊-0237	47	SD-2102	第2・3層	崩壊土	—	497	Ⅵ-4	口径8.5、高11.5、 胴径9.1		104
特殊085	MP-特殊-0190	65	SK-102	第1層	黒褐色土	—	1145	Ⅵ-3・4	高(8.2)、幅(15.3)		104
特殊086	MP-特殊-0123	34	SD-102	第1(下)層	黒褐色粘質土	—	44	Ⅵ-4	口径13.4、高13.2、 胴径12.9		104
特殊087	MP-特殊-0189	75	SD-101	第3-b層	茶灰色粘質土	—	89	Ⅵ-4	長(7.3)、幅(9.6)、 厚0.7		105
特殊088	MP-特殊-0076	33	SK-124	第4-b層	暗茶褐粘	土-401	680	Ⅲ-3	高(38.3)、胴径27.8、 底径7.8		105
特殊089	MP-特殊-0127	69	SK-1137	第3-b層	明黄色砂質土	—	2087	Ⅲ-3	長(9.9)、幅(9.3)、 厚0.8		105
特殊090	MP-特殊-0128	69	SK-1137	第5(下)層	モミ層 (灰粘混)	—	2062	Ⅲ-3	高(12.6)、幅(18.9)、 厚0.7		106
特殊091	MP-特殊-0042	20	SK-103	第2層	黒褐色粘質土	土-219	172	Ⅲ-1	高(8.4)、幅(14.5)		106
		20	SK-103	第2層	黒褐色粘質土	—	751				
		20	SK-103	第2層	黒褐色粘質土	—	100				
		20	SK-103	第2層	黒褐色粘質土	—	90				
		20	SK-103	第2層	黒褐色粘質土	土-206	109				
20	SK-103	第2層	黒褐色粘質土	土-204	109						
特殊092	MP-特殊-0191	91	SD-103	第2層	—	土-1225	727	庄内	高(4.2)、幅(8.7)、 厚0.4		106

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
特殊093	MP-特殊-0079	23	SK-152・ 153・154	第1層	暗黄灰色土	—	253	Ⅱ-2	高(2.7)、幅(7.9)、 底径5.5		107
特殊094	MP-特殊-0218	34	SD-102C	第6層	植物層	—	91	Ⅲ-3 ・4	高(4.9)、幅(11.1)、 底径8.4		107
特殊095	MP-特殊-0224	58	SX-101	第5層	暗灰色細砂	—	326	Ⅱ-3	高(4.4)、幅(9.1)、 底径4.8		107
特殊096	MP-特殊-0034	97	SD-1101	第2層	黒褐色粘質土 (砂混)	—	6	Ⅲ-3	口径※20.6、高(5.5)、 幅(15.0)		108
特殊097	MP-特殊-0188	19	SK-105	第1層	灰黒色粘質土	土-102	193	Ⅲ-3	高(5.7)、幅(9.5)、 底径5.0		108
特殊098	MP-特殊-0018-1	19	SD-204	第5層	灰黒色粗砂	G-503	748	Ⅳ	長(20.0)、幅(15.7)、 厚1.4	粘土補修痕有	108
	MP-特殊-0018-2	19	SD-204	第5(下)層	黒褐色砂質土	—	799		長(15.4)、幅(22.0)、 厚1.2		
		19	SD-204	第5層	灰黒色粗砂	G-506	751				
	MP-特殊-0018-3	19	SD-204	第7層	暗褐色粘砂	—	711		長(16.0)、幅(19.7)、 厚1.1	粘土補修痕有	
		19	SD-204	第5層	灰黒色粗砂	—	758				
	MP-特殊-0018-4	19	SD-204	第5層	灰黒色粗砂	—	803		長(16.0)、幅(17.7)、 厚1.1		
	MP-特殊-0018-5	19	SD-204	第7層	暗褐色粘砂	—	711		長(15.8)、幅(15.7)、 厚1.0		
	MP-特殊-0018-6	19	—	—	黄褐色土	—	546		長(8.3)、幅(10.3)、 厚1.2		
MP-特殊-0018-7	19	SD-204	第5層	灰黒色粗砂	G-507	752	長(6.8)、幅(5.2)、 厚1.1				
MP-特殊-0018-8	13	SD-06C	第5層	粗砂	—	356	長(5.8)、幅(4.7)、 厚1.3				
特殊099	MP-特殊-0187	65	SK-105	第5(下)層	灰黒色粘砂	—	427	Ⅳ	長(9.3)、幅(10.6)、 厚1.0		109
特殊100	MP-特殊-0131	26	SK-2106	第3(下)層	黒粘	その2	506	Ⅱ-2	長(3.8)、幅(5.2)、 厚0.7		109
特殊101	MP-特殊-0080	48	SD-C・201	第7層	暗灰褐粘 (植物混)	その2	140	Ⅲ-1	高(5.5)、幅(23.0)、 裾径※23.8		109
特殊102	MP-特殊-0091	19	SD-204	第10層	黒粘	—	859	Ⅲ-1	長6.6、幅4.6、 厚2.0		110
特殊103	MP-特殊-0092	20	SX-102	第1(下)層	黒褐色粘質土	—	127	V?	長3.7、幅7.4、 厚5.2		110
特殊104	MP-特殊-0223	79	SD-103	第5-b層	灰粘(砂混)	—	268	前期	高(4.3)、幅(11.5)、 底径9.9		110
特殊105	MP-特殊-0043	20	SX-101	第6層	灰黒色砂質土	土-640	429	Ⅲ-1	口径23.3、高43.7、 胴径23.7		111
特殊106	MP-特殊-0130	79	SK-113	第2層	—	土-201	390	Ⅲ-1	高18.7、胴径28.5、 底径7.4		111
特殊107	MP-特殊-0044	47	SD-2101	第8層	—	土-852	192	V-1	高19.5、胴径15.8、 底径6.1		112
特殊108	MP-特殊-0140	79	SK-118	第4層	—	土-401	442	Ⅲ-1	口径18.0、高13.2、 底径9.7		112
特殊109	MP-特殊-0193	33	SK-134	第4層	灰黒粘	土-401	515	Ⅲ-1	口径5.3、高(14.5)、 胴径16.0		112
		33	SK-134	第4層	灰黒粘	土-402	515				
		33	SK-134	第2層	灰粘	—	499				
		33	SK-134	第3層	モミ層	その6	504				
特殊110	MP-特殊-0071	20	SK-107	第5層	黒粘	土-502	199	Ⅲ-3	口径※13.6、高24.7、 胴径19.6	内蔵のト骨(M K-ト骨-0002) は現在別置	113
		20	SD-2105	第1層	黒粘	—	218				
		20	SK-107	第5層	黒粘	土-504	199				
		20	SK-107	第5層	黒粘	土-503	199				
特殊111	MP-特殊-0045	23	SD-203	第5層	灰黒色砂質土	土-503	275	Ⅰ-2	高32.5、胴径26.6、 底径8.0	内蔵の2個体分 のネズミ骨(M B-骨類-0073・ 0074)は現在 別置	113
		23	SD-203	第5層	灰黒色砂質土	土-512	275				
		23	SD-203	第5層	灰黒色砂質土	—	295				
特殊112	MP-特殊-0074	20	SX-201	第6層	黄褐色細砂	土-601	644	Ⅱ-3	口径28.6、高36.0、 胴径36.5		113
特殊113	MP-特殊-0050	50	SK-105	第1層	—	土-103	424	Ⅲ-1	口径38.1、高40.0、 胴径42.3		114
	MP-特殊-0051	50	SK-105	第1層	—	土-102	1225		長(25.5)、幅(32.7)、 厚0.7		
特殊114	MP-特殊-0142	69	SK-1130	第6層	—	土-601	1836	Ⅲ-3	口径33.0、高19.3		114
特殊115	MP-特殊-0141	69	SK-1130	第12層	—	土-1201	1985	Ⅲ-3	口径39.1、高47.7、 胴径42.9		114
		69	SK-1130	第8層	黒灰粘	その1	1983				
		69	SK-1130	第5(下)層	—	土-579	1761				
特殊116	MP-特殊-0054-1	50	SK-106	第1層	—	土-101	320	Ⅲ-1	口径※40.0、高88.9、 胴径67.7		115
		50	SD-106	第3(上)層	灰黒色砂質土	—	165				
		50	SD-106	第3(上)層	灰黒色砂質土	—	164				
		50	SD-106	—	灰白色粗砂上位	—	415				
	MP-特殊-0054-2	50	SK-106	第1層	—	土-101	320		高(8.3)、幅(23.7)、 底径16.6		

2. 遺物一覧表

掲載番号	管理番号 (Mコード)	調査 回数	遺構名	層位	土色	取上	No	様式/ 時期	法量	備考	掲載 ページ
特殊117	MP-特殊-0048	19	SX-202	第4層	—	土-402	899	Ⅲ-3	口径24.6、高50.5、 胴径36.0		115
特殊118	MP-特殊-0047	19	SX-202	第4層	—	土-401	898	Ⅲ-3	口径36.2、高48.5、 胴径38.7		115
		19	SX-202	第4層	—	土-402	898				
		19	SX-202	第1・2層	—	—	886				
		19	SX-202	第1層	灰茶色粗砂	—	894				
		19	SD-202	第1-b層	黒褐色土	土-101	895				
		19	SD-202	第1-b層	黒褐色土	土-102	895				
19	SD-202	第4層	—	土-402	899						
特殊119	MP-特殊-0102	50	SX-101	—	—	土-101	122	Ⅳ-1	高31.9、胴径29.0、 底径7.4		116
特殊120	MP-特殊-0103	50	SX-101	—	—	土-101	122	Ⅳ-1	口径19.2、高40.1、 胴径34.0		116
特殊121	MP-特殊-0239	13	SX-101	第1層	—	土-101	638	Ⅳ	口径※33.5、高49.5、 胴径※39.0、底径9.0 長※32.8、幅(38.0)、 高※13.6		117
	MP-特殊-0240	13	SX-101	第1層	—	土-102	638				
特殊122	MP-特殊-0225	69	SX-1101	第1層	—	土-101	769	Ⅵ-2	高54.0、胴径40.5		117
		69	SX-1101	第1層	—	土-107	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-108	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-106	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-103	769				
		69	SX-1101	第1層	暗褐色粘質土	—	811				
		69	SX-1101	第1層	—	土-117	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-116	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-114	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-115	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-109	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-113	769				
特殊123	MP-特殊-0226	69	SX-1101	第1層	—	土-119	769	Ⅵ-2	口径27.0、高7.8		117
		69	SX-1101	第1層	—	土-102	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-118	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-113	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-116	769				
		69	SX-1101	第1層	—	土-104	769				
特殊124	MP-特殊-0108	20	SK-215	第2(下)層	灰黒粘	土-275	705	Ⅰ-2	口径17.0、高(9.8)		118
		20	SK-215	第2層	灰黒粘	—	673				
特殊125	MP-特殊-0221	20	SK-215	第4層	灰粘	—	713	Ⅰ-2	長(10.0)、幅(8.0)、 厚0.8		118
特殊126	MP-特殊-0222	37	SK-2202	第1層	暗灰青粘	—	691	Ⅰ-2	長(7.9)、幅(9.8)、 厚0.8		118
特殊127	MP-特殊-0219-1	33	SK-120	第2層	灰粘	土-228	460	Ⅳ-1	口径19.8、高(40.3)、 胴径(28.2)		119
		33	SK-120・ SD-115	第2層	灰粘	—	179				
		33	SK-120	第1層	炭灰層	土-151	421				
		33	SK-120	第1・2層	—	—	391				
		33	SK-120	第1層	炭灰層	土-149	421				
		33	—	第Ⅳ層	黒褐色粘質土	—	377				
		33	SK-120	第1層	炭灰層	その3	1153				
		33	SK-120	第1層	炭灰層	土-150	421				
	33	SK-120	第2層	灰粘	土-220	460					
	MP-特殊-0219-2	33	SK-120・ SD-115	第2層	灰粘	—	179		長(9.0)、幅(8.5)、 厚0.8		
MP-特殊-0219-3	33	SK-120	第1層	炭灰層	その3	1153	長(9.8)、幅(7.6)、 厚0.8				
MP-特殊-0219-4	33	SK-120	第1層	炭灰層	土-151	421	長(8.9)、幅(7.9)、 厚0.7				
	33	—	第Ⅳ層	黒褐色粘質土	—	377					
MP-特殊-0219-5	33	SK-120・ SD-115	第2層	灰粘	—	179	長(6.4)、幅(5.7)、 厚0.6				
特殊128	MP-特殊-0049-1	33	Pit-111	第1層	—	土-103	174	Ⅳ-1	摘み部径7.6、高14.7、 裾径※37.5		119
		33	Pit-111	第1層	—	土-104	174				
		33	Pit-111	第1層	—	土-113	174				
		33	Pit-111	第1層	—	—	173				
		33	Pit-111	第2層	—	—	183				
	MP-特殊-0049-2	33	Pit-111	第1層	—	—	173		長(8.5)、幅(6.6)、 高(2.3)		
特殊129	MP-特殊-0220	33	SD-115・ SK-120	第2層	灰粘	—	179	Ⅳ-1	口径13.2、高23.2、 胴径※16.6		119
		33	SD-115	第1(下)層	黒色粘質土	—	389				

註 法量の()は残存値、※は復元値を表す。

【論文】

松本洋明・藤田三郎「大和地方」寺澤薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年 近畿編 I』1989
大和弥生文化の会『奈良県の弥生土器集成』大和の弥生遺跡 基礎資料 II 2003

【報告書】

末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第 16 冊
1943
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 I 一範囲確認調査一 遺構・主要遺物編』田原本町埋蔵文化財調査報告書
第 5 集 2009
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 I 一範囲確認調査一 写真図版編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集
2009
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 I 一範囲確認調査一 特殊遺物・考察編』田原本町埋蔵文化財調査報告書
第 5 集 2009

【概報】

田原本町教育委員会「昭和 57 年度 唐古・鍵遺跡第 13・14・15 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概
要 1』1983
田原本町教育委員会「昭和 58 年度 唐古・鍵遺跡第 16・18・19 次発掘調査概報 黒田大塚古墳第 1 次発掘調
査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 2』1984
田原本町教育委員会「昭和 59 年度 唐古・鍵遺跡第 20 次発掘調査概報 黒田大塚古墳第 2 次発掘調査概報」『田
原本町埋蔵文化財調査概要 3』1986
田原本町教育委員会「昭和 60 年度 唐古・鍵遺跡第 22・24・25 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概
要 4』1986
田原本町教育委員会「唐古・鍵遺跡第 21・23 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 6』1987
田原本町教育委員会「昭和 61 年度 唐古・鍵遺跡第 26 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 7』
1987
田原本町教育委員会「昭和 61 年度 唐古・鍵遺跡第 27・28 次発掘調査概報 黒田大塚古墳第 3 次発掘調査概報」
『田原本町埋蔵文化財調査概要 8』1987
田原本町教育委員会「昭和 61 年度 唐古・鍵遺跡第 29・30 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要
9』1987
田原本町教育委員会「昭和 62・63 年度 唐古・鍵遺跡第 32・33 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概
要 11』1989

【年報】

田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 1 1988・1989 年度』1990
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 2 1990 年度』1991
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 3 平成 3 年度』1992

3. 文献（発掘調査関係）

- 田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 4 1992・1993 年度』 1994
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 5 1994・1995 年度』 1996
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 6 1996 年度』 1997
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 7 1997 年度』 1998
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 8 1998 年度』 1999
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 9 1999 年度』 2000
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 10 2000 年度』 2001
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 11 2001 年度』 2002
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 12 2002 年度』 2003
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 13 2003 年度』 2004
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 14 2004 年度』 2006
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 21 2011 年度』 2013
田原本町教育委員会 『田原本町埋蔵文化財調査年報 23 2013 年度』 2015

【図録等】

- 飯田恒男 『大和唐古石器時代遺物図集』 1929
田原本町 『唐古・鍵遺跡発掘調査 50 周年記念 唐古・鍵ムラの弥生人』 1986
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 『唐古・鍵弥生遺跡調査 50 年史』 『奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・特別陳列解説』 1986
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・田原本町教育委員会 『平成 8 年度春季特別展 弥生の風景 唐古・鍵遺跡の発掘調査 60 年』 1996
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 『唐古・鍵遺跡』 『橿原考古学研究所 50 周年記念特別展 石舞台から藤ノ木古墳』 1988
田原本町教育委員会 『唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録』 2004
田原本町教育委員会 『たわらもと 2005 発掘速報展』 唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.1 2005
田原本町教育委員会 『唐古・鍵遺跡と周辺の弥生遺跡』 唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.2 2005
田原本町教育委員会 『ヤマト王権はいかにして始まったか～弥生の王都 唐古・鍵～』 唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.6 2007
田原本町教育委員会 『弥生デザイン』 唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.8 2008
田原本町教育委員会 『弥生エッセンス～その技と美～』 唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.13 2011
田原本町教育委員会 『弥生遺産』 唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.16 2013
田原本町教育委員会 『唐古・鍵遺跡 Vol.1 概説編』 田原本の遺跡 1 1999
田原本町教育委員会 『唐古・鍵遺跡 Vol.2 土器編』 田原本の遺跡 2 1998
田原本町教育委員会 『2000 年の時間を超えて 唐古・鍵遺跡 Vol.3 概説編 2』 田原本の遺跡 3 2000
田原本町教育委員会 『弥生の王都 唐古・鍵』 田原本の遺跡 6 2013
田原本町教育委員会 『ミュージアムコレクション Vol.1』 2007
田原本町教育委員会 『ミュージアムコレクション Vol.2』 2009

附

田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.3』2010

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 考古資料目録 I 一土器編 1 (絵画・記号・文様) 一』2015

唐古・鍵遺跡
考古資料目録Ⅱ

—土器編2（弥生・搬入・特殊）—

平成28年3月28日

編集・発行／田原本町教育委員会
奈良県磯城郡田原本町大字阪手347-1

印刷・製本／株式会社明新社
奈良県奈良市南京終町3-464